

iGrafx FlowCharter 2013

(c) 2012 iGrafx, LLC.
All rights reserved.



オペレーションガイド

「iGrafx FlowCharter オペレーションガイド」 Copyright©2013 by SunPlanningSystems, Inc. All rights reserved.
(株) サン・プランニング・システムズの書面による事前の許可がある場合を除き、本書の一部または全体を複製したり、電送することはできません。また、記憶装置に保存したり、他言語に翻訳することも禁止されています。



2013/02/15 Ver. 8.1
(株)サン・プランニング・システムズ BPM 推進事業部

目次

第 1 章	iGrafx FlowCharter を利用する	7
1.	機能概要	7
1.1	iGrafx FlowCharterとiGrafx Processの関係.....	7
1.2	基本図表とプロセス図表	7
1.3	起動と終了.....	8
1) 1)	ファイルを開く	8
1) 2)	ファイルを閉じる	8
1.4	図表の種類.....	9
1.5	他形式のファイルの読み込み.....	10
2.	画面構成	11
2.1	ツールバーの利用.....	11
2.2	エクスプローラバーの利用	13
2.3	パレットウィンドウの利用	14
1) 1)	図形パレット	14
1) 2)	書式.....	16
1) 3)	テーマ	16
第 2 章	フローチャートの作成	18
1.	基本操作	18
1.1	図表の操作.....	18
1) 1)	図表の追加・変更	18
1) 2)	図表の表示切り替え	19
1.2	部門	20
1) 1)	部門の挿入	20
1) 2)	部門の編集	22
1) 3)	部門マネージャ	25
1.3	図形の配置.....	26
1) 1)	図形の選択	26
1) 2)	図形の配置	27
1) 3)	グラフィック図形の配置	29
1) 4)	図形のテキスト入力	30
1) 5)	図形の編集	31
1.4	接続線.....	33
1) 1)	接続線を引く	33
1) 2)	接続線の編集	34
1) 3)	ケーステキスト.....	36
1) 4)	接続ルールの変更	38
1.5	複数選択	39
1.6	図形の置換.....	40

1.7	図形の整形.....	40
1)	グリッドの利用.....	40
2)	整形機能を利用する.....	42
1.8	テキスト.....	45
1)	テキストブロック.....	45
2)	コールアウト線.....	46
3)	補助線の利用.....	47
1.9	フェーズ.....	47
1.10	図表全体の書式設定.....	48
1)	プロセス.....	48
2)	フェーズ.....	49
3)	枠と区切り記号.....	49
4)	ページ外コネクタ.....	50
5)	接続線.....	50
6)	インジケータ.....	51
7)	ドキュメントのデフォルト.....	51
2.	便利な機能.....	52
2.1	画面の表示.....	52
1)	表示倍率の変更.....	52
2)	クイックズーム.....	53
3)	全画面表示.....	53
4)	ウィンドウの分割.....	54
5)	表形式の利用.....	54
2.2	メモ.....	55
2.3	リンク.....	56
1)	図表リンク.....	57
2)	ファイルまたはWebページリンク.....	57
3)	サブ図表の追加.....	58
4)	リンク表示の変更.....	58
2.4	カスタムデータ.....	59
1)	カスタムデータの作成.....	59
2)	カスタムデータフィールドの一覧表示.....	59
3)	カスタムデータ概要の利用.....	60
2.5	フィールド.....	61
1)	新規フィールドの作成.....	61
2)	フィールドの追加.....	61
2.6	文字の検索と置換.....	62
1)	検索.....	62
2)	置換.....	62
2.7	図形番号.....	63

1)	図形番号の表示.....	63
2)	図形番号の並べ替え.....	64
3)	表示位置を変更する.....	65
3.	その他の機能.....	66
3.1	レイヤの使用.....	66
1)	レイヤの追加.....	66
2)	レイヤの編集.....	67
3)	オブジェクトのレイヤ移動.....	67
4)	レイヤマネージャの利用.....	67
3.2	マスターページの使用.....	68
3.3	ドキュメントの保護.....	69
3.4	言語設定.....	69
1)	アプリケーション言語切替.....	69
2)	他言語の設定.....	69
第3章	印刷と保存.....	71
1.	印刷.....	71
1.1	ページ設定.....	71
1)	ページ.....	72
2)	余白・ヘッダー・フッター.....	72
3)	ウォーターマーク.....	73
4)	制限.....	74
5)	オプション.....	74
1.2	印刷対象の選択.....	75
2.	保存.....	76
2.1	iGrafx形式.....	76
2.2	他のファイル形式.....	76
1)	Web形式.....	76
2)	Word形式.....	77
3)	PowerPoint形式.....	78
4)	PDF形式.....	78
2.3	Webプロジェクト.....	79
2.4	自動保存.....	81
第4章	図形集とiGrafxテンプレートの作成.....	82
1.	図形集の作成.....	82
1)	個人用メディアコレクションの作成.....	82
2)	コレクションおよびサブジェクトの共有.....	84
2.	iGrafxテンプレートの作成.....	86
2.1	図形ライブラリ.....	86
1)	図形の追加.....	86
2)	図形の編集.....	86

2.2	線ライブラリ	87
1)	線の追加.....	87
2)	線の編集.....	87
3)	線ライブラリ項目にグラフィックを添付する.....	88
2.3	iGrafxテンプレートに定義する項目	88
1)	iGrafxテンプレートファイルを保存する	89
2)	iGrafxテンプレートを利用する.....	89
3)	iGrafxテンプレートを共有する.....	90
4)	個人用テンプレートのディレクトリを変更する	90
第5章	練習問題.....	91
1.	プロセス図表を作成する	91
2.	SOX+用フローを作成する.....	92

第 1 章 iGrafx FlowCharter を利用する

1. 機能概要

iGrafx FlowCharter は、使いやすいビジネスグラフィックソリューションです。

組織の各担当者は、この直感的なソリューションを使用して、プロセスマップ、ネットワーク図表、組織図、自由形式図表、体系的な図表、プレゼンテーション図表などを作成することができます。業務マニュアルを作成するのに適した機能や、BPMN 対応機能も含まれています。

iGrafx Process (シミュレーションツール) でそのまま使える、プロセスという構成要素で作成したフローには、処理工程に関するさまざまなデータを組み込み、プロセスモデルを作成することが可能です。たとえば、工程ごとの所要期間、入出力、スケジュール、費用、およびリソースの有無などのデータを定義します。ただし iGrafx FlowCharter のライセンスのみでは、シミュレーションそのものは実行できません。

シミュレーションを実行するには、iGrafx Process または iGrafx Process for SixSigma のライセンスが必要です。

プロセス図表では、一連の動作が図形で表され、接続線でリンクされています。プロセス図表の各ステップをアクティビティと呼びます。※通常、シミュレーションを行わない場合にプロセス図表は使用しません。

1.1 iGrafx FlowCharter と iGrafx Process の関係

iGrafx FlowCharter は、プロセスマッピングとプロセスモデリングを行うための信頼性の高いソフトウェア環境です。

iGrafx Process は、プロセスマッピングとプロセスシミュレーションを行うのに最適な環境です。

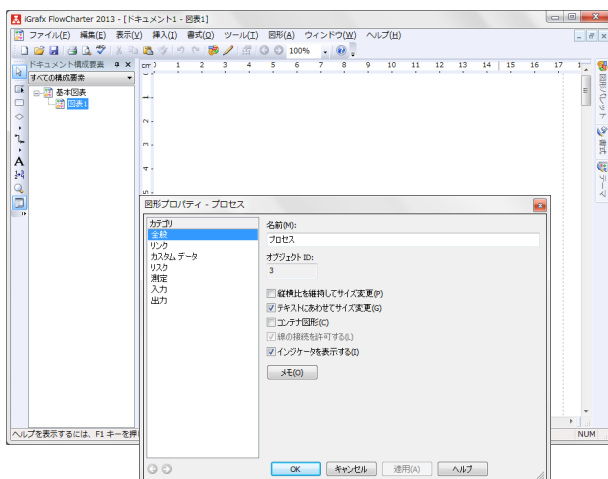
iGrafx FlowCharter は、iGrafx Process に対するグラフィックインターフェイスで、iGrafx Process は動作に関するモデリングとシミュレーションを行うためのシステムです。

1.2 基本図表とプロセス図表

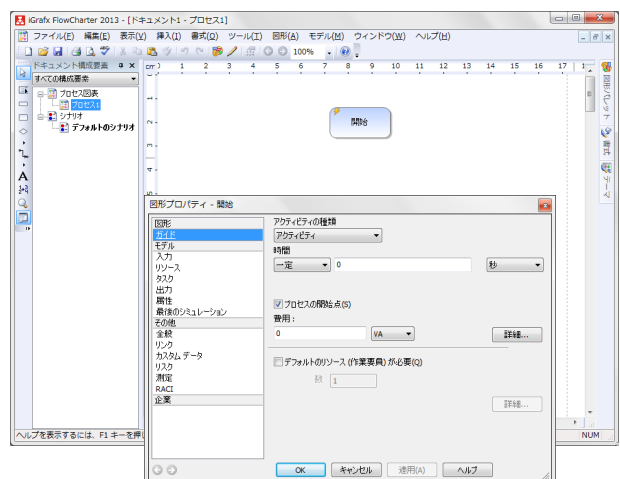
基本図表は、あらゆる用途に合わせて自由に作成することができる図表です。プロセス図表は、シミュレーションをし、業務分析を行うことができるので基本図表に比べ入力項目が多く複雑です。

基本図表で作成した図表は、後からプロセス図表に変更することができます。用途に合った図表をご利用ください。

【基本図表】



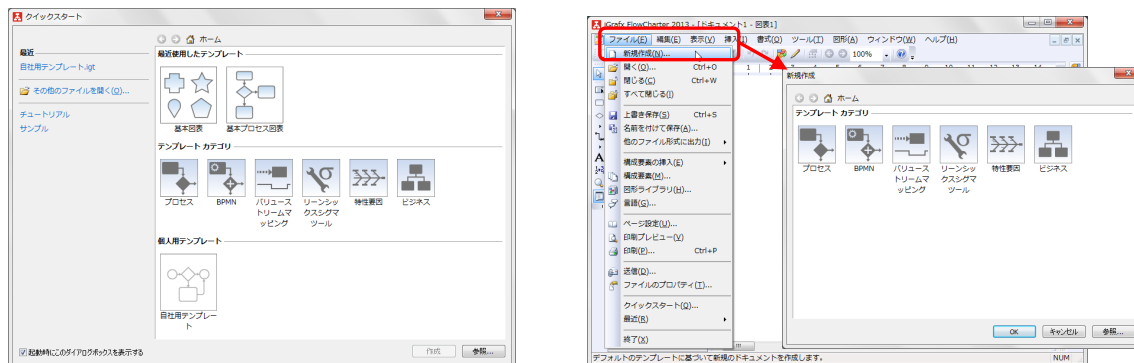
【プロセス図表】



1.3 起動と終了

1) ファイルを開く

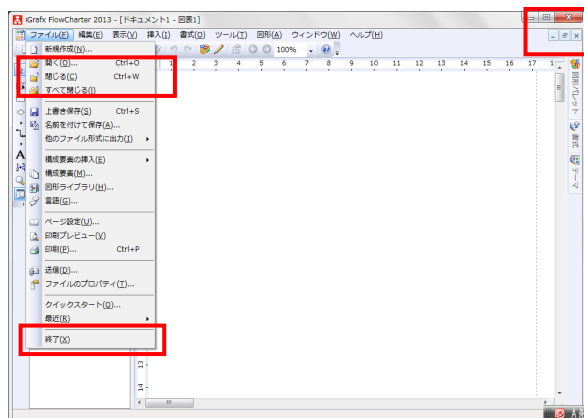
iGrafx FlowCharter を起動すると、ファイルを開くための「クイックスタート」画面が表示されます。画面左下の「起動時にこのダイアログボックスを表示する」のチェックを外すと、次回起動時より表示されず、自動的に新規基本図表が開きます。その場合「ファイル」メニューのより「新規作成」画面を開くことができます。



メニュー項目	説明
最近	最近開いたファイルが表示されます。 「ファイル」メニューの「最近」にも表示されます。
その他のファイルを開く	既存のファイルを開きます。 「ファイル」メニューの「開く」からでも同様に開くことができます。
最近使用したテンプレート	最近使用したテンプレートが表示されます。 右クリックをして表示されるメニューより、テンプレートをリストに固定したり、リストから削除したり、固定が解除されたテンプレートをまとめてリストから削除することができます。
テンプレートカテゴリ	6つのテンプレートカテゴリが表示されます。 任意のカテゴリをクリックすると、テンプレートが表示されます。
個人用テンプレート	個人用テンプレートが表示されます。

2) ファイルを閉じる

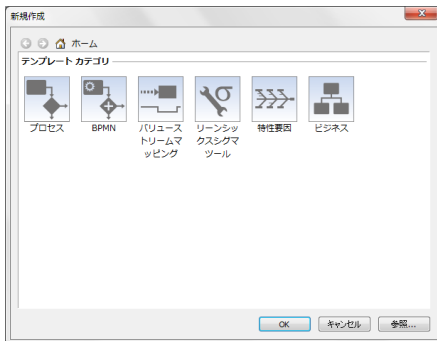
iGrafx FlowCharter では「ファイル」メニューまたは右上の×ボタンより、図表単位、ファイル単位、アプリケーション単位で閉じることができます。



メニュー項目	説明
内側の×ボタン	最前面に表示されている図表のみを閉じます。
閉じる	最前面に表示されている図表を含むファイルを閉じます。
すべて閉じる	開いている複数の図表を含むすべてのファイルを閉じます。
終了または外側の×ボタン	アプリケーションを閉じます。

1.4 図表の種類

iGrafx FlowCharter では、さまざまな用途に対応した図表が利用できます。これらを使用してフローチャートやプロセスマップなどを、自由に作成することができます。それぞれの図表では関連する図形パレットが開きます。



カテゴリ	主な図表の種類	説明
プロセス	基本プロセス図表	フローチャートを作成した後に、「iGrafx Process」を使用してシミュレーションを行う場合はこの図表を利用します。 プロセス図表は基本図表を基に作成されており、基本図表からプロセス図表へ変換することもできます。
BPMN	BPMN 基本プロセス	BPMN 標準に準拠した Correct-by-Construction 機能とリアルタイムエラー検査機能を使用して、プロセスをマップ、モデル、シミュレーションします。
バリュー ストリーム マッピング	リーンバリュー ストリームマップ	リーン アクティビティに割り当てられたカスタム リーン データを使用して、現在のプロセスのリーン バリュー ストリーム マップ (VSM) を描画します。タクト タイムや距離線など、分析用にさまざまなグラフを表示します。
	リーン拡張バリュー ストリームマップ	子プロセスから親図形へのデータ ロールアップを使用して、リーン拡張バリュー ストリーム マップ (例: 完全なサプライ チェーンのマップなど) を描画します。 ※この図表は、リーン VSM 図表を使用したテンプレートです。
リーンシッ クスシグマ ツール	レイアウト図表	現在の業務のレイアウト、すなわちリーン分析の物理的な構造を描画します。レイアウト図表を使用してスパゲッティ図を描画することもできます。 ※この図表は、基本図表を使用したテンプレートです。
	選択チャート	ラベルが表示された四分選択チャートを使用して、最適なオプションおよびソリューションを特定します。 ※この図表は、基本図表を使用したテンプレートです。
特性要因図	特性要因図	特性要因図を作成するのに特化した図表です。
ビジネス	組織図	組織図を作成するのに特化した操作性を保持しています。
	基本図表	自由な形式の図を作成するための空白のページです。 業務フローチャート (SOX+文書を含む) を作成する場合は、この基本図表を利用します。

1.5 他形式のファイルの読み込み

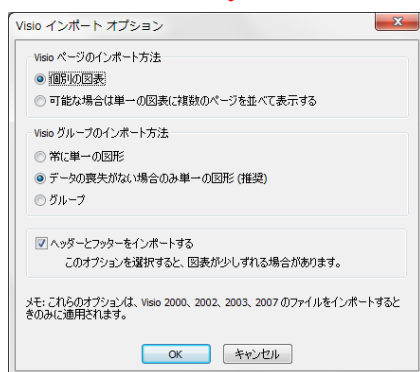
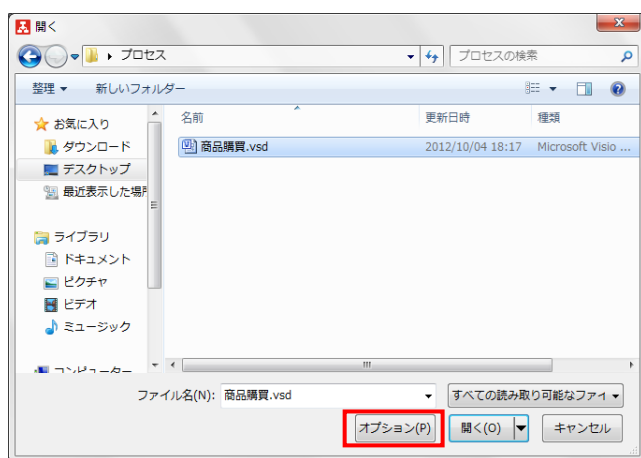
iGrafx FlowCharter では、iGrafx で作成したドキュメントおよびテンプレート以外の他形式のファイルも開くことができます。

対応している他形式のファイルは以下のとおりです。

- Micrografx FlowCharter ファイル
- Micrografx Optima2.5 ファイル
- Visio ファイル

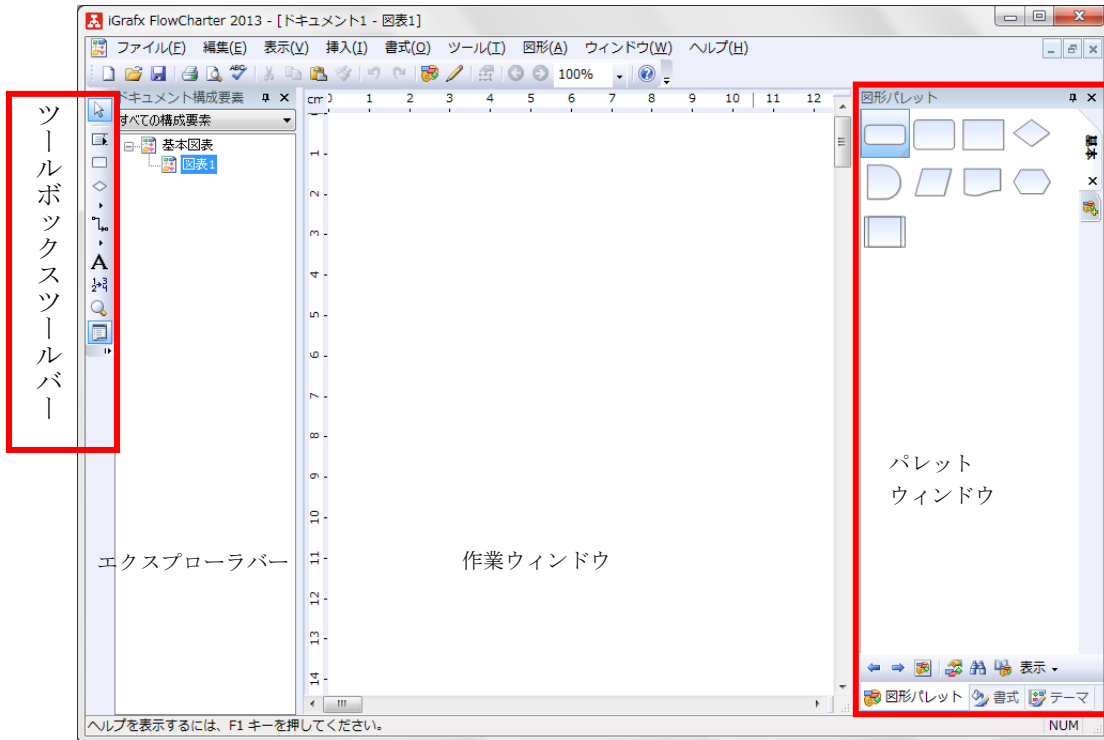
古いバージョンで作成した iGrafx ファイルを開く時は、図形や線はテキストやグラフィックの情報に沿って自動的に変換されます。


Visio ファイルの各ページは 単一または複数の iGrafx 図表に変換されます。「ファイルを開く」ダイアログボックスの「オプション」ボタンをクリックして、Visio ファイルのインポート設定を指定できます。



2. 画面構成

iGrafx FlowCharter には、作図のための各種ツールバーやウィンドウが用意されています。ここでは頻繁に利用するツールバーとウィンドウの名称、表示方法をご説明します。



「パレットウィンドウ」および「エクスプローラバー」には、タイトルバーにピンアイコン  が用意されています。

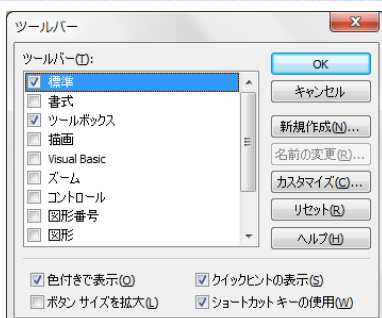
ピンアイコンをクリックすると「固定」「自動非表示」が切り替わります。

2.1 ツールバーの利用

ツールバーは、さまざまなショートカットアイコンの集合体です。用途に応じたツールバーを表示させておくと、メニューを調べず必要な作業をアイコンからすぐに行うことができます。また必要なアイコンを集めてオリジナルのツールバーを作成したり、既存のツールバーをカスタマイズすることもできます。









【表示手順】

「表示」メニュー — 「ツールバー」



◆ 「ツールボックス」 ツールバー

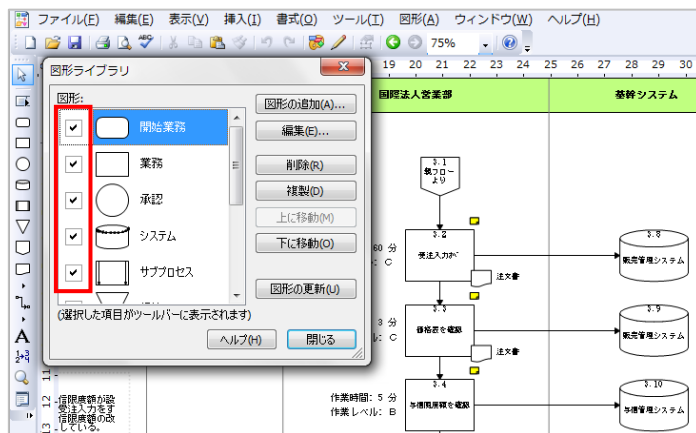
図表を作成するうえで、よく使用するアイコンが用意されています。

アイコン	説明
	選択ツール 描画した要素を選択、移動、サイズ変更します。また、図形間に線を描画します。
	部門 部門を追加または編集するための「部門」ダイアログボックスを開きます。
	開始 プロセス 決定 その他の図形 図形パレット同様、選択した図形を配置します。 ※開始図形は、プロセス図表のみ表示されます。 *図形下の矢印をクリックすると、図形ライブラリが開きます。
	接続線ツール 現在登録されている接続線の種類を表示します。選択した接続線で図形を接続します。 *接続線ツール下の矢印をクリックすると、線ライブラリが開きます。
	テキストツール テキストを入力または変更します。選択した図形にテキストを追加する場合は必要ありません。
	図形番号 図形番号の表示、非表示、書式設定、付け直しを行います。
	ズーム 画面の縮小拡大を行うズームツールを選択する場合に使用します。
	エクスプローラバー iGrafx エクスプローラ バーの表示と非表示を切り替えます。

➤ 【図形ライブラリ】

図形を登録、編集することができます。図形ライブラリには、登録した図形および図表に配置している図形が表示されます。図形にチェックを入れると「ツールボックス」ツールバーに表示されます。

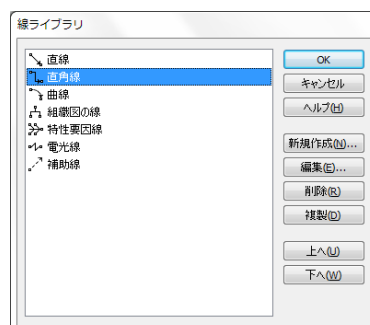
※詳細はP86をご覧ください。



➤ 【線ライブラリ】

接続線を作成、編集することができます。

※詳細はP87をご覧ください。



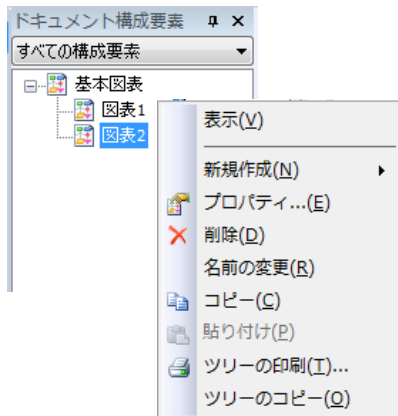
2.2 エクスプローラバーの利用

エクスプローラバーは、ファイルの構成要素を整理および表示することができます。

エクスプローラバーの中で右クリックした時に表示されるコンテキストメニューより、構成要素の表示、新規作成、削除、名前の変更、コピー、貼り付けなどがあります。

【表示手順】

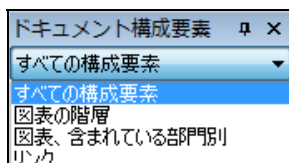
- ・「ツールボックス」ツールバー「エクスプローラバー」アイコン
- ・「表示」メニュー「エクスプローラバー」



コンテキストメニュー項目	説明
表示	選択した構成要素を作業ウィンドウに表示します。
新規作成	新しい構成要素を追加します。
プロパティ	図表レベルのプロパティを表示します。
削除	選択した構成要素を削除します。
名前の変更	選択した構成要素の名前を変更します。
コピー	選択した構成要素をコピーします。
貼り付け	コピーした構成要素を貼り付けます。
ツリーの印刷	エクスプローラバーのツリービュー全体を印刷します。
ツリーのコピー	エクスプローラバーのツリービュー全体をコピーします。

◆ 構成要素の表示を切替える

エクスプローラバーの初期設定は、「すべての構成要素」で表示しています。ドロップダウンリストで表示方法を変更することによって、ファイルの構成要素の表示を切り替えることができます。



表示方法	説明
すべての構成要素	ファイルに管理されている図表の種類と図表名を階層で表示します。
図表の階層	ファイル内のリンク関係にある図表を階層で表示します。
図表、含まれている部門別	ファイルに存在する部門を主体に、それらの部門を含む図表を階層で表示します。
リンク	リンク関係にあるファイルを階層で表示します。

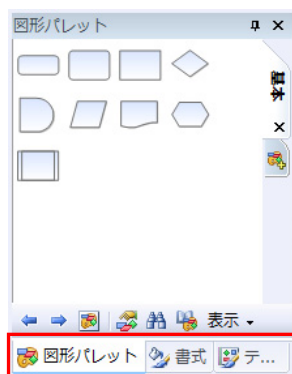
2.3 パレットウィンドウの利用

パレットウィンドウには、標準では「図形パレット」「書式」「テーマ」が表示されます。

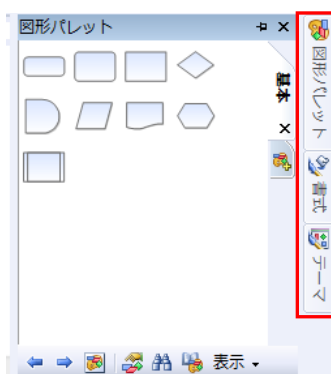
【表示手順】

「表示」メニューー「図形パレット」、「書式」、「テーマ」

【固定されている場合】



【自動非表示の場合】



1) 図形パレット

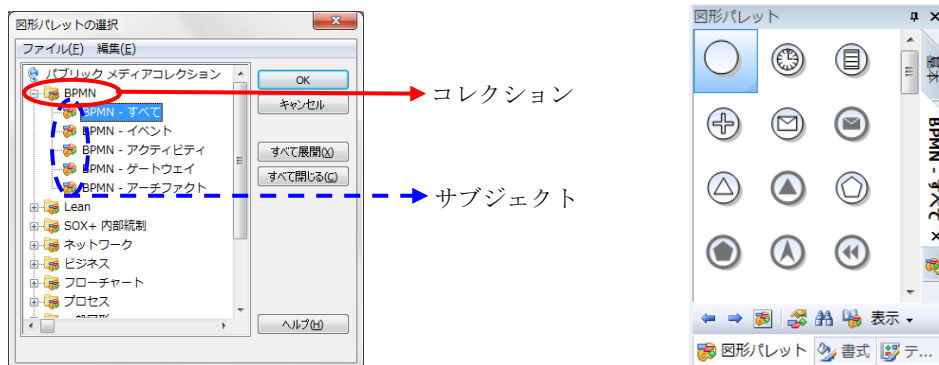
図形パレットには、さまざまな図表の種類に対応できるように、多種多様な図形が用意されています。

図形パレットでは既存の図形を利用するだけでなく、目的に応じたオリジナルの図形集を作成することもできます。

◆ 図形パレットの構成

図形パレットは以下の構成で整理されています。

図形パレットウィンドウには、選択した「サブジェクト」が表示されます。



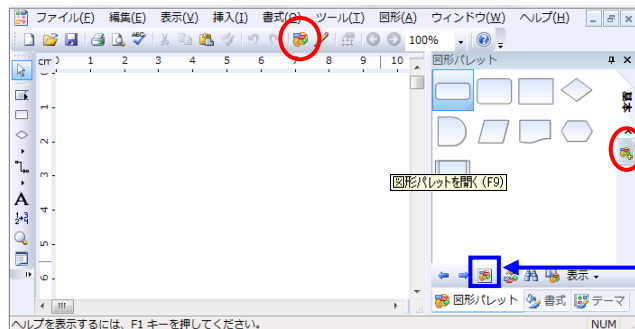
項目名	説明
パブリックメディアコレクション	iGrafx と同時にインストールされる図形集です。 ※図形の追加・編集はできません。
コレクション	インストールされる図形集を管理するフォルダです。
サブジェクト	インストールされる図形集です。「図形パレット」とも呼びます。
個人用メディアコレクション	ユーザーが作成したオリジナル図形集を登録できます。 ※図形の追加・編集ができます。
コレクション	ユーザーが作成した図形集を管理するフォルダです。複数のサブジェクトを登録できます。
サブジェクト	ユーザーが作成した図形集です。「図形パレット」とも呼びます。

◆ 図形パレットの表示

図形パレットウィンドウには、複数の図形パレット（サブジェクト）を表示させることができます。

図形パレット（サブジェクト）を開く方法は以下のとおりです

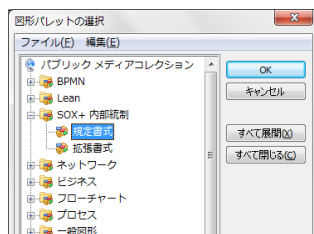
- ① 「図形パレットを開く」アイコンまたは「F9」ボタンを押下します。



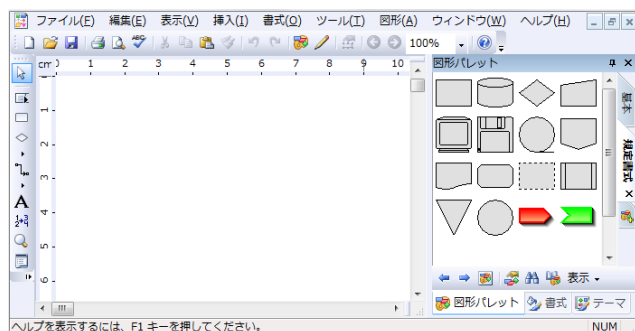
現在開いている図形パレットを別の図形パレットに変更します

- ② 「図形パレットの選択」ダイアログボックスが表示されます。

サブジェクトを選択し「OK」ボタンをクリックします。





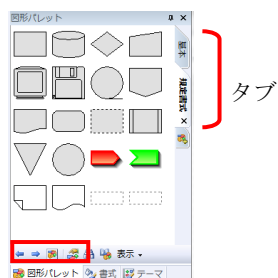
- ③ 図形パレットウィンドウに選択したサブジェクトが追加されます。



◆ 図形パレットの切り替え

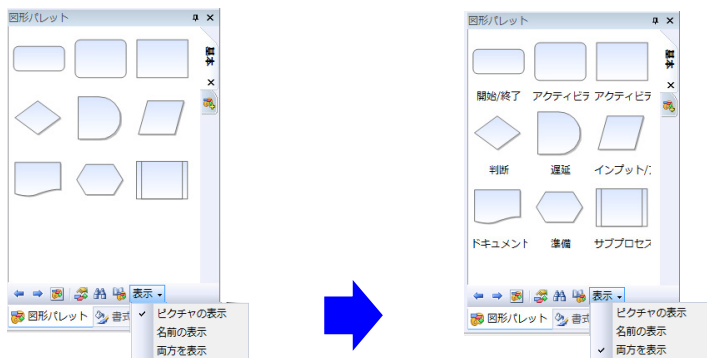
図形パレットの切り替え方法は以下のとおりです。

- ・ タブをクリックすると、開いている図形パレットを切り替えることができます。
- ・  矢印アイコンをクリックすると、現在開いている図形パレットを基準に「前のサブジェクト」「次のサブジェクト」が表示されます。
- ・  「図形パレットを開く」アイコンをクリックすると「図形パレットの選択」ダイアログボックスが開き、選択したサブジェクトに切り替えることができます。



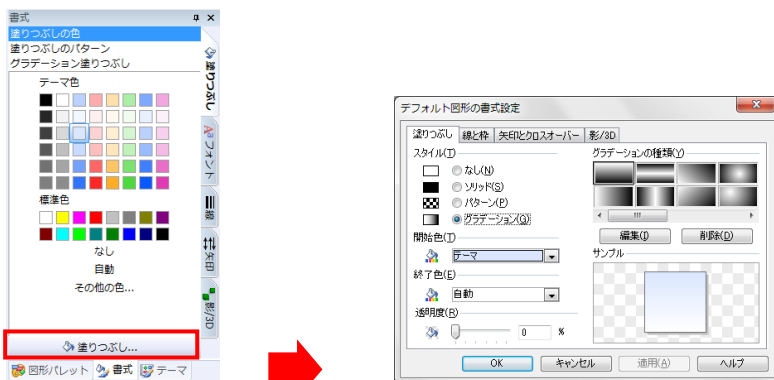
◆ 図形名称の表示

図形は、すべて名前を持っています。図形パレットウィンドウの「表示」メニューより「両方を表示」を指定すると、図形の下に図形名称が表示されます。



2) 書式

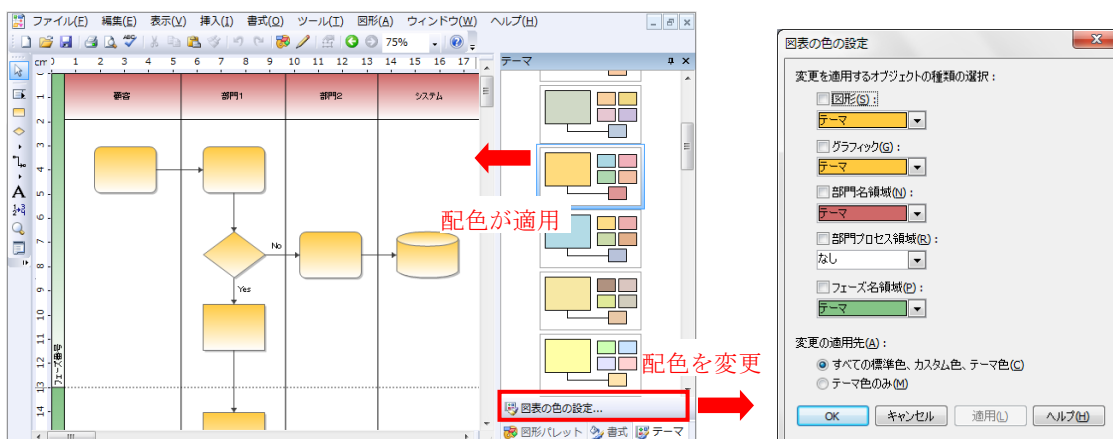
「書式」ウィンドウを利用すると、選択したオブジェクトに対して少ない手順でスムーズに書式の変更を行うことができます。「書式」ウィンドウでは「塗りつぶし」「フォント」「線」「矢印」「影/3D」のタブを切り替えて設定します。それぞれタブごとに詳細な書式設定ができるダイアログボックスを開くことができます。



🖱️ オブジェクトを選択せずに「書式」ウィンドウで設定を変更すると、初期設定値を変更したことになります。初期設定値を変更してしまった場合は、再度オブジェクトを選択せずに元の値を選択してください。

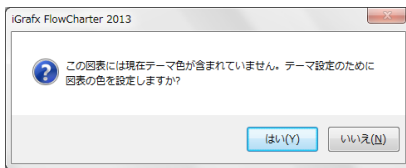
3) テーマ

テーマは、図表全体をあらかじめ用意された調和のとれた配色に関連付けることができる機能です。テーマを選択し描画すると、選択したテーマの配色が描画するオブジェクトに適用されます。また配色を変更することもでき、外観の調和を簡単に管理することができます。

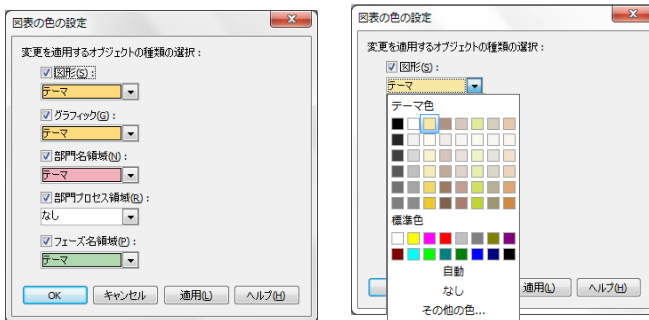


◆ 既存の図表にテーマを適用する

既存の図表を表示しテーマを指定すると以下のメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックします。

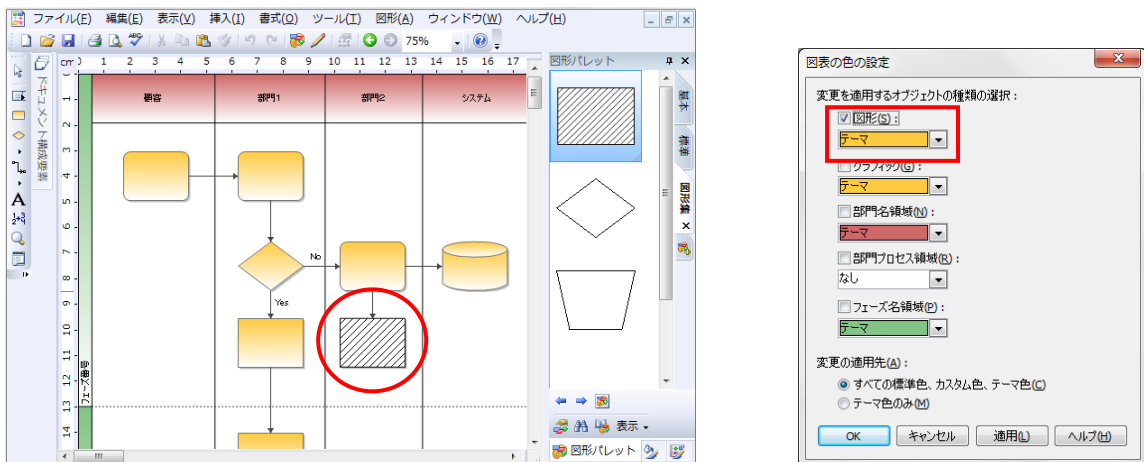


「図表の色の設定」ダイアログボックスが表示されます。チェック対象のオブジェクトにテーマが適用されます。また、それぞれのカラーパレットから色を変更することも可能です。



◆ 図形にテーマが適用されない場合

初期設定の書式を使用していない図形およびグラフィックは、選択したテーマが適用されません。「図表の色の設定」ダイアログボックスを開き、対象のオブジェクトにチェックを入れ適用してください。



第2章 フローチャートの作成

iGrafx FlowCharter では、自由形式の図表や体系化された図表はもちろんのこと、ネットワーク、処理工程、ソフトウェア、プレゼンテーションに至るまで、あらゆる用途の図表を作成することができます。なかでも処理工程を表すプロセスフロー図の作成を行うために最適な機能を多数持っています。

ここでは主に業務フローチャートを作成する方法について説明します。一通りの学習を行うことにより iGrafx FlowCharter の機能を効果的に利用し、迅速かつ効率的に業務フローチャートを作成できるようになります。

1. 基本操作

業務フローチャートを作成するための基本的な操作を説明します。

iGrafx FlowCharter には描画特有の機能として、図表の余白をクリックすることで簡単に連続した操作ができるよう、マウスポインタの形が下記のようにさまざまな形に変化します。

意図せずマウスポインタの形が変わってしまった場合は、「Esc」キーまたは「ツールボックス」ツールバーの「選択ツール」をクリックすると選択モードに戻すことができます。



(選択モード)



(図形配置モード)



(接続線配置モード)

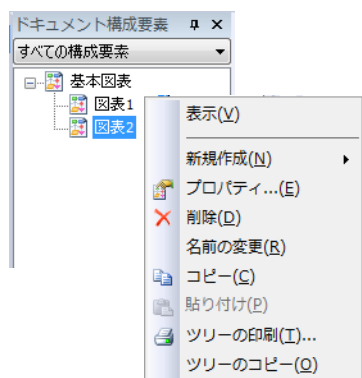
1.1 図表の操作

1) 図表の追加・変更

◆ 図表を追加する

iGrafx FlowCharter では1つのファイルに複数の図表を管理することができます。例えば、同じファイルに新規図表を追加したり、既存図表をコピーして追加することができます。また、異なるファイルの図表をコピー&ペーストで追加することもできます。

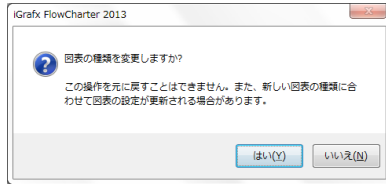
同じファイルに図表を追加する場合は、エクスプローラバーの中で右クリックし、コンテキストメニューを表示します。コンテキストメニューの詳細については「エクスプローラバーの利用」(P13)をご覧ください。



◆ 図表の種類を変更する

「基本図表」で作成した図表を、「プロセス図表」「BPMN 図表」「組織図」に変換することができます。

- ① 「ツール」メニューー「図表の種類を変更」をクリックし変更したい図表を選択します。
- ② 下記メッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックします。



2) 図表の表示切り替え

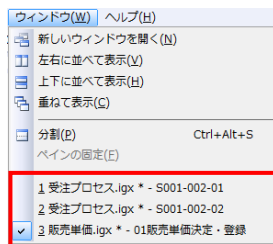
iGrafx FlowCharter では、複数のファイル、図表を同時に開くことができます。「ウィンドウ」メニューより、複数の図表の表示切り替えや、ウィンドウの表示形式を指定することができます。

◆ ファイル内の図表の表示を切り替える

エクスプローラバーより、表示したい図表名の上でダブルクリックします。

◆ 別ファイルの図表に表示を切り替える

ウィンドウリストには、現在開いているファイルの一覧が表示されます。現在開いている図表には、チェックマークがついています。別のウィンドウに切り替えたい場合には、開きたい図表を選択します。

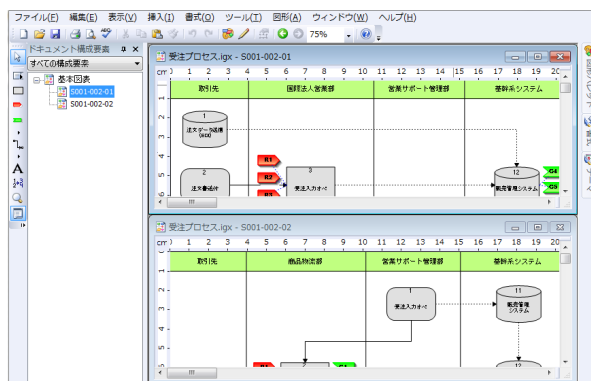


iGrafx FlowCharter では、表示した図表の順番を記憶しています。ツールバーの矢印アイコンを利用すると、表示した順番に前の図表に戻ったり、次の図表に進めたり、簡単にウィンドウを切り替えることができます。



◆ 複数図表を同じウィンドウに表示する

「ウィンドウ」メニューには、「左右に並べて表示」、「上下に並べて表示」、「重ねて表示」などの表示形式があります。これらの表示形式を選択すると同じウィンドウに複数の図表を同時に表示することができます。



1.2 部門

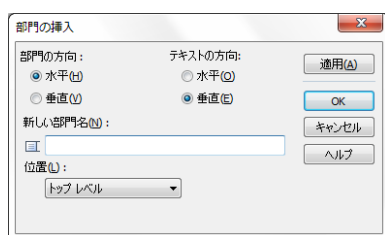
iGrafx FlowCharter では業務フローチャートを作成するためにあらかじめ用意する枠組みを「部門」といいます。

1) 部門の挿入

◆ 新しい部門の追加

「部門の挿入」ダイアログボックスを利用し、部門を挿入します。

- ① 以下の操作で「部門の挿入」ダイアログボックスを開きます。
 - ・「ツールボックス」ツールバー「部門」アイコン「部門の挿入」をクリックする。
 - ・「挿入」メニュー「部門」をクリックする。
- ② 「新しい部門名」に登録する部門名を入力し「OK」ボタンをクリックします。
連続で複数の部門を追加する場合は、「適用」ボタンをクリックします。

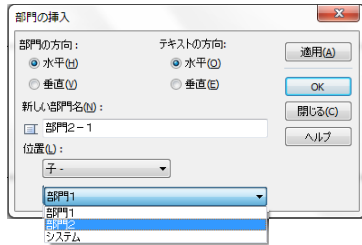


項目	説明
部門の方向	部門の方向を変更できます。ただし、図形の配置後は変更できません。
水平	横向きの部門を作成します。(初期設定値)
垂直	縦向ききの部門を作成します。
テキストの方向	テキストの方向を変更できます。
水平	部門の名前を横書きで表示します。
垂直	部門の名前を縦書きで表示します。(初期設定値)
新しい部門名	登録する部門名を入力または既存の部門名をドロップダウンリストより選択します。 以下の場合に、テキストボックスが自動的にドロップダウンリストとなり、既存の部門が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じファイルの他の図表に既に部門が存在する場合 ・Process Central リソースモデルを持つリポジトリに接続している場合
位置	新しい部門名の追加を、既存の部門から見た部門の位置に指定することができます。
トップレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・部門の方向が水平の場合、最上位レベルの一番下に追加します。(初期設定値) ・部門の方向が垂直の場合、最上位レベルの一番右に追加します。(初期設定値)
前	<ul style="list-style-type: none"> ・部門の方向が水平の場合、選択した既存部門の上に追加します。 ・部門の方向が垂直の場合、選択した既存部門の左に追加します。
後	<ul style="list-style-type: none"> ・部門の方向が水平の場合、選択した既存部門の下に追加します。 ・部門の方向が垂直の場合、選択した既存部門の右に追加します。
子	<ul style="list-style-type: none"> ・部門の方向が水平の場合、選択した既存部門の右に追加します。 ・部門の方向が垂直の場合、選択した既存部門の下に追加します。
親	<ul style="list-style-type: none"> ・部門の方向が水平の場合、選択した既存部門の左に追加します。 ・部門の方向が垂直の場合、選択した既存部門の上に追加します。
既存部門リスト	追加する図表の既存部門リストが表示されます。 ※「トップレベル」を選択している場合は表示されません。

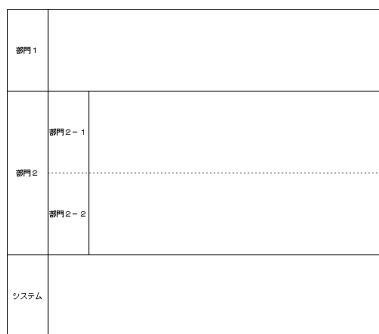
◆ 子部門の追加

登録済みの部門に対して、子部門として新しい部門を追加できます。

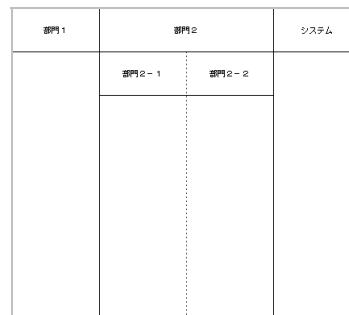
- ① 追加する子部門の名称を「新しい部門名」に入力します。
- ② 「位置」で「子」を選択し、「既存部門リスト」で親部門を選択します。



【部門の方向が「水平」の場合】

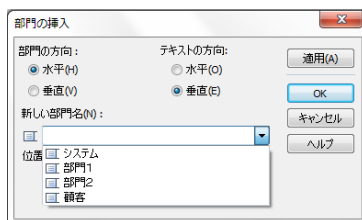


【部門の方向が「垂直」の場合】



◆ 同一ファイルに追加した図表における部門追加

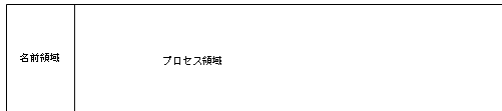
同じファイルに新しく図表を追加した場合、既存の図表に存在する部門名称はリスト化されます。既存の部門を作成する場合は、ドロップダウンリストより選択します。リストにない部門を作成する場合は、直接部門名を入力します。



2) 部門の編集

各部門は、部門名が表示される「名前領域」と図形を配置する「プロセス領域」で構成されています。

部門の名前領域で右クリックするとコンテキストメニューが表示され、「部門の名前の変更」「部門の移動」「部門の挿入」「部門マネージャ」より簡単に編集することができます。



◆ 部門名を変更する

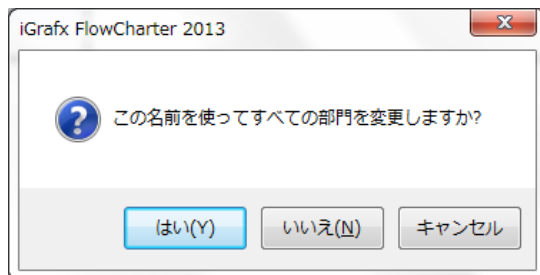
部門の名前領域を選択し、直接修正します。

配置した部門を選択した状態で入力操作をすると、自動的に入力モードに切り替わりテキスト入力ができます。入力した内容は、「Esc」キーまたは図表の空白部分をクリックするか、次の操作（部門選択をするなど）を行なって確定します。

入力されているテキストの一部を修正したい場合には、選択した部門の中をクリックするか、「F2」キーを押すと、入力されているテキストを上書きせずに必要な箇所だけ変更することができます。

◆ 部門名を一括変更する

iGrafx FlowCharter では、ファイル単位に部門の名称を一括管理しているため、1つの部門の名称を変更すると、ファイル内のすべての図表を検索し、同期をとるメッセージが表示されます。



◆ 部門を削除する

部門の名前領域を選択し、「Backspace」キーまたは「Delete」キーで削除できます。

部門を削除すると、部門内のすべての図形と、それらの図形に接続された接続線もすべて図表から削除されます。

※ 「編集」メニュー「切り取り」をクリック、または「Ctrl」+「X」キーで削除することもできます。

◆ 部門サイズの自動変更

部門のサイズは、配置した図形を必ず部門の枠内に収めようとするため、配置した図形の位置により自動的に変更されます。

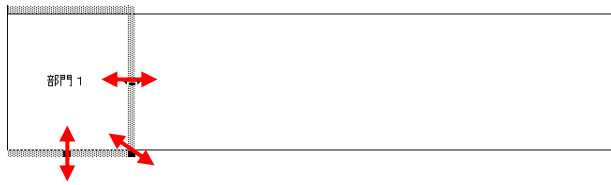
部門の下部の線から、一番近い図形までの距離が設定された距離になるように、自動で調整されます。

※ 部門の下部の線から一番近い図形までの距離は、変更することができます。

変更方法は P48 をご覧ください。

◆ 部門サイズを手動で変更する

部門の名前領域を選択し、枠線上の黒いハンドルをドラッグします。



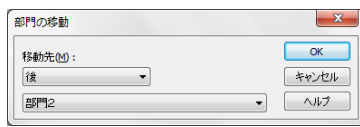
◆ 部門を移動する

部門は、図表内で移動することができます。部門の名前領域を選択し、枠線上の網かけ部分を移動したい方向にドラッグします。同じレベルの範囲で移動することができます。部門を移動すると、その部門に配置された図形なども一緒に移動します。部門を移動しても、図形の関係は保たれます。



➤ 親部門と子部門をまたぐ部門の移動

親部門と子部門などレベル間の違う部門の移動は、「部門マネージャ」または「部門の移動」より行うことができます。



◆ 部門の書式を変更する

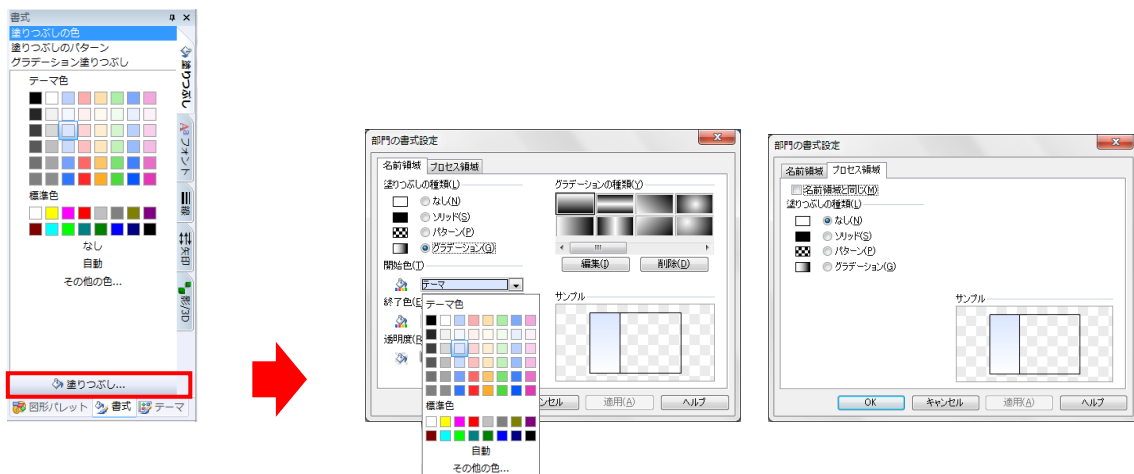
部門の名前領域を選択し、書式を設定します。

「書式」パレットウィンドウの「塗りつぶし」タブで部門の背景色を設定、「フォント」タブで部門名称のフォントやテキスト揃えなどの主な設定をすることができます。

「書式」パレットウィンドウの「塗りつぶし」ボタンをクリックし、書式設定ダイアログボックスを開くと、詳細な書式設定をすることができます。

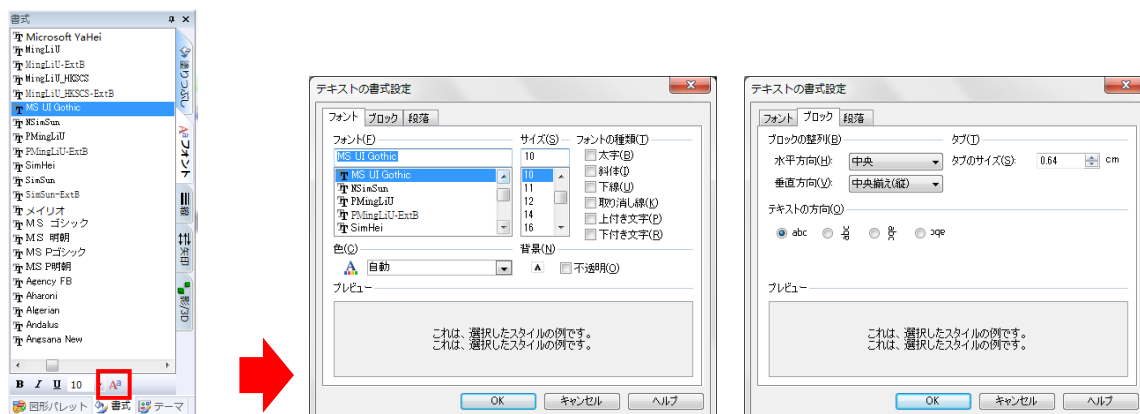
➤ 塗りつぶし

部門の背景色を変更します。



▶ フォント、テキスト揃え

部門名称のフォントやテキストの方向や揃えを変更します。「書式」ウィンドウ下部の「フォント」ボタンをクリックすると、「テキストの書式設定」ダイアログボックスが開き、詳細な書式を設定できます。



◆ 書式のコピー／貼り付け方法

オブジェクト（図形や線など）のフォント、揃え、線のスタイル、塗りつぶしスタイル、枠、フィールドテキストなどの書式は、他のオブジェクトに簡単にコピーすることができます。

- ① 他のオブジェクトに適用するスタイルが設定されたオブジェクトを選択します。
- ② 「標準」ツールバーの「書式コピー／貼り付け」アイコンをクリックします。ポインタが「書式コピー／貼り付け」ポインタに変わります。



- ③ コピー先のオブジェクトをクリックします。
- ④ 「完了」ボタンをクリックし、書式コピー／貼り付けモードを終了します。

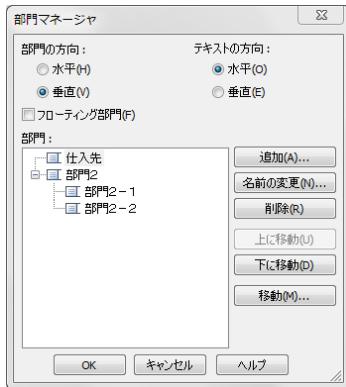
3) 部門マネージャ

◆ 部門マネージャを利用する

図表単位で部門全体を構成および管理することができます。

【表示手順】

「ツールボックス」 ツールバー - 「部門」 アイコン - 「部門マネージャ」




◆ フローティング部門として表示する

部門と部門の間にスペースを空けて表現することが可能です。このような部門をフローティング部門と呼び、別会社の組織を同一プロセス図に表現したい場合などに利用します。(BPMN 図表で主に利用されています。)

- ① 「部門マネージャ」 - 「フローティング部門」にチェックを入れます。



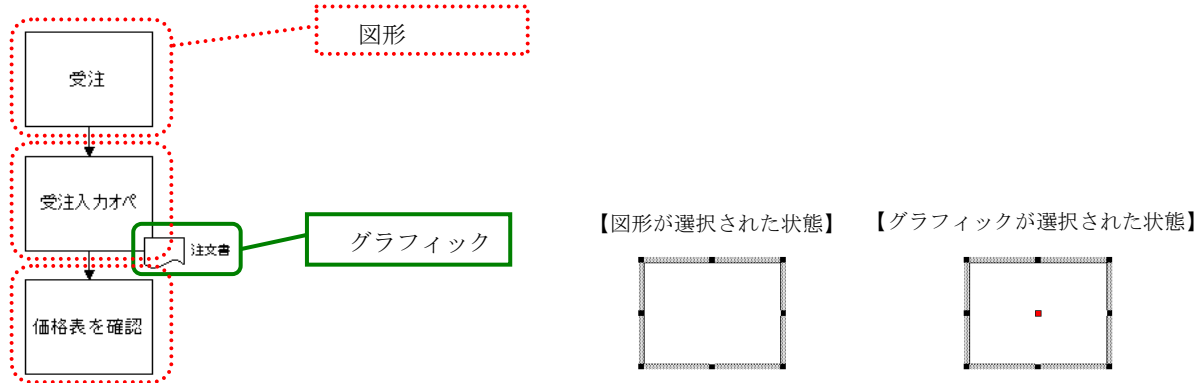
 「トップレベル」で登録されているすべての部門の間にスペースが生まれます。その様な状況避けたい場合は、離れたくない部門同士を同じ親を持つ子部門として登録します。

1.3 図形の配置

iGrafx FlowCharter には、図形の種類として「図形」と「グラフィック図形」があります。

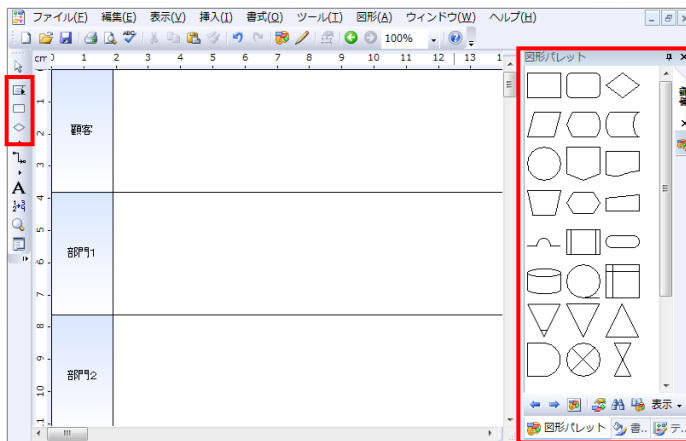
「図形」は、主に図形と図形を接続線で結び、作業の順番を明確に表現するために使用します。

「グラフィック図形」は、主に図形や接続線に紐付けて、情報を補う表現に使用します。グラフィック図形に接続線を引くことはできません。



1) 図形を選択

図形は「ツールボックス」ツールバーの図形ライブラリに登録されている図形、または図形パレットに登録されている図形から選択します。

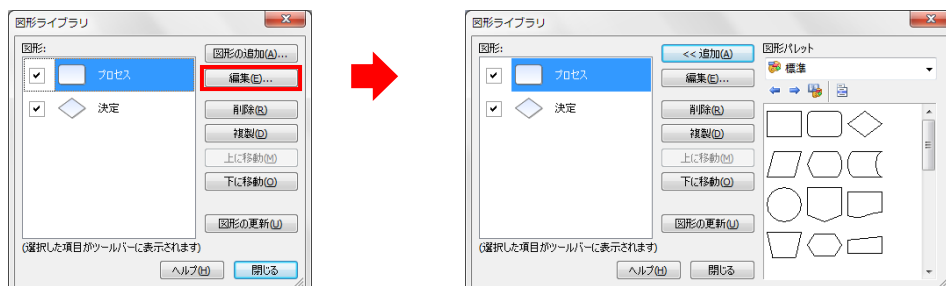


◆ 図形ライブラリと図形パレットの違い

図形ライブラリは、あらかじめよく使う図形を図形パレットから登録することができます。

図形ライブラリは図表単位で管理されるので、テンプレートとして利用すると便利です。

図形パレットはファイルに依存しませんので、どのファイルを編集しているときでも同じパレットの図形を共有することができます。



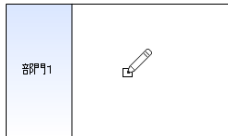
2) 図形の配置

◆ 基本操作

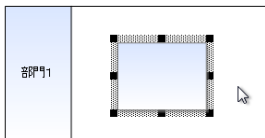
図形ライブラリまたは図形パレットより選択した図形を配置します。

- ① 図形ライブラリまたは図形パレットより配置したい図形をクリックして選択します。
- ② 作業ウィンドウにマウスポインタを移動します。マウスポインタは、鉛筆に図形がついた形（図形配置モード）に変わります。

※選択した図形をドラッグで作業ウィンドウに移動した場合は、このマウスポインタの形になりません。



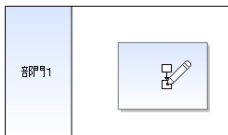
- ③ 作業ウィンドウでクリックします。選択した図形が配置されます。
図形が配置されると、ポインタは白い矢印（選択モード）に戻ります。



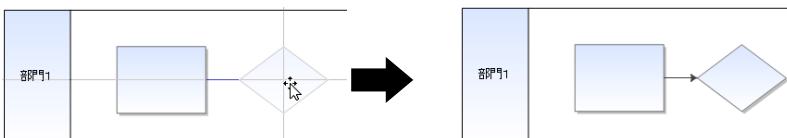
◆ 接続線付きで配置する

2つめ以降の図形を配置する場合、接続線と図形を同時に描くことができます。

- ① 図形ライブラリまたは図形パレットより配置したい図形をクリックし、既に配置している図形の上に重ねるようにマウスポインタを移動します。マウスポインタは鉛筆に図形が2つ接続された形に変わります。




- ② 次の図形を配置したい方向にドラッグし、マウスの左ボタンを離します。



◆ 図表の空白部分をクリックして、直前に行った操作を繰り返す

図形を配置したり、接続線を引いた直後に図表の空白部分をクリックすると、直前に行っていた操作モードを繰り返します。

同じ図形を繰り返し配置したい場合は、その都度図形ライブラリまたは図形パレットから図形を選択しなくても、図表の空白部分ををクリックすることによって、直前に配置した図形と同じ図形を配置することができます。また接続線を引いていた場合には、図表の空白部分ををクリックすることによって、直前に引いていた線と同じ種類の接続線を引くことができます。

-  間違えて図表の空白部分をクリックしたことにより、意図しないモードに変わってしまった場合には、「ツールボックス」ツールバーの「選択ツール」をクリックするか、「Esc」キーを押すと、ポインタを白い矢印（選択モード）に戻すことができます。

◆ 連続して配置する


マウスポインタを図形配置モードに保ち、同じ図形を連続して配置します。

- ① 図形ライブラリの図形をダブルクリックします。「完了」ボタンが表示されます。



「完了」ボタンが表示されている間は、マウスポインタの図形配置モードが維持されます。

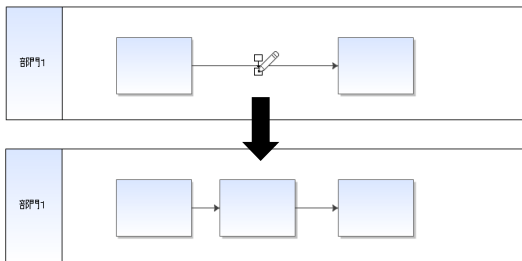
- ② 「完了」ボタンをクリックします。マウスポインタは選択モードに戻ります。


 図形パレットの図形については、連続配置機能は使用できません。

◆ 接続線上に図形を配置する

接続線で繋がった図形の上に新しい図形を追加します。

図形を選択し、マウスポインタを接続線上に重ねるように移動します。マウスポインタが鉛筆に図形が2つ接続された形に変わったことを確認し、クリックします。

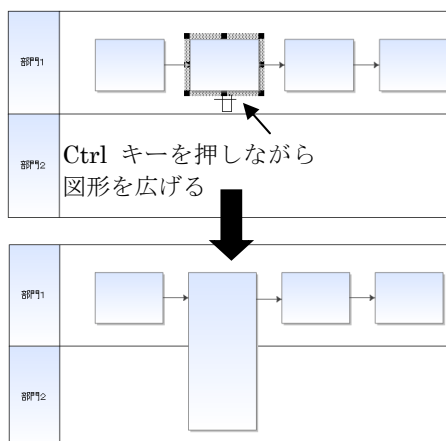



 図形が挿入できるだけのスペースがない場合、自動的にスペースを空ける機能はありません。あらかじめ図形が挿入できるだけのスペースを確保してから図形を配置してください。図形を削除した場合には、図形の前後の接続線が自動で繋がります。

◆ 部門をまたいで配置する

複数部門で同一の作業を行っていることを表現する場合、部門をまたいで図形を配置します。

- ① 図形を選択し、「Ctrl」キーを押しながらマウスポインタを選択枠の黒いハンドルの近くに移動します。
- ② マウスポインタが下図の様な形になったことを確認し、図形を広げます。



 フローティング部門間をまたぐことはできません。

▶ 無関係な部門の除外方法

複数部門をまたぐ際、関係のない部門もまたいでしまうことがあります。その場合、関係のない部門を除外することができます。

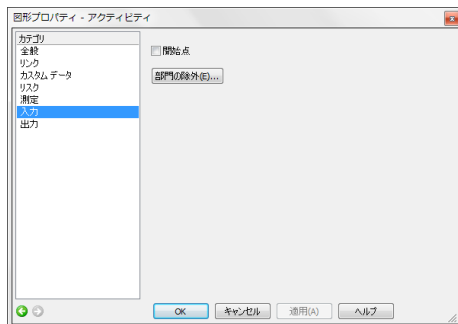
- ① 部門を除外したい図形の上でダブルクリックし、「プロパティ」ダイアログボックスを開きます。

※SOX+図形の場合は、図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティの表示」をクリックします。

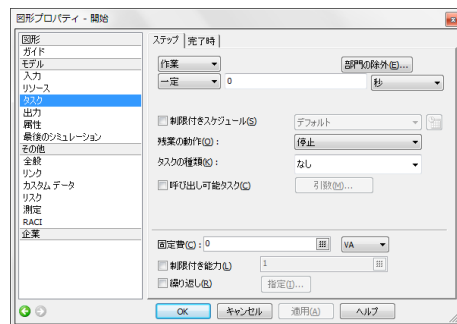
- ② 「入力」カテゴリの「部門の除外」ボタンをクリックします。

※プロセス図表の場合は、「タスク」カテゴリに「部門の除外」ボタンがあります。

【基本図表】



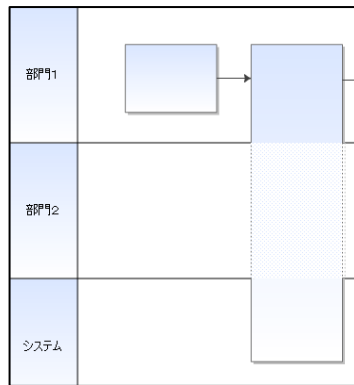
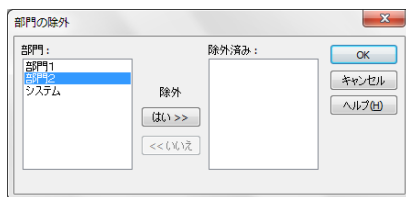
【プロセス図表】



- ③ 「部門の除外」ダイアログボックスが開きます。部門リストより、除外する部門を選択し「はい」ボタンをクリックします。

- ④ 選択した部門が「除外済み」に移動したことを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

除外された部門は点線で表示されます。



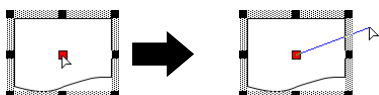
3) グラフィック図形の配置

◆ グラフィック図形を配置する

グラフィック図形の配置方法は、図形の配置方法と同じですが、配置した後の表現が異なります。

グラフィック図形を配置すると、中央に赤いハンドルが表示されます。この赤いハンドルをドラッグすると線が出現します。この線をコールアウト線といいます。

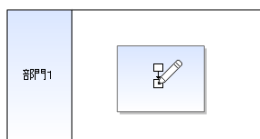
コールアウト線は、図形または接続線に紐付けることができます。



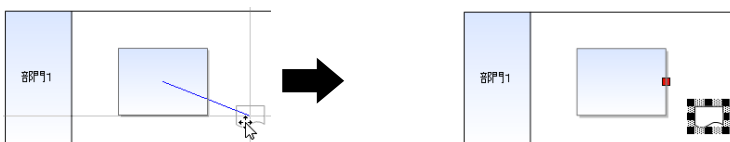
◆ グラフィック図形を図形に紐付ける

図形に紐付けてグラフィック図形を配置することができます。

- ① グラフィック図形をクリックし、既に配置している図形の上に重ねるようにマウスポインタを移動します。
マウスポインタは鉛筆に図形が2つ連続された形に変わります。



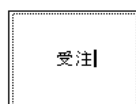
- ② 図形を配置したい方向にドラッグし、マウスの左ボタンを離します。




4) 図形のテキスト入力

◆ 基本操作

配置した図形を選択した状態で入力操作をすると、自動的に入力モードに切り替わりテキスト入力ができます。入力した内容は、「Esc」キー、または図表の空白部分をクリック、次の操作（図形選択をするなど）を行なって、確定させます。

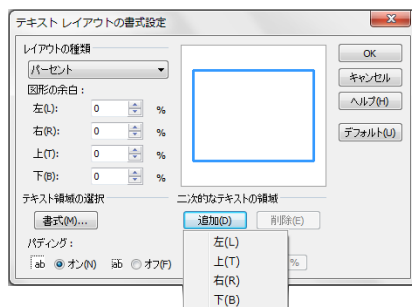


 選択した図形の中を再度クリックしたり、「F2」キーを押すと部分修正できます。

◆ 図形テキストのレイアウトを変更する

図形のテキストレイアウトを変更することができます。テキストレイアウトでは、テキストの余白、テキストの書式、および二次的なテキスト領域の追加などを設定することができます。

- ① 図形を選択し、「書式」メニュー「テキストのレイアウト」をクリックします。
- ② 「テキスト レイアウトの書式設定」ダイアログボックスが開きます。
「図形の余白」にテキストの余白（図形の端からの距離）をセンチ単位（固定）として入力するか、またはパーセント値で値を入力します。この操作は、4つの余白に対して行うことができます。
また、余白を図形の初期設定にすることもできます。
- ③ 「二次的なテキストの領域」では、図形内に複数のテキスト領域を設けることができ、それぞれのテキストに異なる書式を設定できます。



5) 図形の編集

選択した図形の書式を編集します。

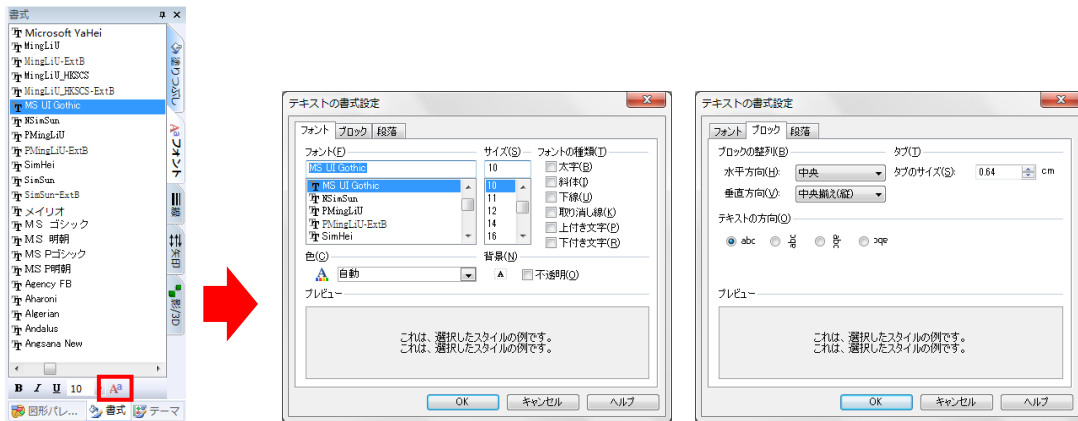
◆ 図形の書式を変更する

「書式」ウィンドウ「フォント」タブで図形のテキストフォントや揃え、「塗りつぶし」タブで図形の色、「線」タブで図形の枠線スタイル、「影/3D」タブで図形の表示効果を設定することができます。

➤ 図形のテキストフォント、テキスト揃え

「フォント」タブで、図形に入力したテキストのフォントやサイズ、向き、揃えを変更できます。

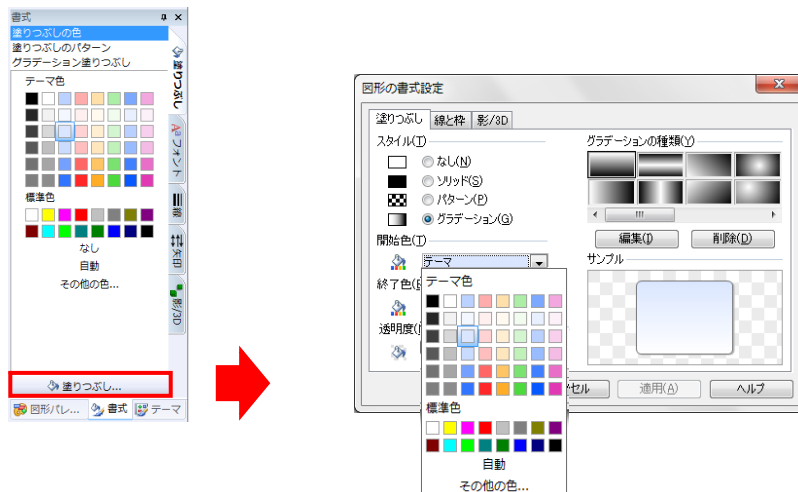
「書式」ウィンドウ下部の「フォント」ボタンをクリックすると、「テキストの書式設定」ダイアログボックスが開き、詳細な書式を設定できます。



➤ 図形の塗りつぶし

図形の色を変更できます。

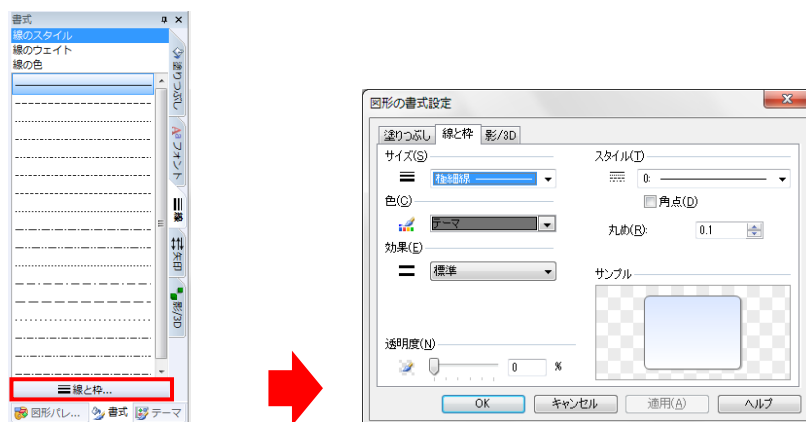
「書式」ウィンドウ下部の「塗りつぶし」ボタンをクリックすると、「図形の書式設定」ダイアログボックスが開き、詳細な書式を設定できます。



➤ 図形の枠線スタイル

図形の枠組みの線のスタイルや色、太さを変更します。

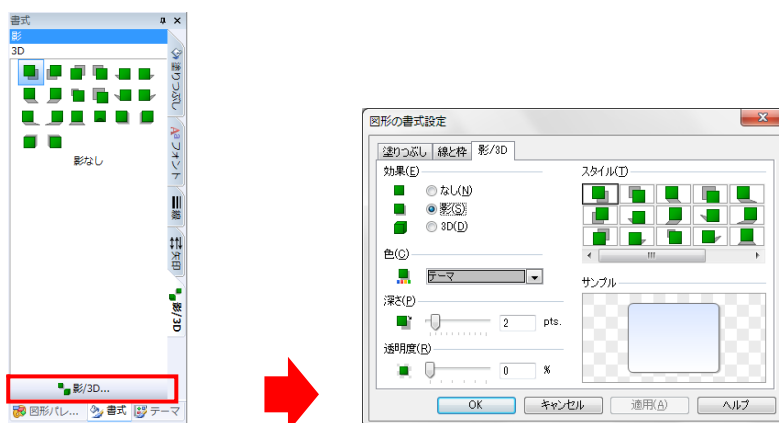
「書式」ウィンドウ下部の「線と枠」ボタンをクリックすると、「図形の書式設定」ダイアログボックスが開き、詳細な書式を設定できます。



➤ 図形の影 / 3Dスタイル

図形に影を付けたり、3Dに見せることができます。

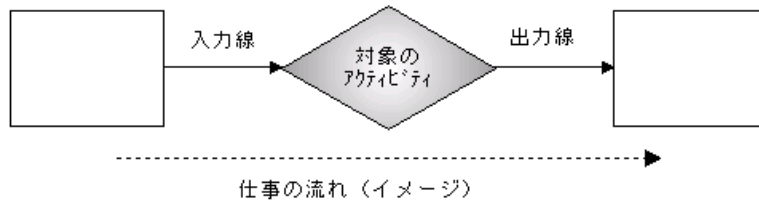
「書式」ウィンドウ下部の「影/3D」ボタンをクリックすると、「図形の書式設定」ダイアログボックスが開き、詳細な書式を設定できます。



1.4 接続線

接続線は、2つの図形を接続するもので、プロセスにおける仕事の流れを表します。それぞれの図形には、各辺の中心に4つの接続点があります。ただし、接続線は接続点以外の場所からでも引くことができます。

接続線は自動的に配置され、図形を移動した場合でも自動的に再描画されます。

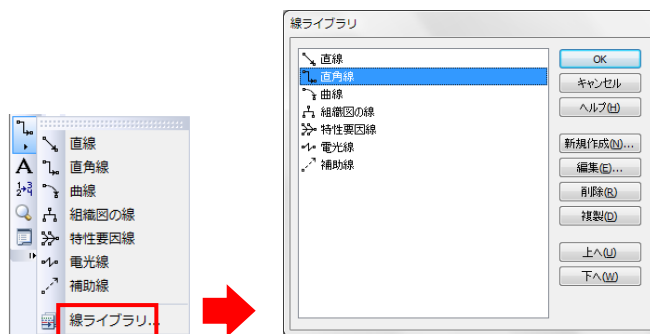


入力線：対象のアクティビティから見て矢印の先が自分に向いている線

出力線：対象のアクティビティから見て矢印が自分から出ている線

1) 接続線を引く

iGrafx FlowCharter では、接続線の種類が複数用意されています。「ツールボックス」ツールバーの「接続線」ツールで接続線の種類を変更することができます。

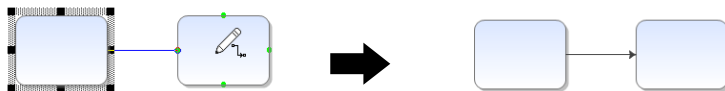


線種	説明
直線	斜めに線を引いた時に、一直線になる線です。
直角線 (初期設定)	斜めに線を引いた時に、直角に折れる線です。
曲線	ベジェ曲線です。
組織図の線	組織図などを作成する時に最適な線です。
特性要因図線	特性要因線図を作成する時に最適な線です。
電光線	稲妻のように折れた線です。
補助線	テキストと図形を結ぶ接続線として使用します。
線ライブラリ	簡単に選択できるように保存された線のカスタムコレクションです。新しい線を作成したり、既存の線を削除または変更することができます。

◆ 基本操作

2つの図形を接続線で結びます。マウスポインタが「選択」モードになっていることを確認します。

- ① 接続線を引き始める図形の内側から、接続先の図形の内側までドラッグします。
- ② マウスの左ボタンを離すと、図形間に接続線が描かれます。



◆ 接続線付きで図形を配置する

既存の図形からドラッグして新しい図形を追加すると、接続線付きの図形を配置することができます。(P27参照)



◆ 複数図形を一度に接続する

選択した複数の図形を、一度に接続線で結ぶことができます。

- ① 接続線を引き始める図形から順番に、「Shift」キーを押しながらクリックして選択します。
※「Shift」キーを押しながら図形をクリックすると、複数の図形を選択できます。
- ② 「図形」メニューー「図形の接続」をクリックします。

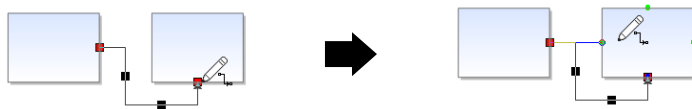
2) 接続線の編集

図形間を接続している接続線を編集します。

◆ 接続線を移動する

図形間を接続している線の接合点を移動することができます。

- ① 接続線を選択します。
- ② 線の接合点（赤い点）をクリックし、新しい接続点にドラッグします。



◆ 矢印の向きを切り替える

図形間を接続している線の向きを切り替えることができます。

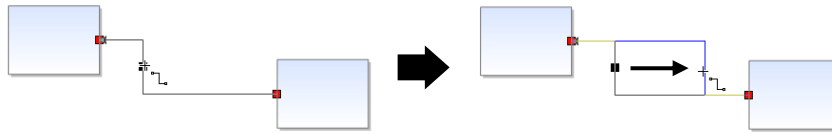
- ① 図形に接続した線を選択し、「図形」メニューー「矢印の切り替え」をクリックします。



◆ セグメントを移動する

接続線は、図形間に自動的に配置されます。接続線のセグメントは、手動で特定の場所に移動したり、配置することができます。

- ① 接続線を選択し、黒いハンドルにマウスポインタを重ねると十字になります。
- ② 線のセグメントを別の場所にドラッグします。



◆ 頂点を追加する

接続線に頂点を追加して別の線セグメントを作成できます。

- ① 接続線を選択し、右クリックしてコンテキストメニューより「頂点の追加」をクリックします。マウスポインタが頂点ポインタになります。
- ② 頂点ポインタでクリックすると、クリックした位置に新規の黒いハンドルが追加されます。
- ③ ハンドルを移動し、接続線の位置を変更します。



◆ 線の経路を元に戻す

セグメントを手動で移動した線や、頂点を追加した線を、自動経路の線に戻すことができます。

接続線を選択し、右クリックしてコンテキストメニューより「線の経路」をクリックします。接続線が初期配置に戻ります。

◆ 接続線の書式を変更する

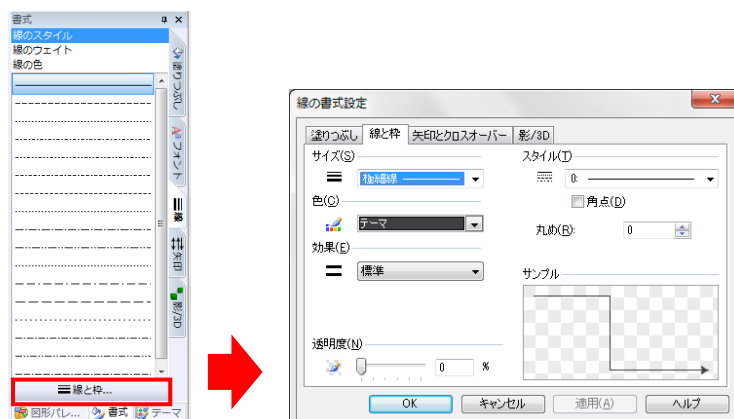
接続線を選択し、書式を設定します。

「書式」ウィンドウ「線」タブで線のスタイル、太さ、色を設定、「矢印」タブで矢印の種類を設定することができます。

➤ 線のスタイル、ウェイト、色

リストで選択し、線のスタイルやウェイト、色などを変更します。

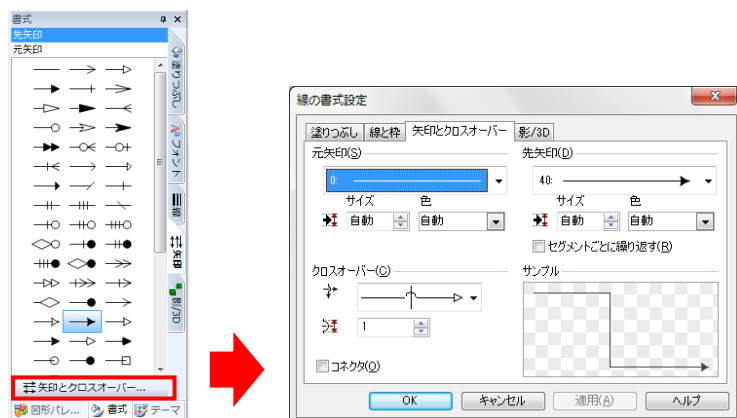
「書式」ウィンドウ下部の「線と枠」ボタンをクリックし、「線の書式設定」ダイアログボックスを開くと、詳細な書式設定をすることができます。



➤ 先矢印、元矢印

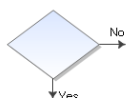
接続線の矢印の種類や色、サイズなどを変更します。

「書式」ウィンドウ下部の「矢印とクロスオーバー」ボタンをクリックし、「線の書式設定」ダイアログボックスを開くと、詳細な書式設定をすることができます。



3) ケーステキスト

ケーステキストは、決定動作を持つ図形の出力線にラベルを表示します。初期設定ではひし形（「Yes」と「No」）が指定されていて、最初に引いた接続線には自動的に「No」というラベルが表示されます。ラベルは、他のテキストと同様に移動したり、書式を変更することができます。



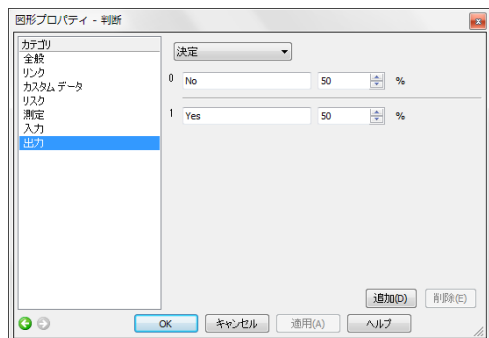
◆ ケーステキストのラベルを変更する


ケーステキストのラベルは変更、追加ができます。ラベルを変更するには、図形をダブルクリックして「図形プロパティ」ダイアログボックスを表示し、「カテゴリ」から「出力」をクリックします。

※SOX+図形の場合は、図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティの表示」をクリックします。

➤ 「基本図表」の場合

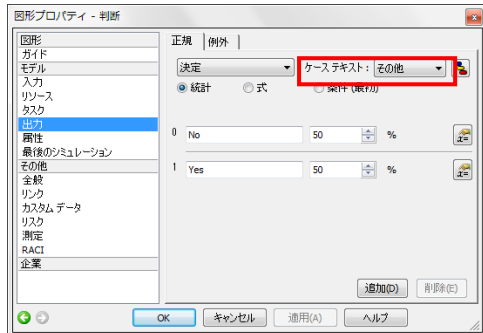
ラベルを書き換えることができます。また、「追加」ボタンをクリックすることによってケーステキスト数を増やすことができます。




 通常の図形は「決定」ではなく「すべて」が設定されているので、出力線にラベルは表示されません。

▶ 「プロセス図表」の場合

通常、「決定」が設定されていてラベルを書き換えることはできません。ケーステキストを「その他」に変更するとラベルを自由に書き換えることができます。また「追加」ボタンをクリックすることによってテキスト数を増やすことができます

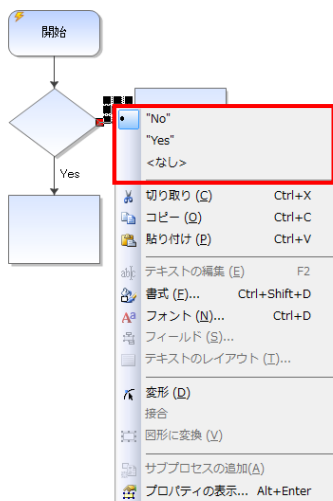


 決定ポイントの割合は、トータル 100%になるように自動で計算され調整されます。この割合は、シミュレーション機能で利用する項目です。

◆ ケーステキストを入れ替える

ケーステキストを入れ替えたい場合は、ラベルの上または接続線の上で右クリックし、コンテキストメニューよりラベルを選択することによって簡単に入れ替えることができます。

ケーステキストが3つ以上ある場合でも同じ操作で切り替えができます。



4) 接続ルールの変更

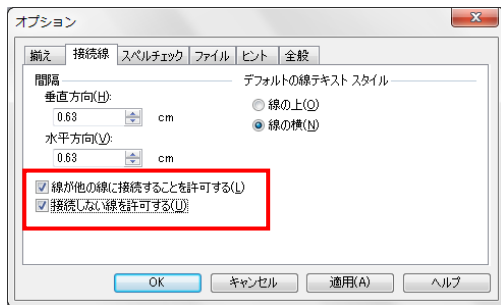
通常、接続線は図形と図形を繋ぐために引きますが、図上に、図形に繋がらない線や、線に接続した線を引きたい場合に接続線が持つルールを変更することができます。

◆ 接続線のルールを変更する

「オプション」ダイアログボックスで接続線のルールを変更すると、iGrafx FlowCharter で利用するすべての接続線に適用されます。

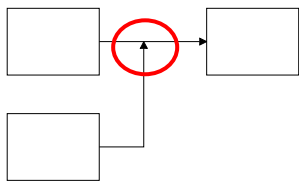
【表示手順】

「ツール」メニュー→「オプション」→「接続線」タブ



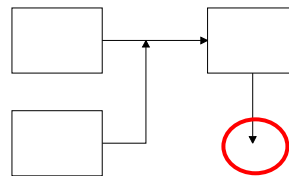
【線が他の線に接続することを許可する】

接続線に接続線を接続することができます。



【接続しない線を許可する】

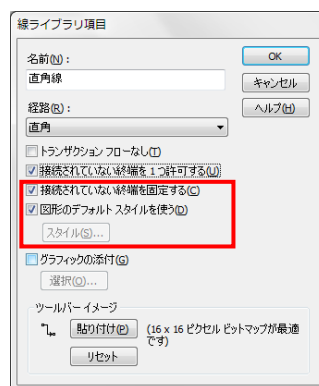
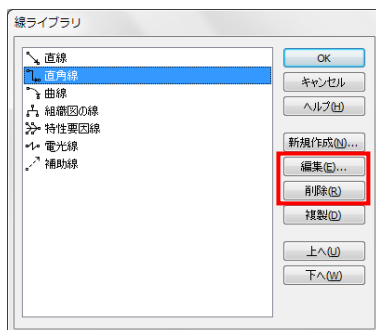
図形に接続していない線を描くことができます。



◆ 接続線のルールを特定の接続線に適用する

「線ライブラリ項目」ダイアログボックスで接続線のルールを変更すると、接続線ルールを変更した図表のみに適用されます。

- ① 「ツールボックス」 ツールバー→「線ライブラリ」をクリックします。
- ② 「線ライブラリ」ダイアログボックスが開きます。接続線を選択し「編集」ボタンまたは「新規作成」ボタンをクリックします。
- ③ 「線ライブラリ項目」ダイアログボックスが開きます。



1.5 複数選択

オブジェクトを複数選択することができます。

オブジェクトの選択は、マウスポインタを選択モードにします。

◆ 範囲選択

- ① マウスポインタを選択する範囲の左上から右下に向かって斜めにドラッグし、長方形で囲みます。
- ② 完全に長方形で囲まれたオブジェクトだけが選択されます。

◆ 任意選択

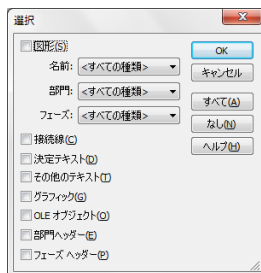
- ① 選択対象の最初の図形を選択します。
- ② 「Shift」キーを押したまま、順にオブジェクトをクリックします。

◆ 選択ダイアログボックスの活用

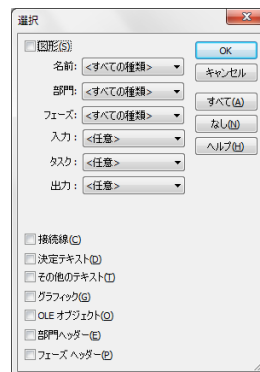
オブジェクトを種類ごとに選択することができます。

- ① 「編集」メニュー「選択」をクリックします。「選択」ダイアログボックスを開きます。
- ② 選択対象のオブジェクト（図形、接続線、決定テキストなど）をチェックし「OK」ボタンをクリックします。
- ③ 図形の場合はさらに条件を設定することができます。すべての図形を選択したい場合は、条件を入れないでください。

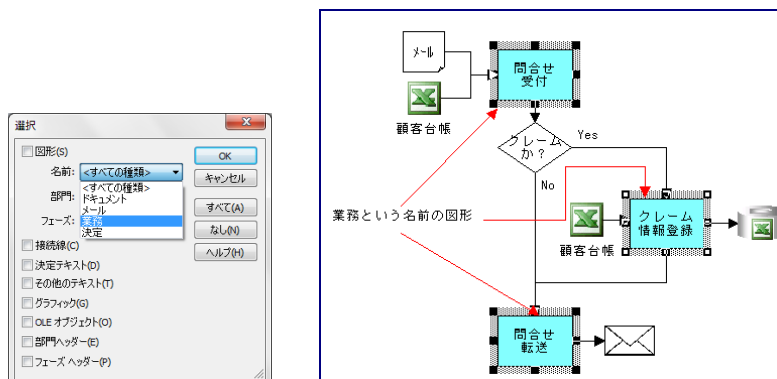
【「基本図表」の場合】



【「プロセス図表」の場合】



例) 「図形」にチェックを入れて「名前」で選択条件を絞り込んだ場合は下図のようになります。



1.6 図形の置換

配置した図形を別の図形に置換することができます。図形ライブラリ、図形パレット、またはクリップボードに登録されている図形と置き換えることができます。



項目	説明
[図形ライブラリ] タブ	[図形ライブラリ] にすでに含まれている図形が表示されます。
[図形パレット] タブ	[図形パレット] に含まれるコレクションから、図形を選択することができます。
[クリップボード] タブ	クリップボード内のオブジェクトが表示されます。

- ① 図表に配置している図形を選択し、「図形」メニューー「図形の置換」をクリックします。
- ② 「図形の置換」ダイアログボックスより置換したい図形を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
目的に合わせて置換する範囲を切り替えます。初期設定ではシンボルだけしか置換されません。

項目	説明
シンボルだけ置換	シンボルのみを置き換えます。(初期設定値)
すべてのプロパティを置換	シンボルと、そのシンボルが持つすべてのプロパティ (色、名前、塗りつぶし、枠など) を置き換えます。 ※SOX+図形の情報、カスタムデータの情報は維持されます。

1.7 図形の整形

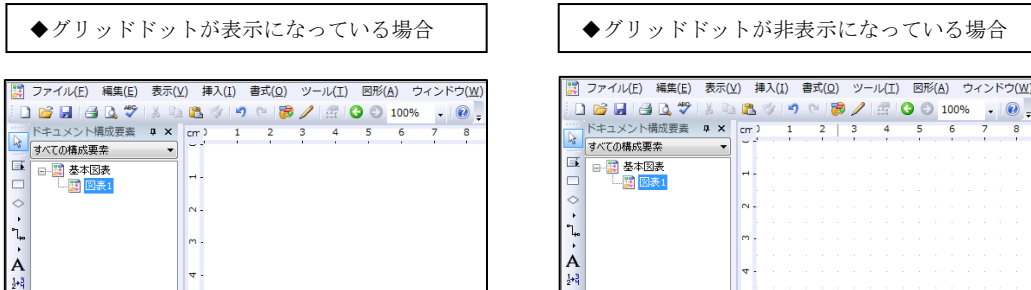
図形をきれいに並べたり、幅や高さ、図形間の間隔を揃える機能について説明します。

1) グリッドの利用

グリッドドットとは、図表上に表示されるグレーの点です。この点は、図形を整列しながら配置する時の目安として利用できます。グリッドドットは、表示・非表示を切り替えたり、図形を配置する時にスナップ (吸着) のオン/オフを切り替えて用途に合わせた利用ができます。

◆ グリッドの表示・非表示を切り替える

「図形」メニュー－「グリッド」－「グリッドドットの表示」をクリックし、表示と非表示を切り替えます。
 「グリッドドットの表示」アイコンがへこんでいる時は、現在、ドットの表示がオンになっていることを示しています。オンになっているときに選択をするとオフになります。また、オフになっているときに選択をした場合はオンになります。



◆ グリッドへのスナップを適用する

「グリッドへスナップ」は、グリッドドットに吸着して図形を配置します。
 「グリッドへスナップ」アイコンの状態がへこんでいる場合は、スナップ機能がオンになっていることを示しています。移動またはコピーした図形もグリッドにスナップされます。

「グリッドへスナップ」は、以下の操作で、機能のオンとオフを切り替えます。

- ・「図形」メニュー－「グリッド」－「グリッドへスナップ」をクリックする。
- ・「ツール」メニュー－「オプション」－「揃え」タブで「グリッドへスナップ」をチェックする。

オブジェクトをグリッドへスナップ（吸着）させる

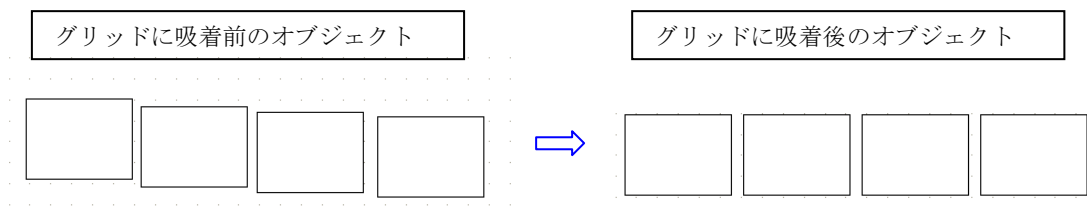
「グリッドへスナップ」機能をオフにして配置した図形を、グリッド上に配置する場合には以下の手順で操作します。

「グリッドへスナップ」がオンになっていることを確認します。オンになっていない場合は、オンにします。

グリッドドット上に配置したい1個以上の図形を選択します。

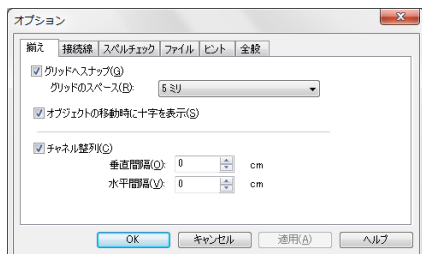
「図形」メニュー－「グリッド」－「オブジェクトをグリッドへスナップ」をクリックします。


一番近いグリッドに吸着されます。



◆ グリッドのスペースを変更する

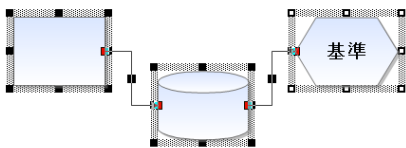
「グリッドへスナップ」がオンの状態で、図形を矢印キーで移動するときに、1度の操作で移動できる幅のことをグリッドのスペースといいます。グリッドのスペースは、「ツール」メニュー－「オプション」－「揃え」タブで変更することが可能です。微妙な幅で図形を移動したい場合や、意図する図形のサイズに拡大縮小することができない場合は、グリッドのスペースを小さくすることにより、より細かく図形の配置をコントロールできるようになります。



 グリッドのスペースをテンプレートに設定しておくことで、毎回変更することなく作業がスムーズです。

2) 整形機能を利用する

図形の整形は、基準図形に合わせて整形されます。「Shift」キーを押しながら整形したい対象の図形を選択した場合、最後に選択した図形に白いハンドルが表示されます。これが基準図形です。基準としたい図形に白いハンドルが表示されていない場合は、「Shift」キーを押しながら一旦選択を解除し、再度選択しなおしてください。



◆ 図形を揃える

図形をきれいに揃えます。

- ① 揃えたい図形を複数選択します。
- ② 基準図形に白いハンドルが表示されていることを確認します。
- ③ 「図形」メニュー－「揃え」をクリックし、以下の項目から選択します。


項目	説明
左揃え	基準図形の左のラインに揃えます。縦に並んだ図形を揃えるのに有効です。
中央揃え（横）	基準図形の中央ラインに揃えます。縦に並んだ図形を揃えるのに有効です。
右揃え	基準図形の右のラインに揃えます。縦に並んだ図形を揃えるのに有効です。
上揃え	基準図形の上のラインに揃えます。横に並んだ図形を揃えるのに有効です。
中央揃え（縦）	基準図形の中央ラインに揃えます。横に並んだ図形を揃えるのに有効です。
下揃え	基準図形の下ラインに揃えます。横に並んだ図形を揃えるのに有効です。

◆ 図形を同一サイズにする

図形の大きさを同一にします。

- ① 同一サイズにする図形を全て選択します。
- ② 「図形」メニューー「同一サイズにする」をクリックし、以下の項目から選択します。

項目	説明
幅	選択したすべての図形を基準図形と同じ幅にします。
高さ	選択したすべての図形を基準図形と同じ高さにします。
両方	選択したすべての図形の幅と高さを基準図形と等しくします。
テキストに合わせる	テキストに合わせて選択した図形にサイズを揃えます。

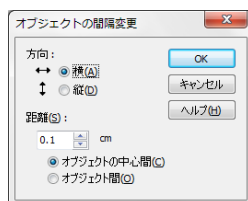
-  図形または接続線に紐付いているグラフィック図形は、この機能が使えません。
グラフィック図形を選択し、右クリックしてコンテキストメニューより「グラフィックを図形から接合解除」をクリックしてからサイズを整えてください。

◆ 図形を均等配置する


図形を等間隔に配置します。

- ① 均等配置する図形を全て選択します。
- ② 「図形」メニューー「均等配置」をクリックし、以下の項目から選択します。

項目	説明
中心を基準に横方向等間隔	図形の中心を基準にして、選択した図形を図表内で横方向に均等配置します。
中心を基準に縦方向に等間隔	図形の中心を基準にして、選択した図形を図表内で縦方向に均等配置します。
端を基準に横方向等間隔	図形の端を基準にして、選択した図形を図表内で横方向に均等配置します。
端を基準に縦方向等間隔	図形の端を基準にして、選択した図形を図表内で縦方向に均等配置します。
オブジェクトの間隔変更	「オブジェクトの間隔変更」ダイアログボックスが表示されます。図形の間隔を直接数値で入力します。



項目	説明
方向	[横] を選択すると、[距離] フィールドに入力した値が水平方向に適用されます。 [縦] を選択すると、[距離] フィールドに入力した値が垂直方向に適用されます。
距離	[距離] フィールドに値（センチ）を入力します。 [オブジェクトの中心間] を選択すると、図形の中心から中心までの間隔を指定します。 [オブジェクト間] を選択すると、選択した図形の端から端までの間隔を指定します。

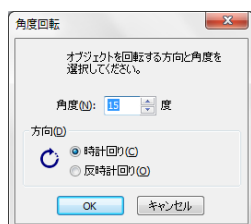
-  図形または接続線に紐付いているグラフィック図形は、この機能が使えません。
グラフィック図形を選択し、右クリックしてコンテキストメニューより「グラフィックを図形から接合解除」をクリックしてから均等配置をしてください。


◆ 図形を回転する

図形を右、左、または一定の角度で回転することができます。

- ① 1個以上の図形を選択します。
- ② 「図形」メニューー「回転/反転」をクリックし、以下の項目から回転オプションを選択します。

項目	説明
右回転	図形が、時計回りに90度回転します。
左回転	図形が、反時計回りに90度回転します。
回転ツール	図形に表示される緑の回転ハンドルをドラッグし、図形を自由自在に回転させます。
角度指定	「角度回転」ダイアログボックスが表示されます。回転する角度を0～360度の間で選択し、回転方向を時計回りまたは反時計回りのいずれかを指定します。




 図形内のテキストも一緒に回転します。

◆ 図形を反転する

垂直線（上下）または水平線（左右）に沿って、図形を反転することができます。

- ① 1個以上の図形を選択します。
- ② 「図形」メニューー「回転/反転」をクリックし、以下の項目から反転オプションを選択します。

項目	説明
水平に反転	図形の中心を通る水平線を基準にして図形が反転します。
垂直に反転	図形の中心を通る垂直線を基準にして図形が反転します。

 図形内のテキストは反転されません。テキストを変更するには「テキスト揃え」を使います。

◆ 重ねた図形の順番を入れ替える

図形を重ねて配置する場合は、重ねる順番を変更することができます。

- ① 1個以上の図形を選択します。
- ② 「図形」メニューー「順番」をクリックし、以下の項目からオプションを選択します。

項目	説明
1番下へ移動	図形は重なった図形の一番下へ移動します。
1番上へ移動	図形は重なった図形の一番上へ移動します。
1つ下へ移動	図形は重なった図形の中で1つ下へ移動します。
1つ上へ移動	図形は重なった図形の中で1つ上に移動します。

1.8 テキスト

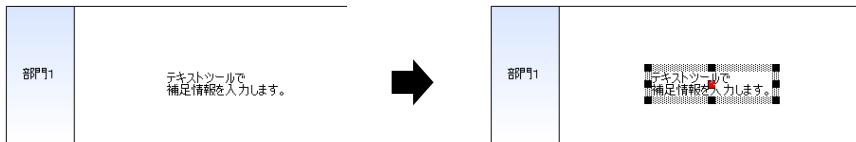
図表にテキストを追加して、補足情報を付けることができます。

1) テキストブロック

◆ 図表にテキストを入力する

テキストブロックは、テキストを入力した領域が自動的にテキストブロックとして作成されます。

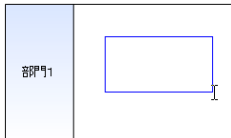
- ① 「ツールボックス」 ツールバーの「A」（テキストツール）をクリックし、作業ウィンドウにマウスポインタを移動します。マウスポインタが「I」の形になります。
- ② 作業ウィンドウでクリックすると、カーソルが点滅します。テキストを入力すると、入力した文字に合わせてテキストボックスが自動的に拡張されます。
- ③ テキストを入力後、図表の空白部分をクリックするか、「ツールボックス」 ツールバーの「選択」 ツールをクリックして、テキストツール選択を解除します。



◆ 領域を定義してテキストを入力する

テキストブロックの領域をあらかじめ定義してからテキストを入力します。

- ① 「ツールボックス」 ツールバーの「A」（テキストツール）をクリックし、作業ウィンドウにマウスポインタを移動します。マウスポインタが「I」の形になります。
- ② 作業ウィンドウでドラッグすると、テキストボックスの領域が定義されます。テキストボックスの領域を定義するとその範囲で文字入力ができます。後から大きさを調整することも可能です。



◆ テキストブロックを移動する

テキストブロックは、配置した位置に固定されず。

図表でのテキストブロックの位置は、テキストブロックを選択しドラッグすると移動することができます。

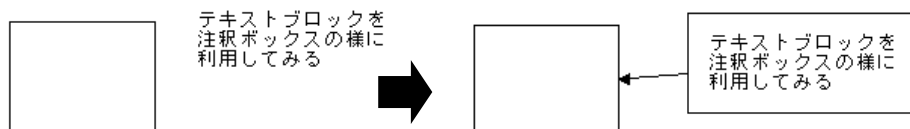
- ① テキストブロックを選択します。
- ② 選択したテキストブロックの一辺にポインタを置き、マウスポインタが移動ポインタ（十字ポインタ）になったことを確認し、ドラッグしてテキストブロックを移動します。



◆ テキストブロックの書式を変更する

テキストブロックの書式は、図形テキストの書式と同じ方法で設定できます。

コールアウト線や、テキストの枠線の色を設定することにより、注釈図形の様に利用することも可能です。



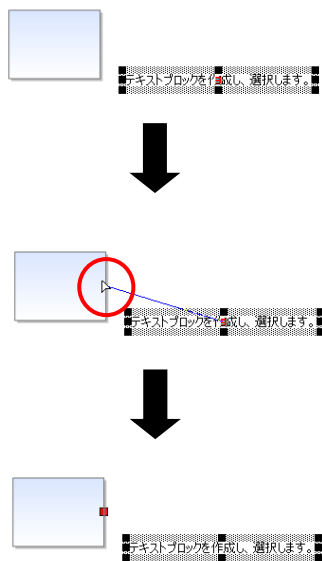
「表示」メニューー「非表示の線」を選択すると、書式を設定せずにテキスト線を表示／非表示と切り替えます。

2) コールアウト線

◆ テキストを図形や接続線に紐付ける

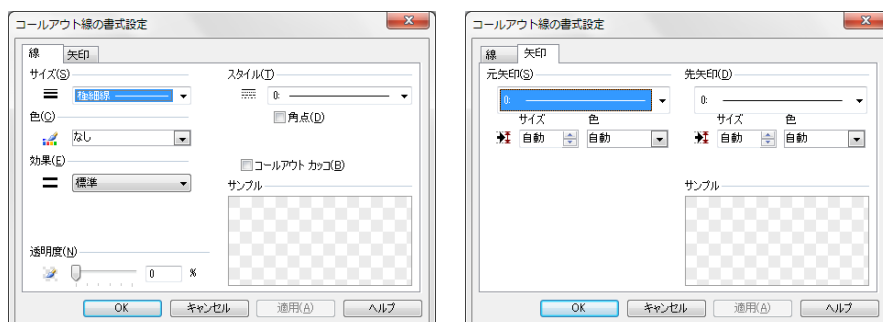
テキストブロックは、「コールアウト線」を使って図形や接続線に紐付けることができます。図形または接続線を移動すると、テキストも一緒に移動し、図形または接続線との相対的な位置関係を保ちます。

- ① テキストブロックを選択します。中央に赤いハンドルが表示されます。
- ② 赤いハンドルにマウスポインタを合わせ、添付したい図形や線までドラッグします。



◆ コールアウト線の書式を変更する

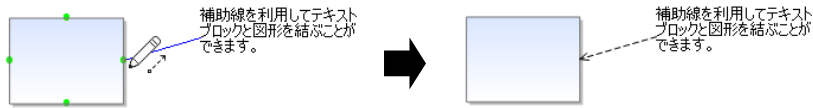
「書式」メニューー「コールアウトの線」をクリックし、書式を設定します。



3) 補助線の利用

接続線ツールの「補助線」を利用すると、テキストブロックと図形を簡単に結ぶことができます。初期設定では「ツールボックス」 ツールバーの接続線ツールから補助線を選択することができます。

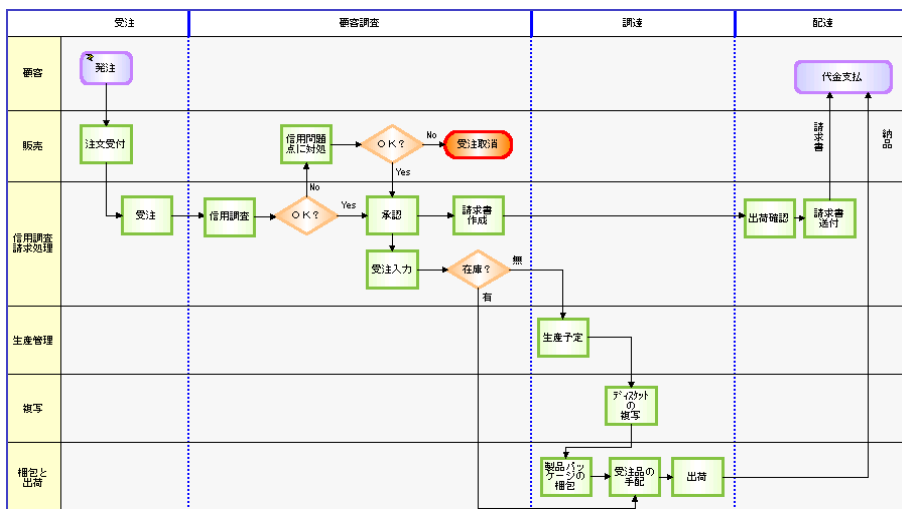
- ① 補助線を選択します。
- ② テキストブロックから図形にドラッグします。



1.9 フェーズ

部門を利用している時に限り、部門の区切りと垂直に交わる線をフェーズとして引くことができます。プロセスの段階や区分を表すのに便利です。

- ① 「挿入」メニューー「フェーズ」をクリックします。部門の枠に垂直な線（まだグレーで確定されていない線）が表示されます。
- ② フェーズを引きたい場所でクリックします。
- ③ 「フェーズ」領域をクリックして「フェーズ名」を変更します。
- ④ 複数のフェーズを挿入したい場合には、上記の操作を繰り返します。



1.10 図表全体の書式設定

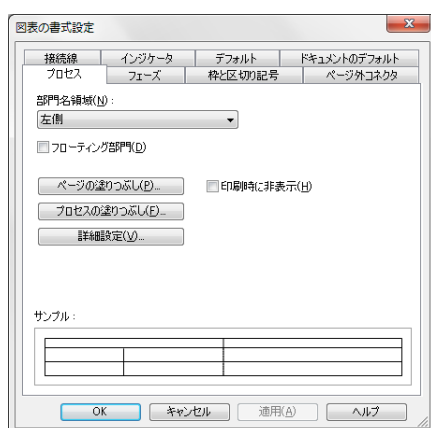
「書式」メニュー→「図表」をクリックし、「図表の書式設定」ダイアログボックスを開き、各タブでプロセス部門、部門の枠線や区切り記号、ページ外コネクタなど、さまざまな図表要素の書式を設定することができます。

1) プロセス

図表全体にかかわる設定を行います。部門名の表示形式やプロセス領域の表示にかかわる設定、また部門の余白などの設定を行うことができます。

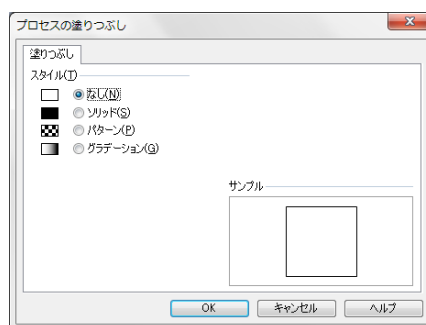
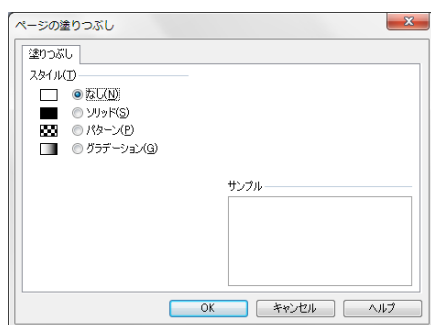
◆ 部門名領域

部門名領域の表示位置を設定します。(部門を水平に追加していれば、左か右。部門を垂直に追加していれば、上か下) 両側に表示することもできます。



◆ ページの塗りつぶし・プロセスの塗りつぶし

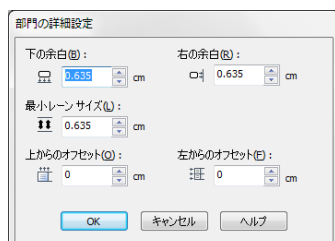
図表の塗りつぶしのスタイルを変更します。ページ全体、またはプロセス領域のみの設定ができます。



🔗 「プロセスの塗りつぶし」は、「ドキュメントのデフォルト」または「デフォルト」の「部門」の塗りつぶしで設定すると、「名前領域」と「プロセス領域」を別々に定義することができます。

◆ 詳細設定

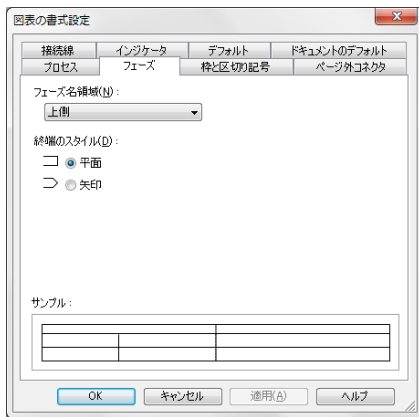
レーン（部門）の書式を変更します。



項目	説明
下の余白	図表の作成中、部門の幅が下側と右側に自動で拡張する機能があります。それは部門内の一番下のレーン、もしくは一番右のレーンに近い図形とレーンとの距離が設定されているために実現されています。この値を小さくすることによりコンパクトな図表を作成することができます。
右の余白	
最小レーンサイズ	部門の幅をそれ以上縮めたくない時に、最小値を設定します。
上からのオフセット	初期設定では印刷領域ぎりぎりから図表が配置されています。ここに設定した領域分、印刷領域の上部もしくは左部から空白領域が作成されます。画面上部もしくは左部にできた空白領域にテキストや凡例などを配置することができます。
左からのオフセット	

2) フェーズ

フェーズの表示位置を設定します。

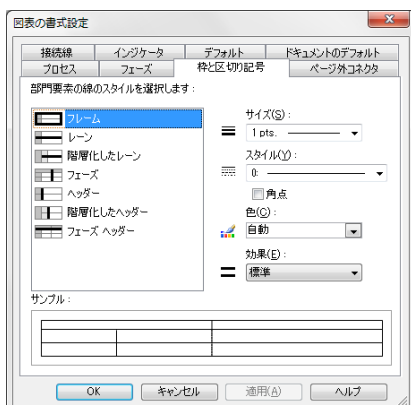


項目	説明
フェーズ名領域	フェーズ名の表示位置を変更します。(部門を水平に追加していれば、上か下。部門を垂直に追加していれば、右か左) 両側に表示することもできます。
終端のスタイル	フェーズの区切り部分のスタイルが直線なのか、屋根型に曲がるのかを選択します。

3) 枠と区切り記号

部門やフェーズを仕切る区切り線についての設定を変更します。

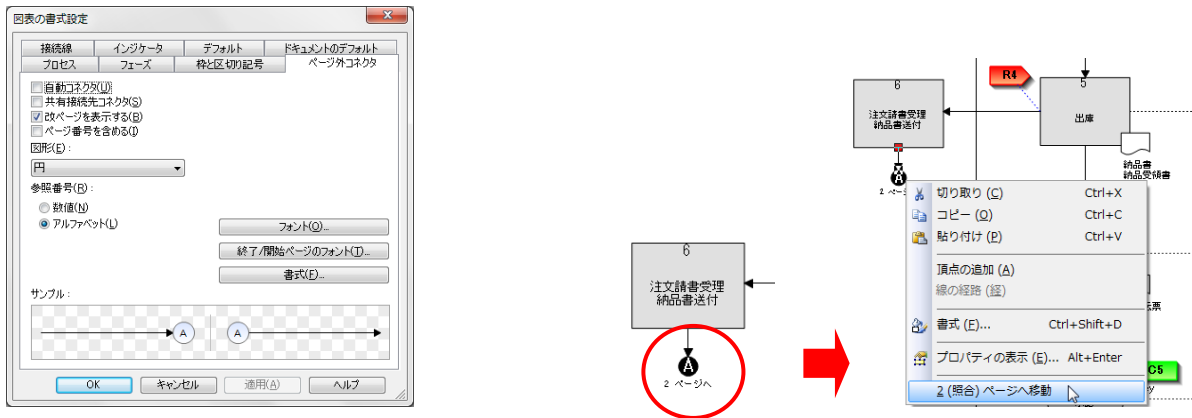
変更したい対象の線（フレーム、レーンなど）を選択し、それぞれに設定したいポイント、スタイル、色、効果を設定します。



4) ページ外コネクタ

図表が複数枚になった時に、ページの切り替わりを越える接続線に自動的にコネクタを作成します。

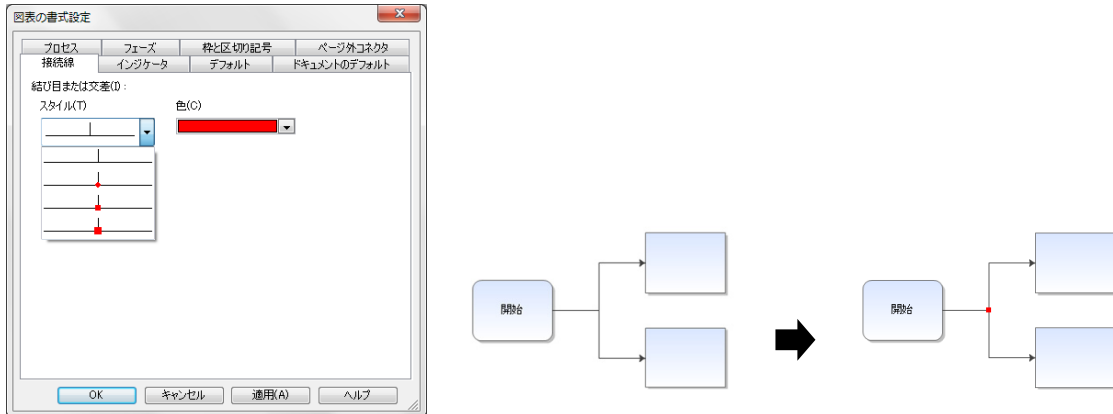
コネクタ上で右クリックし、コンテキストメニューより接続先のページをクリックすると接続先のページ外コネクタにジャンプします。



項目	説明
自動コネクタ	ページをまたがる接続線に対し、自動でコネクタを作成します。
共有接続先コネクタ	同じ図形に接続する接続線のコネクタを複数表示せず、一つにまとめて表示します。
改ページを表示する	改ページ線を表示します。
ページ番号を含める	どこへ、またはどこから繋がったコネクタなのか、ページ番号を含めて表示します。
参照番号	コネクタの参照番号の数値、アルファベットを切り替えます。

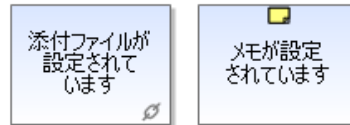
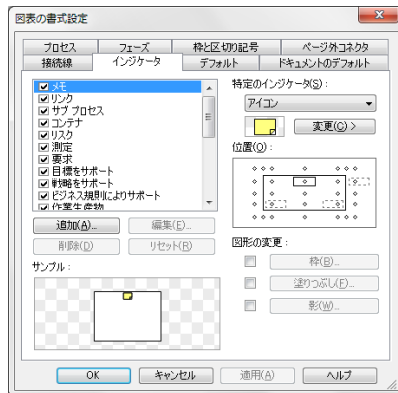
5) 接続線

結び目または交差は、2本の接続線を同一の接続先につないだ時に発生します。



6) インジケータ

メモの設定やファイルをリンクした時に、メモやリンクファイルの存在を表すためのインジケータが設定を行います。インジケータのアイコンやテキストの変更や、線や影などの書式をインジケータとして設定することができます。



7) ドキュメントのデフォルト

図形や接続線、部門など、様々なオブジェクトに対してのデフォルト値(初期値)を設定します。

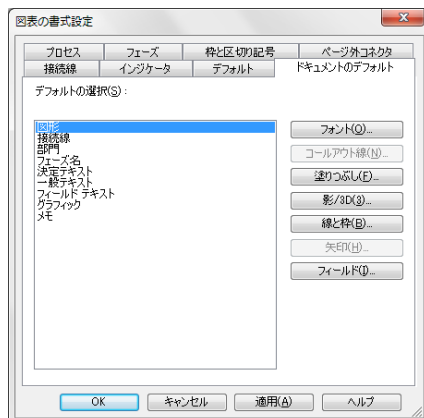
デフォルト値はドキュメントごとまたは図表ごとに設定することができます。

ファイル単位で一括設定するには、「デフォルト」タブの「ドキュメントのデフォルトを使用する」のチェックをオンにして、「ドキュメントのデフォルト」タブで設定します。

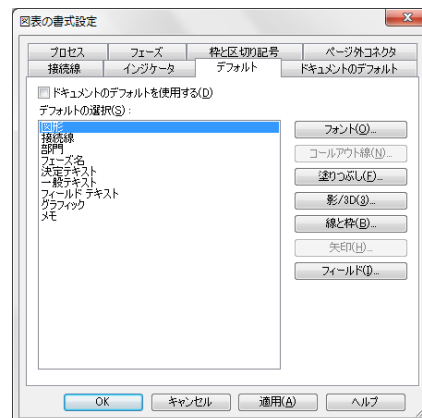
「デフォルトの選択」で設定したいオブジェクトを選択して、変更する書式のボタンをクリックします。


社内規約などにより使用するフォントや図形の色、また接続線の種類などが決められている場合、それらをデフォルト値として設定しテンプレートに登録することにより、毎回の変更の手間を省くことができます。

【ドキュメントのデフォルト】



【デフォルト】



 図形パレットで書式を設定し登録している場合は、初期設定の書式は適用されません。

2. 便利な機能

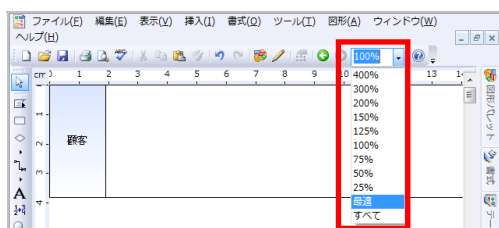
業務フローチャートを組織で管理するのに、より充実した便利な機能を説明します。

2.1 画面の表示

図表画面の表示は拡大／縮小することができます。表示のパーセント値を変更しても、印刷される図表のサイズは変わりません。

1) 表示倍率の変更

「ズームコントロール」ドロップダウンリストより、表示倍率を変更することができます。



➤ 倍率を指定

表示倍率は5%～1600%の間で任意に設定できます。

「ズームコントロール」ドロップダウンリストで倍率を選択するか、任意の値を入力して「Enter」キーを押します。拡大（または縮小）表示したいオブジェクトがある場合、オブジェクトを選択してから上記の操作を行なうと、選択したオブジェクトを中心に指定した倍率で表示されます。

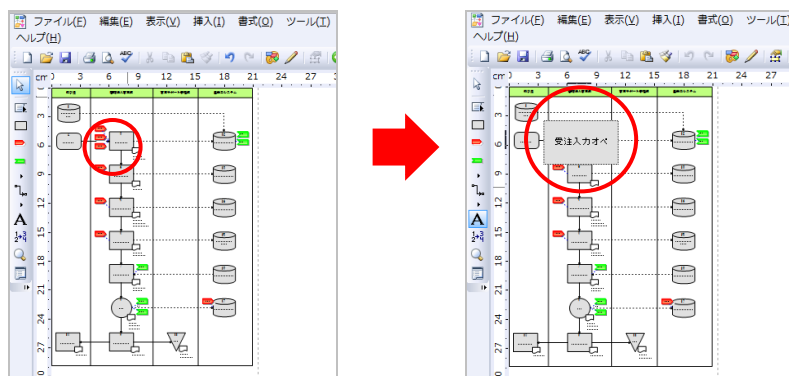
➤ 「最適」


オブジェクトを選択し、「最適」を選択すると、選択したオブジェクトが画面中央に100%の倍率で表示されます。100%の表示倍率では画面に収まらない場合は、自動的にスケールされます。

オブジェクトを選択せずに「最適」の操作をすると、図表全体が画面に収まるように表示されます。

➤ 「すべて」

図表全体が画面に収まるように表示されます。「すべて」の操作は、オブジェクトが選択されていても選択されていなくても、表示結果は同じです。



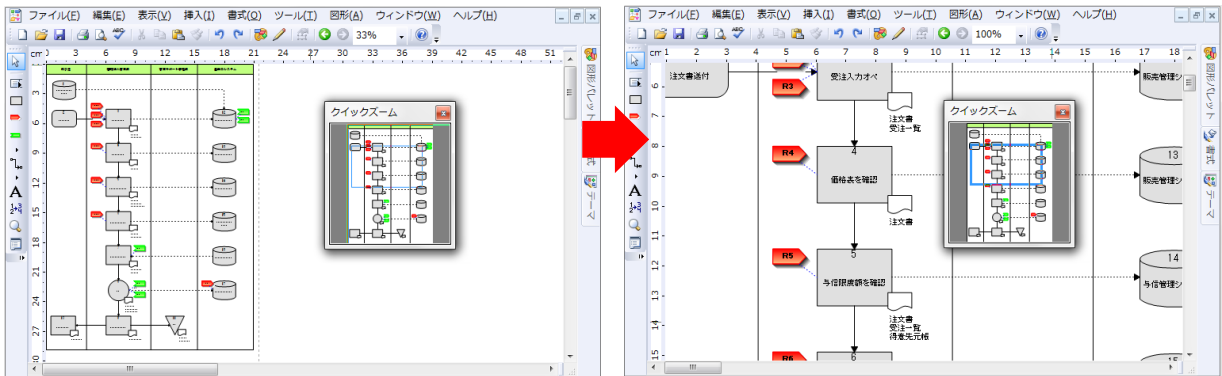
-  表示倍率を小さく指定して表示している時は、入力されているテキストも小さく表示されます。図形などを選択してテキストの編集を開始すると、入力フィールドが拡大して表示され、入力を補助します。表示倍率が50%以下のときに有効です。

2) クイックズーム

クイックズームは、クイックズームウィンドウのパン機能（表示位置の左右・上下への移動）を使って、ズームインビュー（青色の枠）で選択範囲した部分を拡大または縮小表示します。

「表示」メニューー「クイックズーム」をクリックし、クイックズームウィンドウを表示します。

虫眼鏡のマウスポインタで範囲を指定すると、選択範囲を画面全体に表示します。選択範囲のサイズによって拡大または縮小の範囲が決まります。青色の枠を再描画してズームインビューを変更するまで、表示倍率は一定に保たれます。



3) 全画面表示

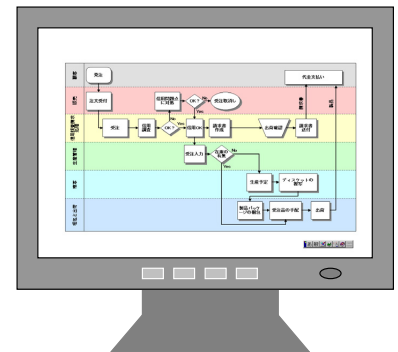
図表を画面全体に表示し、図表に注釈線を引くことができます。（下図イメージ画）


プレゼンテーションなどで、プロセス図だけを強調してみせたい時に便利な機能です。

「表示」メニューー「全画面表示」をクリックし、全画面表示にします。

全画面表示には以下の機能があります。

- ・左クリックでドラッグ：赤い線が引けます。
- ・右クリックでドラッグ：緑の線が引けます。
- ・左右両方クリックでドラッグ：黄色の線が引けます。
- ・「Delete」キーまたは「Backspace」キー：図表に加えた注釈を削除します。
- ・「Tab」キーまたは「Page Down」キー：次の図表ウィンドウに移動します。
- ・「Shift」+「Tab」キーまたは「Page Up」キー：前の図表ウィンドウに戻ります。
- ・「Esc」キー：元の画面に戻ります。



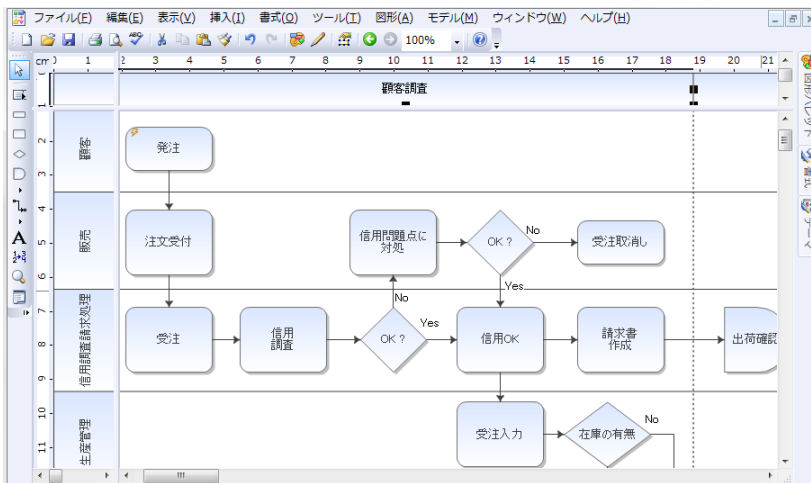
 iGrafx FlowCharter の機能では全画面表示で引いた線は残せませんが、Windows 標準の Print Screen の機能を利用して、クリップボードに全画面表示時の画像をキャプチャーすることができます。

4) ウィンドウの分割

ウィンドウを分割して表示することができます。ウィンドウを分割すると、大きな図表を扱っている場合でも図表の右端と左端を同時に確認することができ、図形を配置しやすくなります。また、分割されたウィンドウの一つを部門の幅で固定すれば、常に画面内に部門を表示することもできます。

- ① 「ウィンドウ」メニューー「分割」をクリックします。
- ② ウィンドウを縦横に分割するグレーの線が表示されます。部門とフェーズが交差している場所でクリックし、決定します。画面が4分割されます。
- ③ 「ウィンドウ」メニューー「ペインの固定」をクリックします。1つの画面のように表示されます。
- ④ 画面を元に戻す場合は、「ウィンドウ」メニューー「ペインの固定」をクリックし、固定を外します。
- ⑤ 「ウィンドウ」メニューー「分割の解除」をクリックします。

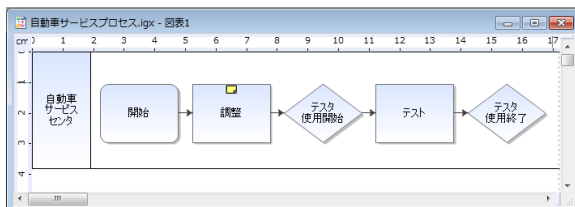
分割バーをウィンドウの外に向かってドラッグ&ドロップする、または、分割バーをダブルクリックしても同じように解除できます。



5) 表形式の利用

図表を表形式で表示することができます。表形式は、プロパティの設定内容を一覧で表示することができるので、設定内容をチェックするのに便利です。

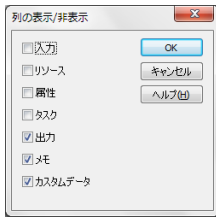
【標準形式で表示】




【表形式で表示】

A	自動車サービスセンタ	出力	メモ	
A1	1 開始			
A2	2 調整			xxxxxに注意する
A3	3 テスタ 使用開始	決定	No	
A4	4 テスト		Yes	
A5	5 テスタ 使用終了	決定	No	
			Yes	

- ① 「表示」メニューー「表」をクリックします。
- ② 「表」形式で表示されます。画面上で右クリックし、コンテキストメニューより「列」をクリックします。
- ③ 「列の表示/非表示」ダイアログボックスが表示されます。表示したい列を選択することができます。
表示する列にチェックを付け「OK」ボタンをクリックします。



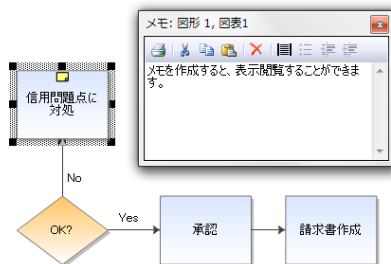
-  表形式から業務フローチャートを作成することもできます。「Ctrl」キーを押しながら「Enter」キーを押すと、新しい行（図形）が挿入されます。

2.2 メモ

◆ メモを追加する

図形ごとにメモを作成し、表示することができます。

- ① 図形を選択し、「表示」メニューー「メモ」または「F6」ボタンを押下します。
- ② 「メモ」ダイアログボックスが開きます。メモを入力すると図形に「メモ」アイコンが表示されます。



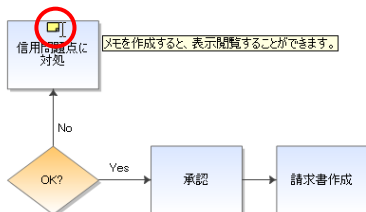
◆ メモを削除する

「メモ」ダイアログボックスを開き、メモ内容を削除します。

◆ メモツールチップ

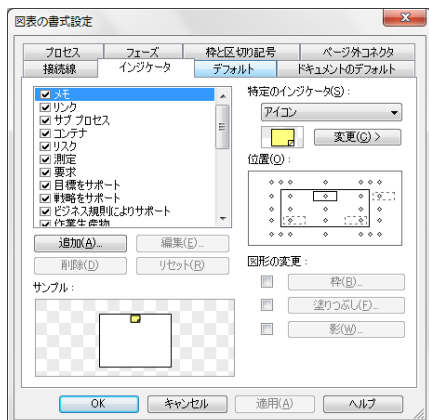
「メモ」アイコンにマウスポインタを近づけるとメモツールチップが表示されます。

「表示」メニューー「メモツールチップ」をクリックすると、表示/非表示を切り替えます。



◆ 表示位置を変更する

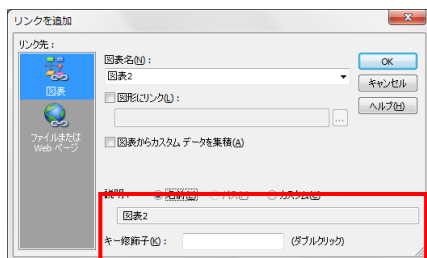
「書式」メニュー－「図表」－「インジケータ」タブで、「メモ」アイコンや表示位置を変更することができます。



2.3 リンク

図形に、他の図表や、外部ファイル、Web ページへのリンクを張ることができます。

図形をダブルクリックしたり、右クリックしてコンテキストメニューよりリンク先を選択することによって、リンクされたファイルを簡単に開くことができます。



リンクは1つの図形に複数張ることができます。複数のリンクを1つの図形に追加する場合は、キー修飾子を入れて区別させることができます。入力可能なキーは **Ctrl** (コントロール)、**Shift** (シフト)、**Alt** (オルト) の3種類です。**Ctrl+Shift** の様に組み合わせて使うこともできます。**SOX+**用図形以外は、図形をダブルクリックするとリンクされたファイルが開きます。

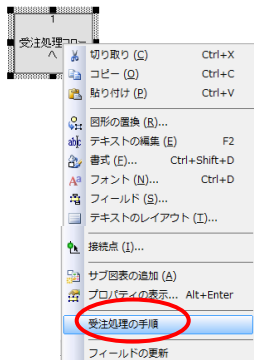
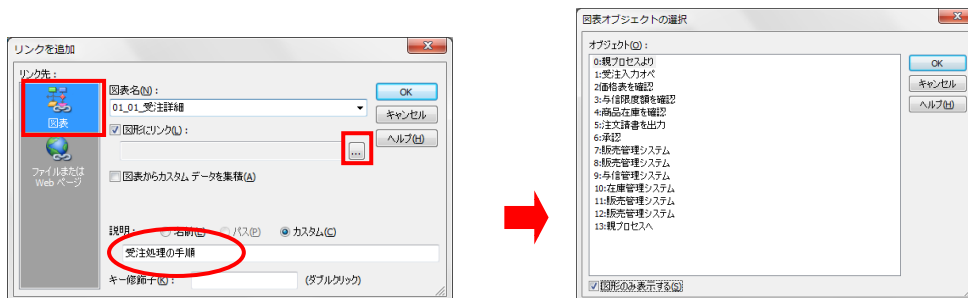
図形をダブルクリックしたときに起動する動作の優先順位は以下の通りです。

[SOX+ダイアログが開く] > [キーの修飾子が設定されていないリンクが開く] > [プロパティが開く]

1) 図表リンク

同じファイル内の別図表にリンクします。

- ① 図形を選択し、「挿入」メニューー「リンク」をクリックします。
または、図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティの表示」をクリックします。
「プロパティ」画面が表示され、画面左側の「カテゴリ」から「リンク」をクリックし、「新規作成」ボタンをクリックします。
- ② 「リンクを追加」ダイアログボックスが開きます。リンク先の「図表」をクリックします。
- ③ 対象の図表名を選択します。「図形にリンク」にチェックを入れると、特定の図形にリンクすることができます。



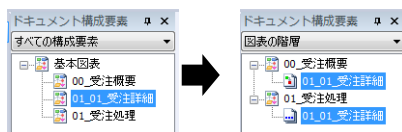
「カスタム」を選択して、入力欄にリンク先を示す名称を入れておくと、リンク図形を右クリックした時にコンテキストメニューに表示されます。

※「名前」を選択すると、図表名やファイル名が自動的に表示されます。

リンク先が「ファイルまたは Web ページ」の場合「パス」を選択すると、ファイルのパスが自動的に表示されます。

➤ エクスプローラバーの表示

「すべての構成要素」から「図表の階層」へ変更すると図表間の階層関係がわかりやすい形で表現されます。



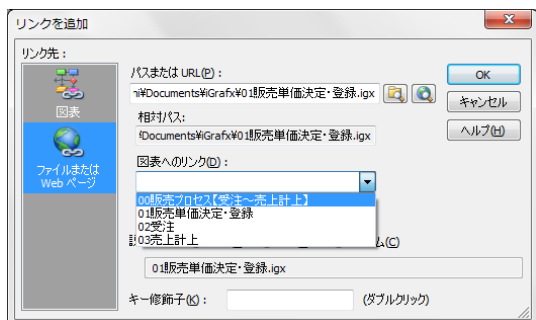
2) ファイルまたは Web ページリンク

ファイルまたは Web ページにリンクします。リンク先ファイルの種類は問いません。

- ① 図形を選択し、「挿入」メニューー「リンク」をクリックします。
または、図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティの表示」をクリックします。
「プロパティ」画面が表示され、画面左側の「カテゴリ」から「リンク」をクリックし、「新規作成」ボタンをクリックします。
- ② 「リンクを追加」ダイアログボックスが開きます。リンク先の「ファイルまたは Web ページ」をクリックします。

- ③ 「パスまたは URL」に、リンクするファイルパスを入力します。(ブラウザのファイル ボタンまたは URL ボタンをクリックし、指定することもできます。)

※iGrafx ファイルを指定した場合は、ファイル内の図表を指定してリンクすることができます。

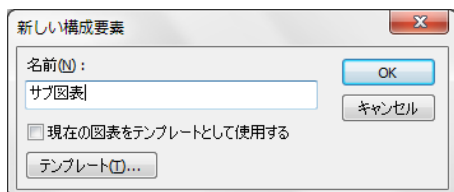


- Excel ファイルの場合は「名前つき範囲」、Word ファイルは「ブックマーク」、PowerPoint ファイルは「スライド番号」、PDF ファイルは「ページ番号」を対象とした、詳細なリンク先の指定ができます。

3) サブ図表の追加

サブ図表を追加することができます。新しく図表が追加され、リンクが張られます。

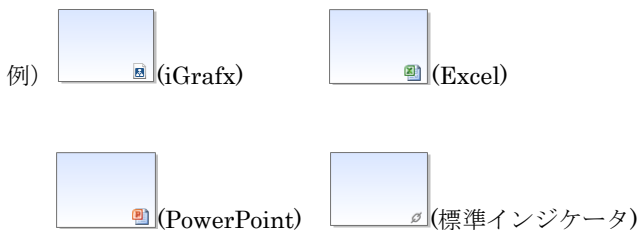
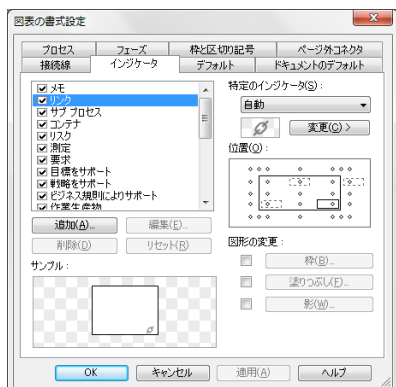
- ① サブ図表を追加したい図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「サブ図表の追加」をクリックします。「新しい構成要素」ダイアログボックスが開きます。
- ② 「名前」に任意の図表名を入力します。テンプレートを指定したい場合は、「現在の図表をテンプレートとして使用する」のチェックを外し「テンプレート」ボタンをクリックすると、「新規作成」ダイアログボックスが開き、テンプレートを指定できます。



4) リンク表示の変更

「書式」メニュー - 「図表」 - 「インジケータ」タブで、リンクのインジケータや表示位置を変更することができます。

インジケータは、初期設定では「自動」です。「自動」の場合、リンク先のアプリケーションを示すアイコンが表示されます。複数のリンクが設定されている場合は標準インジケータが表示されます。



2.4 カスタムデータ

カスタムデータとは、ユーザーが任意に図形に作成することができるオリジナルのデータ項目です。カスタムデータを作成すると、すべての図形に共通のデータ項目を持たせて、データや属性値を管理することができます。入力したカスタムデータの値は、図形フィールド機能を利用し、図表上に表示することができます。

カスタムデータは、ドキュメント、図表、部門、フェーズ、図形、テキストオブジェクト、グラフィックオブジェクト、線など、複数のオブジェクトに割り当てることができます。カスタムデータフィールドを利用すると、図表内のオブジェクトにさまざまな情報を関連付けることができます。

1) カスタムデータの作成

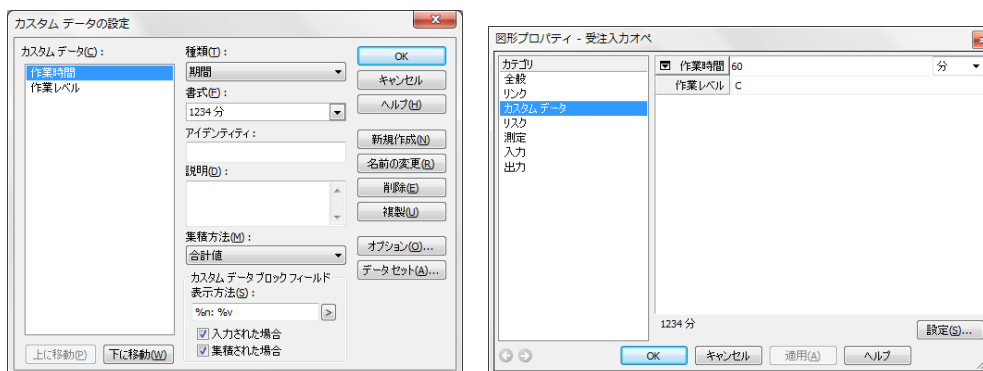
① 「ツール」メニュー「カスタム データの設定」をクリックします。

② 「カスタムデータの設定」ダイアログボックスが表示されます。

「新規作成」ボタンをクリックし、カスタムデータ名、データの種類（テキスト、期間、日付、通貨、%、数値、距離、リスト）、書式、集積方法（カスタムフィールドに表示するデータの集積方法）などを定義します。

③ 「OK」ボタンをクリックします。

図表内のさまざまなオブジェクトにフィールドが作成され、共通の書式でデータを入力することが可能になります。



2) カスタムデータフィールドの一覧表示

カスタムフィールドにデータを登録しておくことによって、データの一覧性が高まります。表形式 (P54) にして表示すると、カスタムデータフィールドの内容も一覧で参照することができます。

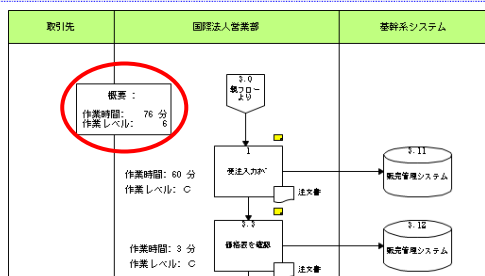
A	国際法人営業部	作業時間	作業レベル
A1	2 受入力オペ	60分	C
A2	3 価格表を確認	3分	C
A3	4 与信限度額を確認	5分	B
A4	5 商品在庫を確認	2分	C

3) カスタムデータ概要の利用

カスタムフィールドに入力したデータを、設定した集積方法に基づいて計算または集積させることができます。カスタムデータ概要を使用すると、計算または集積の結果を画面上に表示できます。

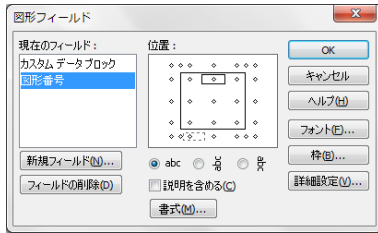
【表示手順】

「挿入」メニューー「カスタム データ概要」



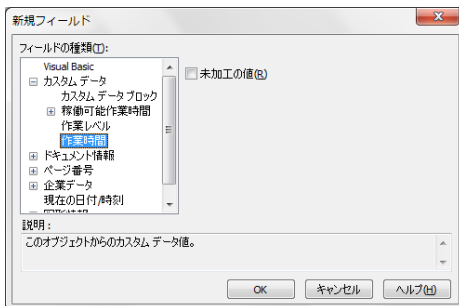
2.5 フィールド

図形の「プロパティ」ダイアログボックスに含まれるデータは、フィールドテキストとして図表に表示することができます。



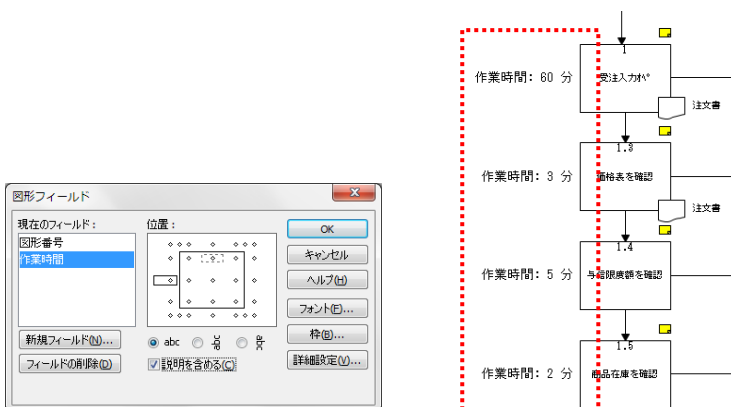
1) 新規フィールドの作成

- ① 図形を選択し、「書式」メニュー→「フィールド」をクリックします。
- ② 「図形フィールド」ダイアログボックスが開きます。「新規フィールド」ボタンをクリックします。
- ③ 「新規フィールド」ダイアログボックスが開きます。「フィールドの種類」より表示する項目を選択し「OK」ボタンをクリックします。



- ④ 「図形フィールド」ダイアログボックスに戻ります。「現在のフィールド」で項目が選択されていることを確認し、表示する位置を指定し「OK」ボタンをクリックします。

※「説明を含める」にチェックを入れると、項目名も表示されます。



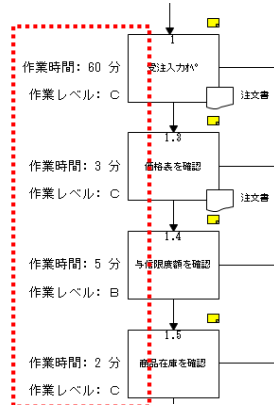
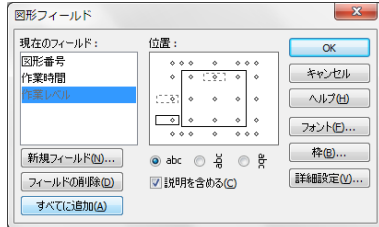
2) フィールドの追加

特定の図形に設定したフィールドを、別の図形に反映させることができます。

- ① フィールド設定した図形と、その設定を反映させたい図形を選択します。
- ② 「図形フィールド」ダイアログボックスを開きます。

共通のフィールドは黒字、一部の図形にのみ設定されているフィールドはグレーで表示されます。

- ③ 設定を反映させたいフィールドを選択し「すべてに追加」ボタンをクリックします。
- ④ 選択したすべての図形に同じフィールドが表示されます。

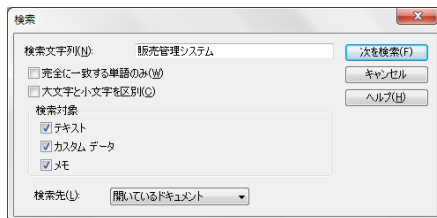


2.6 文字の検索と置換

テキスト、カスタムデータ、メモを対象に文字列を検索および別の文字列に置換することができます。

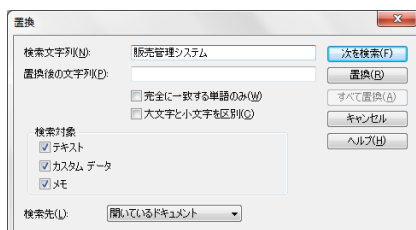
1) 検索

- ① 「編集」メニューー「検索」をクリックします。
- ② 「検索」ダイアログボックスが開きます。「検索文字列」に検索する文字列を入力します。
- ③ 検索条件、検索対象、検索先を選択し「次を検索」ボタンをクリックします。
- ④ 検索結果の値を確認します。



2) 置換

- ① 「編集」メニューー「置換」をクリックします。
- ② 「置換」ダイアログボックスが開きます。「検索文字列」に検索する文字列を入力し、「置換後の文字列」に変更する文字列を入力します。
- ③ 検索条件、検索対象、検索先を選択し「次を検索」ボタンをクリックします。
- ④ 検索結果の値を確認し、置換の場合は「置換」ボタンまたは「すべて置換」ボタンをクリックします。

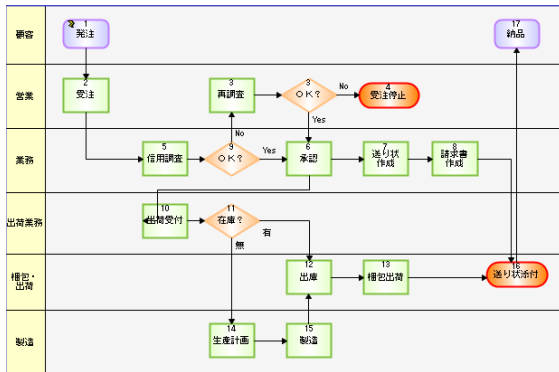


2.7 図形番号

すべての図形は、図形を特定する図形番号を持ちます。削除した図形が持つ図形番号は欠番となりますが、図形番号の並び替え機能で採番しなおすことができます。

1) 図形番号の表示

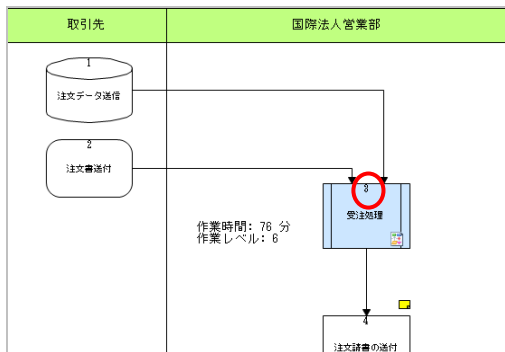
「ツールボックス」 ツールバー 「図形番号」 アイコン 「すべての図形番号を表示」 をクリックし、初期設定で非表示の図形番号を表示します。



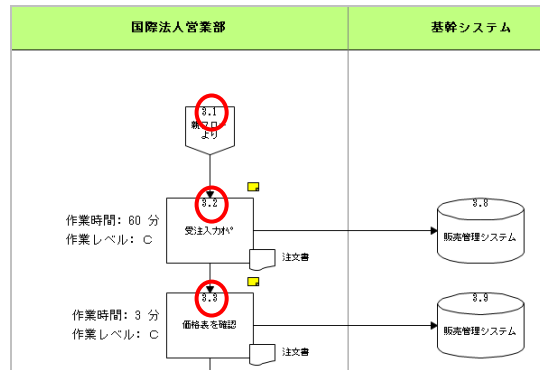
◆ 階層図表の図形番号

階層関係にある業務フローチャートでは図形番号を表示した際に、サブプロセスの図形番号はリンク元の図形番号を頭につけて管理されます。

【リンク元】

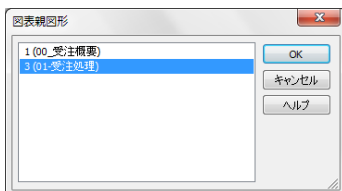


【リンク先】



➤ リンク元が複数存在する場合

「ツールボックス」 ツールバー 「図形番号」 アイコン 「図表親図形」 をクリックし、リンク元の表示を選択します。



➤ リンク元の図形番号を表示したくない場合

- ① 図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「フィールド」をクリックします。
- ② 「図形フィールド」ダイアログボックスの「書式」ボタンをクリックし、「番号の書式」ダイアログボックスを表示します。

③ 「親図形番号から開始する」のチェックを外します。



この番号書式を初期設定にしたい場合は、「これをデフォルトの番号書式にする」にチェックを入れます。変更以降に追加した図形の書式に設定内容が反映されます。

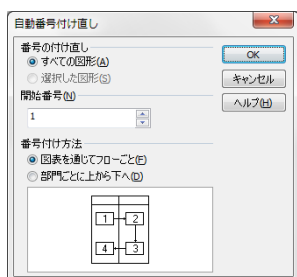
2) 図形番号の並べ替え

図形番号を指定した開始番号から順に並べ替えることができます。

◆ 自動で番号を付ける

図形の番号を自動的に付け直します。

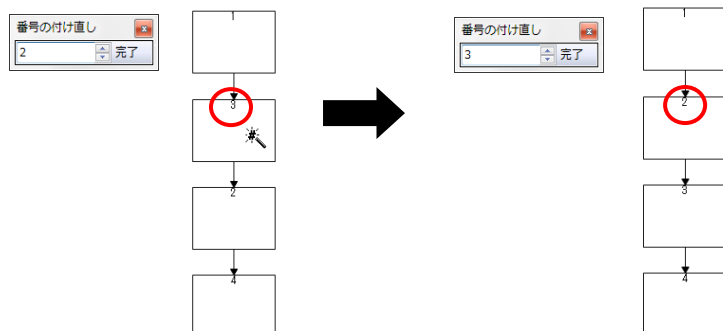
- ① 「ツールボックス」 ツールバー—「図形番号」アイコン—「自動番号付け」をクリックします。
- ② 「自動番号付け直し」ダイアログボックスが表示されます。
- ③ 「番号の付け直し」の対象、「開始番号」、「番号付け方法」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



◆ 手動で番号をつけ直す

任意の図形に意図した番号を付けます。

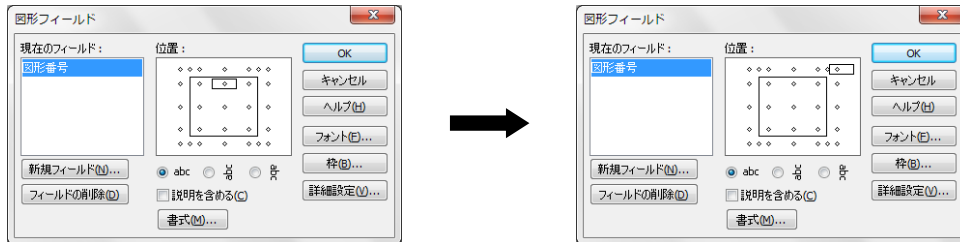
- ① 「ツールボックス」 ツールバー—「図形番号」アイコン—「手動番号付け直し」をクリックします。
- ② 「番号の付け直し」ダイアログボックスが表示されます。
- ③ 「番号の付け直し」ダイアログボックスに番号を入力し、その番号を付与する図形をクリックします。
- ④ 付与する番号が既に他の図形に存在する場合、自動的に重複しない番号にずれて採番されます。
- ⑤ 番号を付与し終えたら「完了」ボタンをクリックします。



3) 表示位置を変更する

図形番号は、初期設定では図形の上部中央に表示されますが、表示位置を変更することができます。

- ① 図形番号の表示位置を変更したい図形を選択し、「ツールボックス」ツールバー「図形番号」－「番号書式」をクリックします。または、対象の図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「フィールド」をクリックします。
- ② 「図形フィールド」ダイアログボックスが表示されます。番号を表示したい位置をクリックします。



 図形番号の「フォント」や「書式設定」も変更できます。

3. その他の機能

多言語にわたって使用する場合や複数のレイヤ（層）を重ねて作成する方法などの機能をご紹介します。

3.1 レイヤの使用

透明なシートを重ねるように、各図表レイヤにはさまざまなオブジェクトを配置することができます。

レイヤを使って次の操作を行うことができます。

- 複雑な図表を作成する時に、レイヤを使ってオブジェクトをカテゴリ別に分類して管理する
- 特定のオブジェクトを非表示にした状態で他のオブジェクトを画面に表示および印刷する
- オブジェクトの選択時や変更時の操作性を向上する。また誤って変更してしまうことを事前に防ぐ
- 背景に画像を置いてその上にフローを作成する時に、背景だけ別レイヤに置く

【レイヤ利用事例】

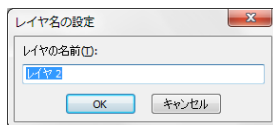
複数の業務フローを作成するときに、共通で利用できる凡例図形を別レイヤに作成した事例です。「凡例」レイヤをロックしておくことにより、フローを作成する場合に触れないようにして利用しています。



1) レイヤの追加

各図表には初期設定で1つのレイヤを持っています。

- ① 「図形」メニュー－「レイヤ」－「レイヤを追加」をクリックします。
- ② 「レイヤ名の設定」ダイアログボックスが開きます。レイヤの名前を入力し「OK」ボタンをクリックします。



2) レイヤの編集


作業ウィンドウ下部のレイヤタブを選択し、レイヤ毎に編集します。

選択したレイヤ以外に描画しているオブジェクトを編集することはできません。

◆ すべてのレイヤを編集する

レイヤタブを右クリックし、コンテキストメニューより「すべてのレイヤを編集」をクリックします。

複数のレイヤを切り替えず、すべてのレイヤに存在しているオブジェクトを一度に編集することができます。

 後方のレイヤに存在するオブジェクトを前方のレイヤに存在するオブジェクトの上に重ねることはできません。

3) オブジェクトのレイヤ移動

選択したオブジェクトを別のレイヤに移動することができます。

◆ 前後のレイヤに移動する

① オブジェクトを選択します。

② 「図形」メニュー－「レイヤ」－「1つ下のレイヤへ移動」または「1つ上のレイヤへ移動」をクリックします。

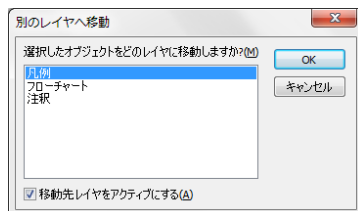
◆ 任意のレイヤに移動する

2個以上の離れたレイヤ間を移動する場合は「別レイヤへ移動」を使います。

① オブジェクトを選択します。

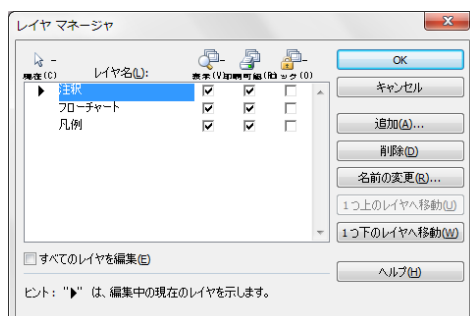
② 「図形」メニュー－「レイヤ」－「別レイヤへ移動」をクリックします。

③ 「別レイヤへ移動」ダイアログボックスが表示されます。レイヤを選択し「OK」ボタンをクリックします。



4) レイヤマネージャの利用

レイヤマネージャは、アクティブな図表に定義されたレイヤを一覧表示し、レイヤの管理、操作を行うことができます。



◆ レイヤをロックする

レイヤをロックすると、そのレイヤの表示・非表示の切り替えはできますが、変更、記録、および削除などの操作を行うことはできません。

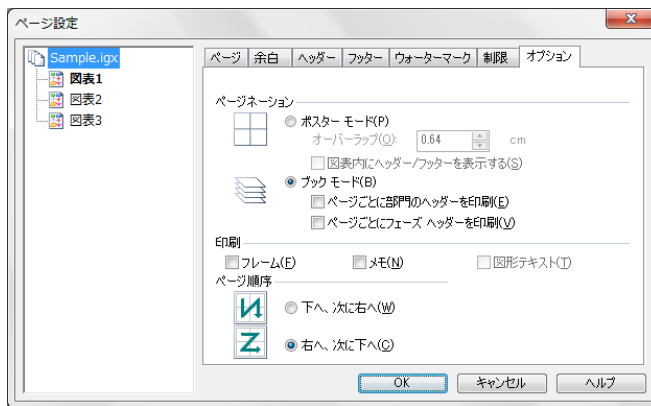
※現在のレイヤをロックすることはできません。

3.2 マスターページの使用

マスターページは、作図情報とは別に印刷時だけ反映する情報を設定できる便利な機能です。マスターページに設定した情報は、印刷または印刷プレビューをした時に、図表の各ページに表示されます。

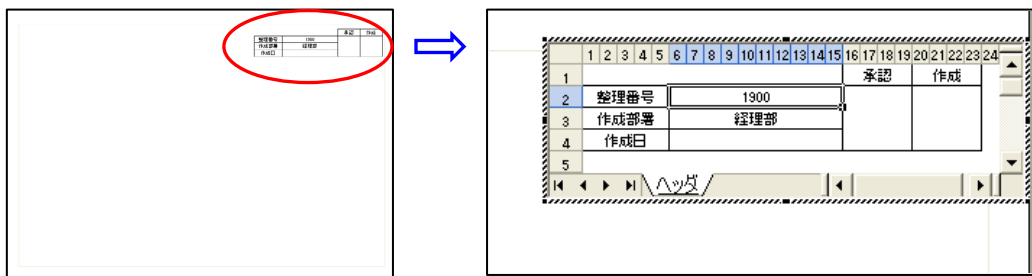
マスターページは、図表のページ設定が「ブック モード」の場合に利用できます。


- ① 「ファイル」メニューー「ページ設定」をクリックします。
- ② 「オプション」タブをクリックし、「ブック モード」をクリックします。



- ③ 「表示」メニューー「マスター ページ」を開き、要素を追加します。

マスターページには、図形、グラフィックの配置や、テキストツールを利用して様々な要素を追加することが可能です。また、「挿入」メニューー「OLE オブジェクト」を利用すると、各種オブジェクト形式で要素を追加することができます。下図は、Excel のワークシートを貼り付けた事例です。

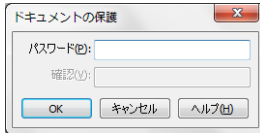


-  マスター ページ上の要素は、「印刷プレビュー」でのみ表示されます。
「印刷プレビュー」で要素の配置場所を確認し、調整します。

3.3 ドキュメントの保護

作成しているドキュメントに保護を設定することができます。

- ① 「ツール」メニューー「ドキュメントの保護」をクリックします。
- ② 「ドキュメントの保護」ダイアログボックスが表示されます。パスワードを2回入力します。
- ③ 「OK」ボタンをクリックします。

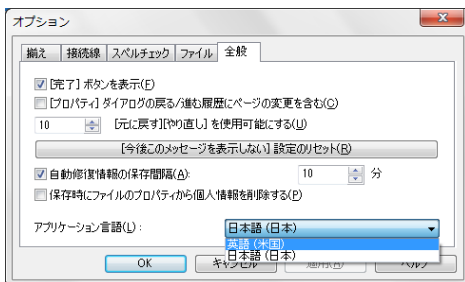


3.4 言語設定

1) アプリケーション言語切替

アプリケーションの言語を切り替えます。

- ① 「ツール」メニューー「オプション」をクリックします。
- ② 「オプション」ダイアログボックスが開きます。「全般」タブをクリックし、「アプリケーション言語」のリストから言語を選択します。
- ③ 「OK」ボタンをクリックしてから、ツールを再起動します。

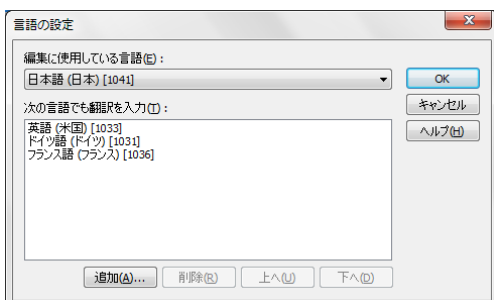


 インストール時に設定した言語の種類が表示されます。

2) 他言語の設定

図表内の各オブジェクトに他の言語を設定し、表示させることができます。他の言語を設定しておくことによって、Web形式で保存した図表を他の言語で表示することができ、グローバルな環境で図表や構成要素を共有することができます。※自動的に翻訳はされません。

- ① 「ファイル」メニューー「言語」をクリックして「言語の設定」ダイアログボックスを表示します。
- ② 「追加」ボタンをクリックして、追加したい言語を選択し、「OK」ボタンをクリックします。(複数追加したい場合は、追加が完了してから「OK」ボタンをクリックします。)

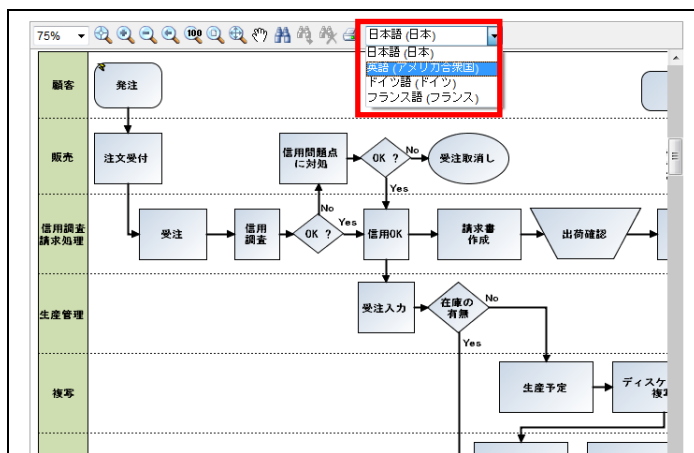


- ③ 「言語」ダイアログボックスに図表内にあるオブジェクトが表示されます。追加した言語の列に各オブジェクトの名称などを入力します。

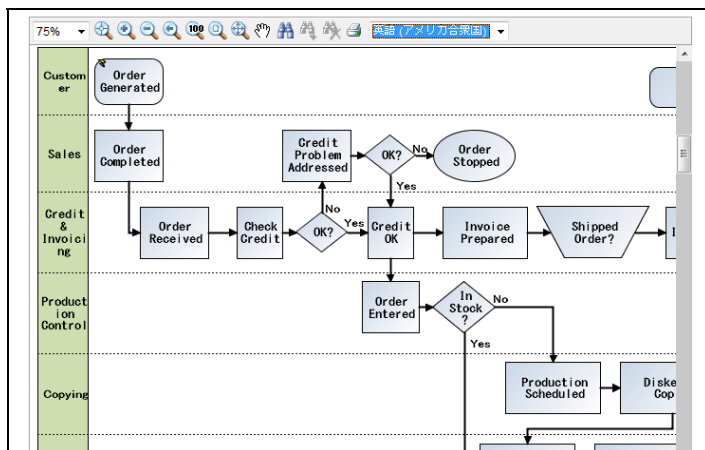
プロセス	英語 (米国) [1033]	ドイツ語 (ドイツ) [1031]	フランス語 (フランス) [1036]
Order.lex	Order.lex	Order.lex	Order.lex
顧客	Customer	Kunde	Client
発注	Order Generated	Auftrag aufgeben	Commande générée
代金支払い	Process Payment	Zahlung verarbeiten	Validation du paiement
販売	Sales	Vertrieb	Ventes
注文受付	Order Completed	Auftrag annehmen	Commande exécutée
信用問題点に対処	Credit Problem Addressed	alternative Zahlung suchen	Problème de crédit
OK ?	OK?	OK?	OK?
Yes	Yes	Ja	Oui
No	No	Nein	Non
受注取消し	Order Stopped	Auftrag stornieren	Arrêt de la commande
請求書	Invoice	Rechnung	Facture
製品	Product	Produkt	Produit
信用調査請求処理	Credit & Invoicing	Kreditprüfung & Rechnungsstellung	Crédit & Facturation
受注	Order Received	Auftrag erfassen	Commande reçue
信用調査	Check Credit	Kredit prüfen	Vérification du crédit

- ☞ 入力欄を選択すると、該当するオブジェクトが図表上で選択状態になります。元の言語の列（左の列）にあるセル上にカーソルを移動すると、オブジェクトの種類がポップアップして表示されます。（フェーズテキスト、部門テキスト、グラフィックまたはオブジェクトテキスト、など）

Web形式で保存すると、言語のドロップダウンリストが表示され、言語を切り替えることができます。（Web形式の保存についてはP76をご覧ください。）



ドロップダウンリストから「英語」を選択



第3章 印刷と保存

1. 印刷

iGrafx FlowCharter は、Windows 標準の印刷ユーティリティとドライバを使用しますが、iGrafx 特有の機能も保有しています。

1.1 ページ設定

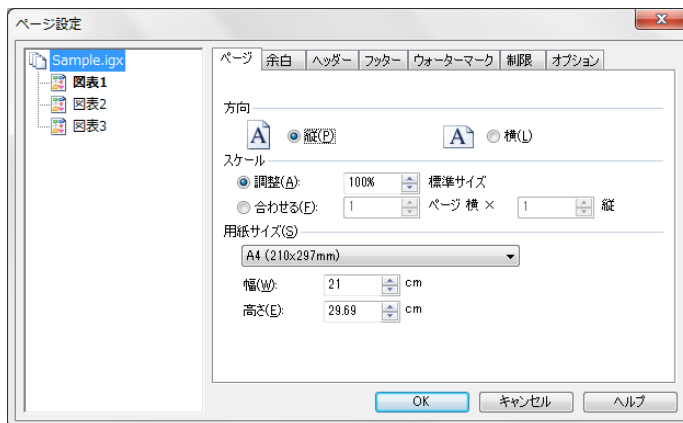
【表示手順】

「ファイル」メニュー→「ページ設定」

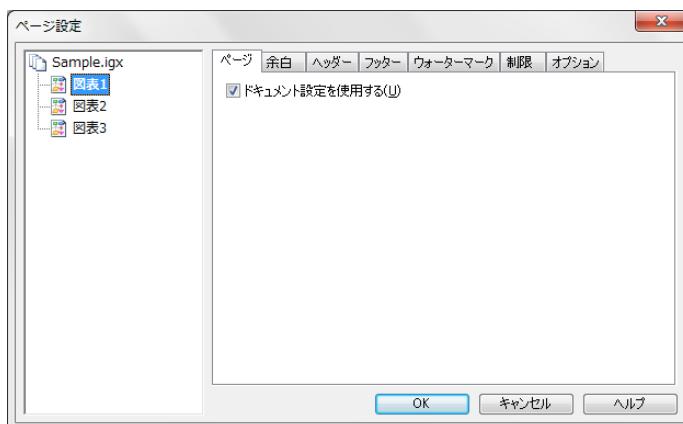
ページ設定をファイルと図表に、それぞれ設定することができます。

ファイル名を選択して行ったページ設定を「ドキュメント設定」といいます。各図表でドキュメント設定の利用を選択できます。

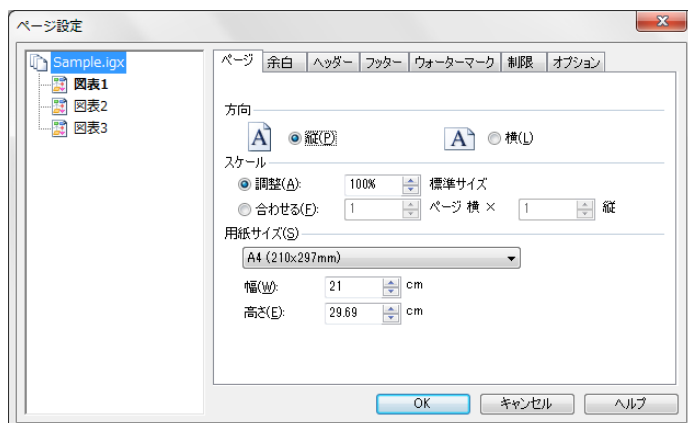
【ドキュメント設定】



【図表設定】



1) ページ



項目	説明
方向	縦 - 垂直方向に印刷します。 横 - 水平方向に印刷します。
スケール	<p>図表の大きさを手動または自動で制御できます。</p> <p>調整: パーセント値を入力して図表を拡大または縮小する割合を指定できます。スケールの初期設定は 100% です。</p> <p>合わせる - ページ数を指定して印刷内容 (図表) が自動的にスケールされるように設定できます。</p> <p>例) 横に 2 枚分の幅がある図表を 1 枚の図表として印刷したい時に、2 ページ横×1 縦となっている値を、1 ページ横×1 縦に変更することによって、1 ページに縮小されて印刷されます。</p> <p>その逆に大きく何枚かに印刷したい場合にも縦横の枚数を多く指定すれば可能です。</p> <p>ページ数を指定した後に、図表にオブジェクトを追加することにより、図表全体のサイズが大きくなった場合、改ページが自動調整され、縮小して印刷されます。</p>
幅と高さ	図表スペースの上のルーラー ガイドで指定した設定に基づいて、ページのカスタム幅と高さをインチまたはセンチメートル単位で指定します。

2) 余白・ヘッダー・フッター

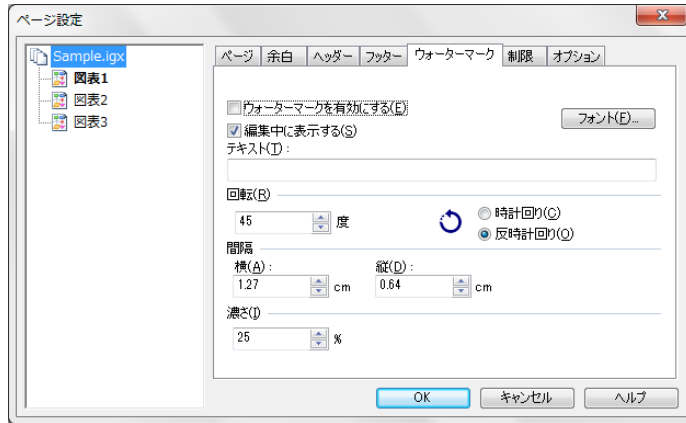
基本的には他のツールと同じような利用方法になります。

SOX+でご利用の場合は、【ヘッダー】、【フッター】のタブで、SOX+特有の機能がありますので、

「SOX+ ユーザーズガイド」をご参照ください。

3) ウォーターマーク

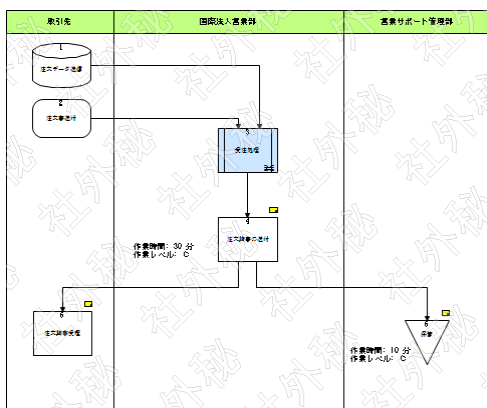
ウォーターマーク（透かし）を入れるかどうかを設定します。



項目	説明
ウォーターマークを有効にする	すべての出力形式でウォーターマークを表示します。印刷プレビューを使用した場合や、[編集中表示する] が選択されていない場合にも表示します。
編集中表示する	iGrafx で図表を編集および表示しているときにウォーターマークを表示します。
回転	度 - ウォーターマーク テキストの表示角度を指定します。 テキストの回転が 0 度の場合は、水平に表示されます。 時計回り/反時計回り： 時計回り - テキストを時計回りに指定の角度で傾けます。 反時計回り - テキストを反時計回りに指定の角度で傾けます。
間隔	図表スペースの上のルーラー ガイドで指定した設定に基づいて、テキスト行の間隔をインチまたはセンチメートル単位で設定します。
濃さ	図表の前景にウォーターマークを不透明度の強弱を変えて表示します。 濃さが強くなると、図表オブジェクトの表示が不明瞭になる場合があります。

【ウォーターマークを有効にした場合】

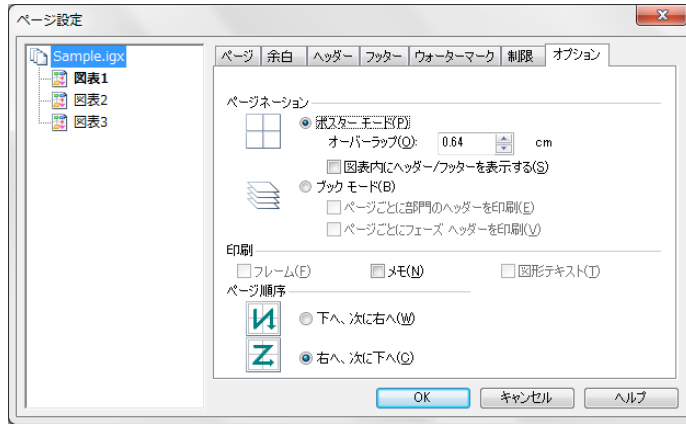
「社外秘」と透かしで表示されています。



4) 制限

ヘッダー・フッター・ウォーターマークを他のユーザーが編集できないように、パスワードを設定します。
図表ごとの設定です。

5) オプション



項目	説明
ページネーション	<p>ポスター モード - 大きな複数ページからなる図表を印刷します。出力した後、複数枚のばらばらなプロセス図を貼りあわせて 1 枚の大きな印刷物にまとめた時に利用します。オーバーラップは糊代部分になります。</p> <p>[オーバーラップ] - 1 ページあたりのオーバーラップ量を設定します。このオプションは、印刷およびストーリーボード用です。オーバーラップを 1/4 インチ以上に設定すると、印刷した複数の図表ページを貼り合わせるすることができます。</p> <p>[図表内にヘッダー/フッターを表示する] - 選択すると、図表スペースにヘッダーとフッターが表示されます。図表を Web ページとして保存するとき、Java アプレットや SVG にも表示されます。このオプションは、ポスター モードでのみ使用できます。</p> <p>ブック モード - 本として綴じることができるように、複数ページ図表を個別に印刷します。出力した図表をファイルに綴じるときに利用します。 「ページごとに部門のヘッダーを印刷」 「ページごとにフェーズヘッダーを印刷」 にチェックを入れると、ページごとに部門、フェーズを印刷することができます。自動コネクタも併用するとさらに見やすくなります。</p>
印刷	<p>フレーム - ブック モードで図表ページの周囲にフレーム枠を印刷します。</p> <p>メモ - 図形に付いているメモを印刷します。メモは、図表ページのあとに印刷されます。メモには図形番号が添付されているので、この番号を使用して図表内の図形を参照することができます。メモは、図形番号の順に印刷されます。</p> <p>図形テキスト - 上記メモにチェックを入れると使用できる機能です。メモが付いている図形のテキスト内容が印刷されます。</p>
ページ順序	<p>下へ、次に右へ - 左側の上から下へと印刷し、そのあと右側へ移動するといった順序で印刷します。</p> <p>右へ、次に下へ - 上側の左から右へと印刷し、そのあと下側へ移動するといった順序で印刷します。</p>

1.2 印刷対象の選択

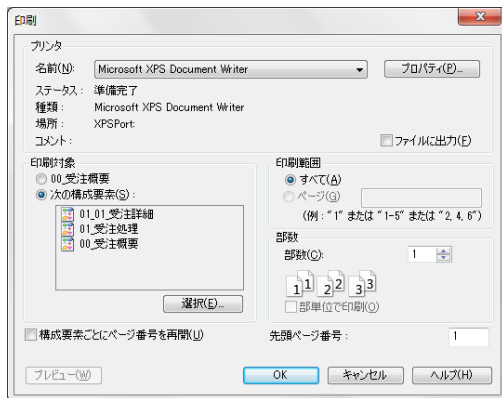
同じファイルに複数の図表が存在する場合、印刷対象を選択することができます。

【表示手順】

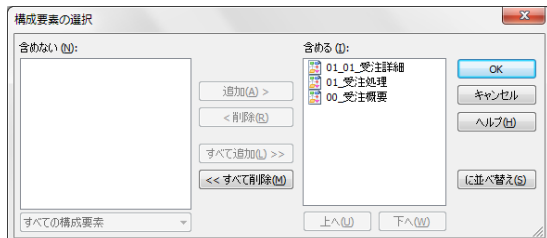
「ファイル」メニュー—「印刷」

- ① 印刷対象枠には、現在、作業中の構成要素が印刷対象として初期表示されます。

他の構成要素を印刷する場合は、「次の構成要素」をクリックし、「選択」ボタンをクリックします。



- ② 「構成要素の選択」ダイアログボックスが開きます。すべての構成要素が「含める」の枠の中に表示されています。印刷したくない要素があるときは、印刷しない構成要素を選択して「削除」ボタンをクリックします。

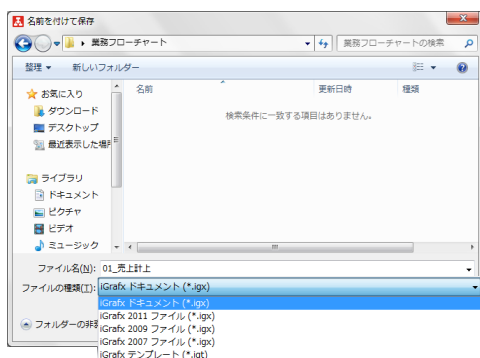


2. 保存

保存メニューには、「iGrafx 形式」での保存と「他のファイル形式」での保存があります。
その他に、異常終了から復帰するために、一定間隔でファイルの自己保存が行われています。

2.1 iGrafx形式

「ファイル」メニューー「上書き保存」または「名前を付けて保存」をクリックし、iGrafx 形式で保存します。
バージョンの古いファイルを保存する場合、「上書き保存」を選択しても「名前を付けて保存」ダイアログボックスが開きます。現在のバージョンで保存する場合は、「iGrafx ドキュメント (*.igx)」を選択して保存します。



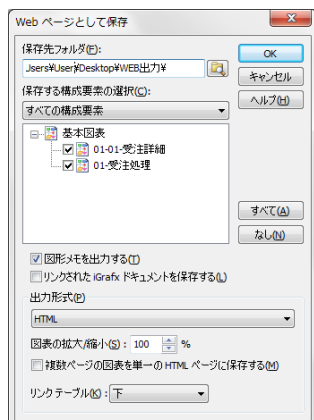
2.2 他のファイル形式

他のファイル形式で保存すると、iGrafx FlowCharter をインストールしていないパソコンでも iGrafx FlowCharter で作成したドキュメントを閲覧することができます。他のファイル形式へは、印刷プレビューに表示された状態のイメージを貼り付けます。印刷プレビューで状態を確認し調整してから出力します。

1) Web 形式

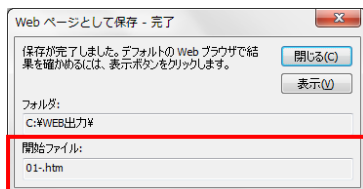
Web 形式で出力します。

- ① 「ファイル」メニューー「他のファイル形式に出力」ー「Web ページ」をクリックします。
- ② 「Web ページとして保存」ダイアログボックスは、現在表示されている図表にのみチェックがついて、表示されます。保存する構成要素をチェックし、出力形式を「HTML」「Java アプレット」「SVG」より選択します。「OK」ボタンをクリックします。

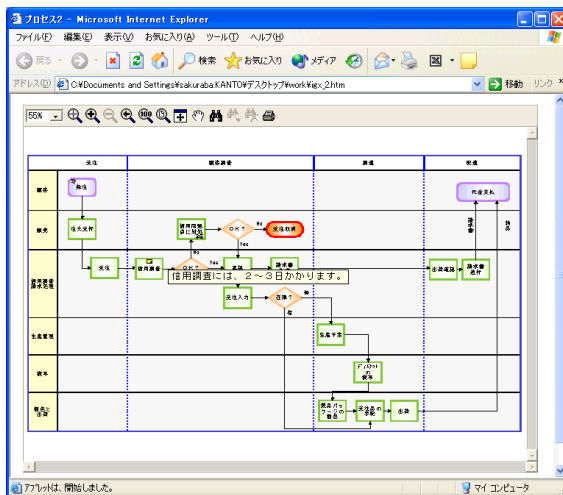


出力形式	説明
HTML	HTML ページで表示できる PNG 圧縮ビットマップとして図表を出力します。 「図形メモを出力する」をチェックすると、メモに入力した内容が図表の下に脚注のように保存されます。リンクがない場合は、ツールチップとして保存されます。
Java アプレット	Java Applet に出力します。 「図形メモを出力する」をチェックすると、メモに入力した内容がツールチップとして保存されます。 ※この形式を使用する場合、ユーザーの Web ブラウザに Java をロードする必要があります。
SVG	XML ベースの出力形式に出力します。 ※この形式を使用する場合、Adobe SVG Viewer をインストールする必要があります。

- ③ 「Web ページとして保存-完了」ダイアログボックスが表示されます。「表示」ボタンをクリックします。
「フォルダ」には複数のファイルが格納されます。図表名を、拡張子 (*.htm) ファイルとして保存しますが、図表名を日本語で表記している場合、日本語名はなしの状態で命名されます。
例) 図表名が「01_受注処理」の場合、「01_.htm」となります。



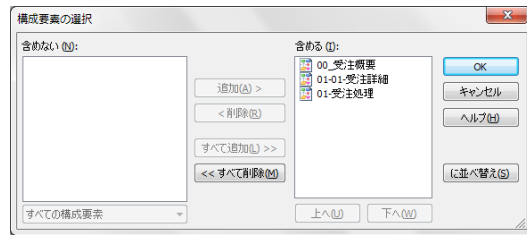
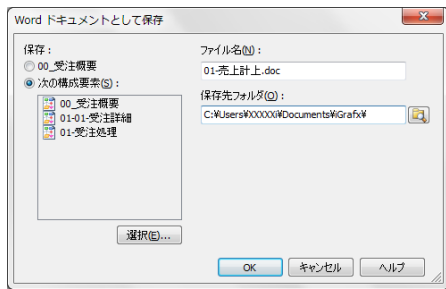
- ④ 「表示」ボタンをクリックします。



2) Word 形式

Word 形式で出力します。

- ① 「ファイル」メニュー - 「他のファイル形式に出力」 - 「Word ドキュメント」をクリックします。
- ② 「Word ドキュメントとして保存」ダイアログボックスは、保存する構成要素、ファイル名、保存先フォルダを指定し、「OK」ボタンをクリックします。
他の構成要素を一緒に保存する場合は、「次の構成要素」をチェックし、「選択」ボタンをクリックします。



- ③ 「新しいドキュメントを開きますか？」というメッセージが表示されます。
「はい」をクリックすると、Word 形式で出力されたドキュメントが開きます。

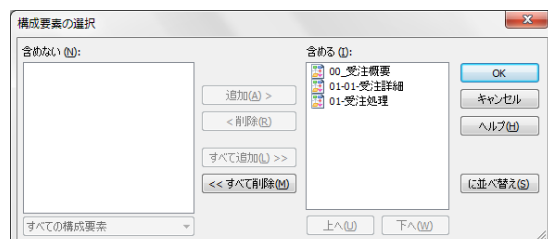
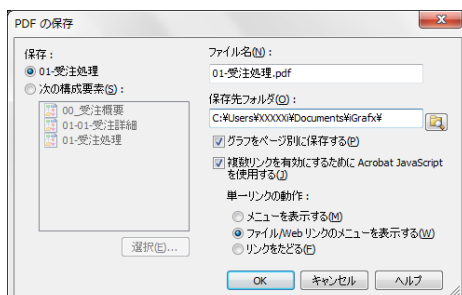
3) PowerPoint 形式

「ファイル」メニューー「他のファイル形式に出力」ー「PowerPoint プレゼンテーション」をクリックします。
以降の操作については、「Word 形式で保存する」作成処理に準じます。
スライドのタイトルには、「ページ設定」で設定した中央ヘッダーのコンテンツが表示されます。このヘッダーを設定または変更するには、「ファイル」メニューー「ページ設定」ー「ヘッダー」タブをクリックします。「中央セクション」タブに、スライドのタイトルを入力します。

4) PDF 形式

PDF 形式で出力します。PDF ファイルは、iGrafx ファイルから保存されたリンクをナビゲートすることができます。

- ① 「ファイル」メニューー「他のファイル形式に出力」ー「PDF ドキュメント」をクリックします。
- ② 「PDF の保存」ダイアログボックスは、保存する構成要素、ファイル名、保存先フォルダなど指定し、「OK」ボタンをクリックします。
他の構成要素を一緒に保存する場合は、「次の構成要素」をチェックし、「選択」ボタンをクリックします。
- ③ 「構成要素の選択」ダイアログボックスが開きます。構成要素の出力対象と出力順を設定し「OK」ボタンをクリックします。
- ④ 「PDF の保存」ダイアログボックスに戻ります。「OK」ボタンをクリックします。



- ⑤ 「新しいドキュメントを開きますか？」というメッセージが表示されます。
「はい」をクリックすると、PDF 形式で出力されたドキュメントが開きます。

2.3 Webプロジェクト

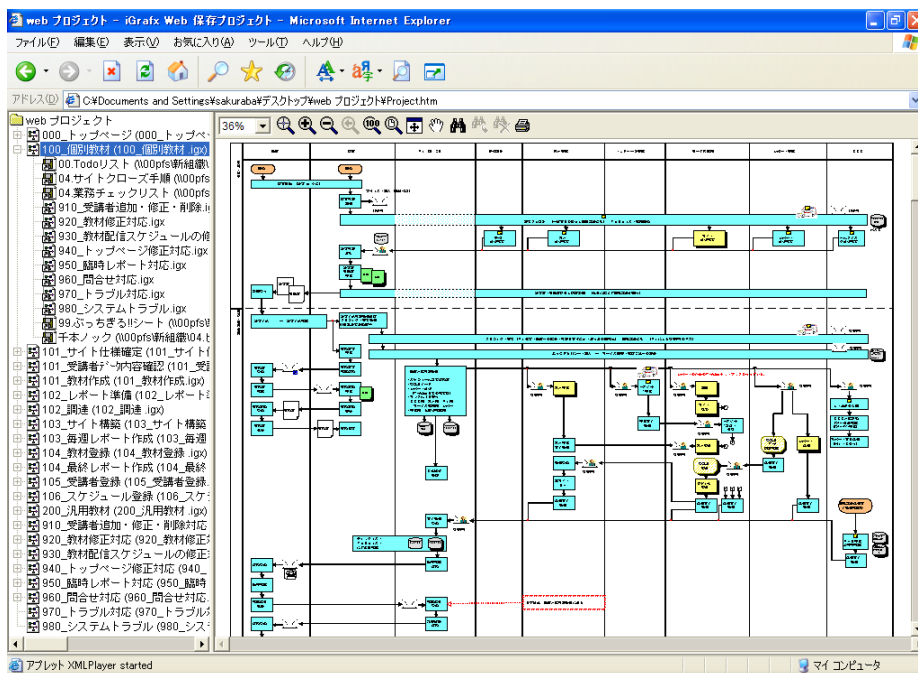
iGrafx FlowCharter では、「Web プロジェクト」を作成してファイルの管理ができます。Web プロジェクトは、特定のフォルダ ツリー（「ソース フォルダ」と呼びます）に保存された一連のファイルから構成されます。Web プロジェクトでは、プロジェクトの作成中に指定した場所（「保存先フォルダ」と呼びます）に、選択したファイルを保存することができます。

Web プロジェクトは、Web ページ保存機能と比較して、主に以下のような点で優れています。

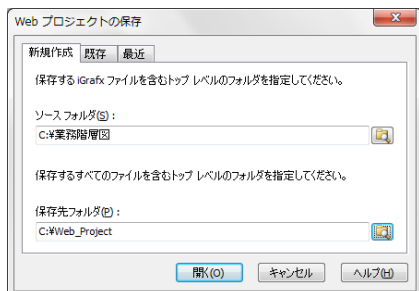
- リンクの同期ナビゲーション
- ツリー内でのリンクの表示
- リンクしたドキュメント内で構成要素の変更があった場合、ファイル リンクを自動修正


Web プロジェクトを利用する時は、以下の制限事項に注意して使用してください。

- 「Web プロジェクトの保存」は、Java アプレット形式の図表出力のみをサポートします。
- リンクしたファイルが「ソース フォルダ」の中にある場合、リンクしたファイルは保存フォルダに保存されます。
- リンクしたファイルが「ソース フォルダ」の外にある場合は、単純にリンク情報が保存されるだけで、「保存先フォルダ」にコピーされることはありません。
- プロジェクトの作成後に、「ソース フォルダ」または「保存先フォルダ」を変更することはできません。変更が必要な場合には、作成したものを一度削除して、再度作成しなおしてください。
- 1つの「保存先フォルダ」につきプロジェクトを 1つだけ作成できます。
- 「保存先フォルダ」内のファイルに変更を加えないでください。変更する必要がある場合は、「ソース フォルダ」で変更を加えて、Web プロジェクトを作成しなおします。
- Java 1.3、Microsoft(R) Internet Explorer 7 以上が必要です。

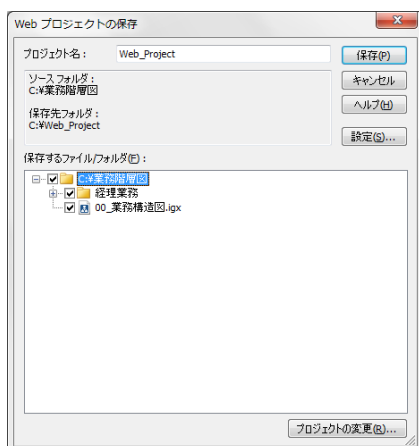


- ① 「ツール」メニューー「Web プロジェクトの保存」をクリックします。
- ② 「Web プロジェクトの保存」ダイアログボックスが開きます。「新規作成」タブで、Web プロジェクトとして保存するフォルダと保存先のフォルダを指定し「開く」ボタンをクリックします。

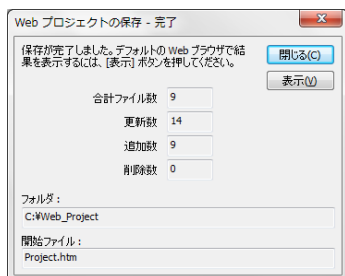


 「新規作成」タブは、プロジェクトを新規作成する場合にのみ表示されます。以降は、次画面の「プロジェクトの変更」ボタンをクリックしてこのタブを有効にします。

- ③ 「Web プロジェクトの保存」ダイアログボックスで、保存するフォルダまたはファイルを選択します。「プロジェクト名」を入力し「保存」ボタンをクリックします。



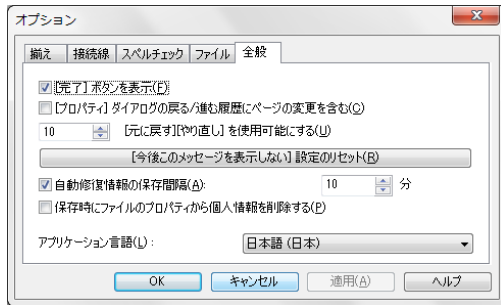
- ④ 「Web プロジェクトの保存 - 完了」ダイアログボックスが表示されます。結果をブラウザで表示するには、「表示」ボタンをクリックします。




2.4 自動保存

iGrafx FlowCharter では、システムが異常終了した際にデータを損失しないよう、一定の保存間隔で自動保存を行っています。

- ① 「ツール」メニューー「オプション」をクリックします。
- ② 「オプション」ダイアログボックスが開きます。「全般」タブの「自動修復情報の保存間隔」で保存間隔を設定します。初期設定では 10 分間ですが、保存する、しない、保存間隔について変更することができます。



-  サイズの大きなファイルの場合、自動修復情報が保存されるタイミングで動作が非常に重くなる場合があります。そのような場合は間隔を大きくするか、保存をしないようにすると、快適に利用できます。

第4章 図形集とiGrafXテンプレートの作成

複数の担当で業務フローチャートを作成する場合、統一した業務フローチャートを作成するためには、規約を制定し周知させることが必要です。ここでは規約に準じた業務フローチャートを作成するための準備として、図形集の作成とiGrafXテンプレート（雛型）について説明します。

1. 図形集の作成

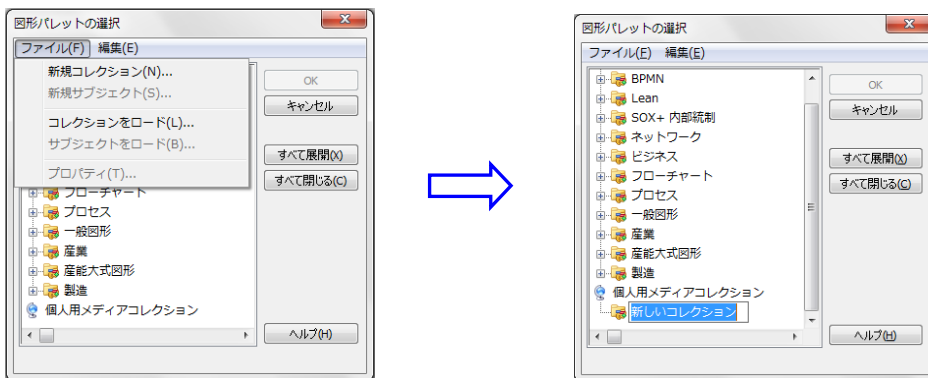
iGrafX FlowCharterには、多くの図形コレクションがあらかじめ用意されていますが、その中に使いたい図形がない時や、別々のサブジェクトに散らばっている時に、個人用メディアコレクション内にオリジナルの図形コレクションを作成し、使いやすいようにカスタマイズすることができます。

1) 個人用メディアコレクションの作成

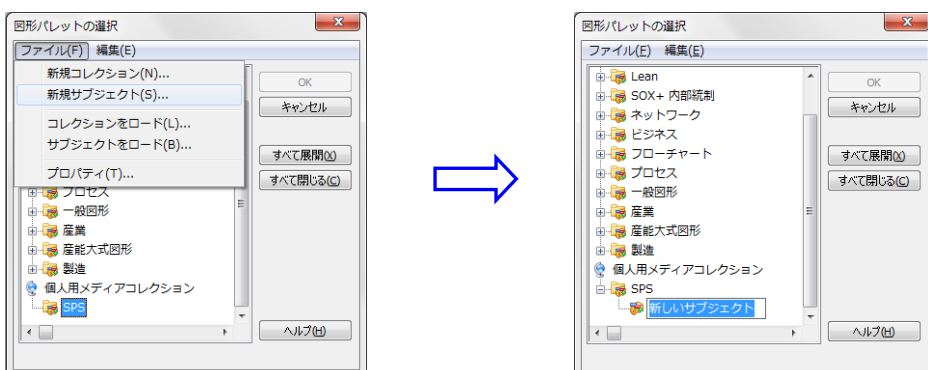
頻繁に使う図形をパブリックメディアコレクションから探す手間を無くしたり、または外部より取り込んだ画像を登録して再利用したり、利用者固有のニーズに合わせた図形テンプレートを作成することができます。

個人用メディアコレクションの登録は、下記の手順で行います。

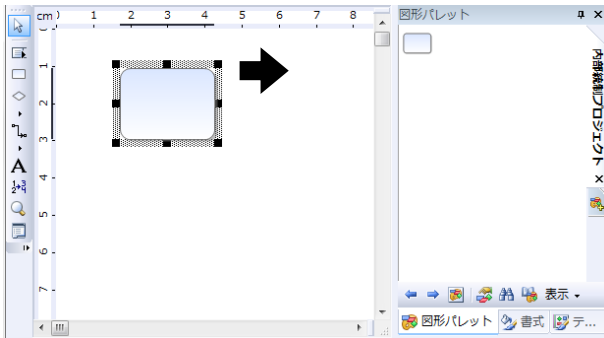
- ① 「F9」キーを押下、または「図形パレットを開く」アイコンをクリックします。
- ② 「図形パレットの選択」ダイアログボックスが開きます。「ファイル」メニューー「新規コレクション」をクリックします。
- ③ 個人用メディアコレクションに「新しいコレクション」が作成されます。任意の名称を入力します。



- ④ 作成したコレクションを選択し、「ファイル」メニューー「新規サブジェクト」をクリックします。
- ⑤ コレクションの配下に「新しいサブジェクト」が作成されます。任意の名称を入力します。
- ⑥ 作成したサブジェクトを選択し「OK」ボタンをクリックします。

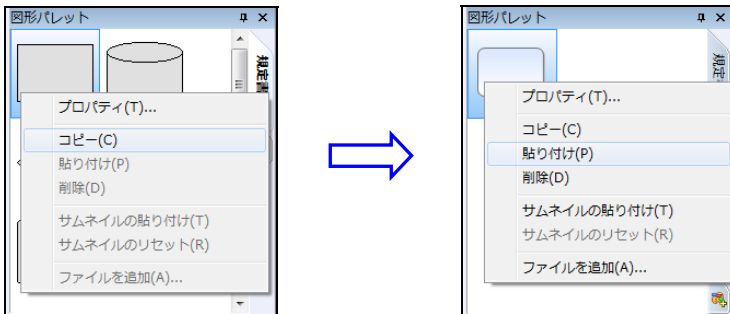


- ⑦ 図形パレットに新規サブジェクトが表示されます。フロー上に登録したい図形がある場合は、対象の図形を新しいサブジェクトへドラッグ&ドロップします。(SOX+用図形の場合は、SOX+の機能をオフにしないでドラッグ&ドロップをすると、SOX+図形の内部に不正なデータが残りますので、ご注意ください。)



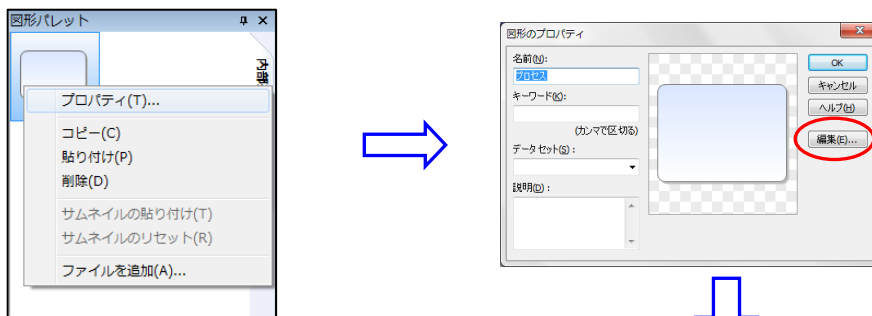
- ⑧ 別のサブジェクト上にある図形をコピーしたい場合は、コピー元の図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「コピー」をクリックします。新しいサブジェクトを表示し、サブジェクト上で右クリックしてコンテキストメニューより「貼り付け」を選択して貼り付けます。

「Shift」キーや「Ctrl」キーを押しながら一度に多くの図形を選択してコピーすることもできます。

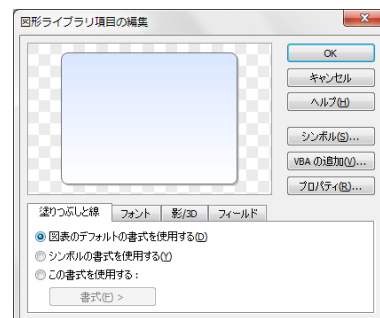


パブリックメディアコレクションのサブジェクトに対して図形を貼り付けることはできません。

- ⑨ 必要に応じて、登録した図形のプロパティを修正することができます。プロパティを変更するには、変更したい図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティ」をクリックします。



- ・ 図形の色や図形内に入力するテキストの書式を変更
：「塗りつぶしと線」「フォント」「影/3D」タブ
- ・ 図形番号などの表示位置を変更：「フィールド」タブ
- ・ 図形の大きさなどの変更：「シンボル」ボタン
- ・ 図形の名称などの変更：「プロパティ」ボタン



2) コレクションおよびサブジェクトの共有

作成したコレクション、およびサブジェクトは、別の iGrafx FlowCharter 上で読み込むことができます。

この機能を使って複数のメンバーで業務フローチャートを作成する場合に、特定のサブジェクトをメンバーに配布して、図形の情報を共有することができます。

コレクションの拡張子は「ECF」、サブジェクトの拡張子は「SBJ」のファイルとして作成されます。そのファイルを共有したい人に渡し、「図形パレットの選択」ダイアログボックスからロードします。

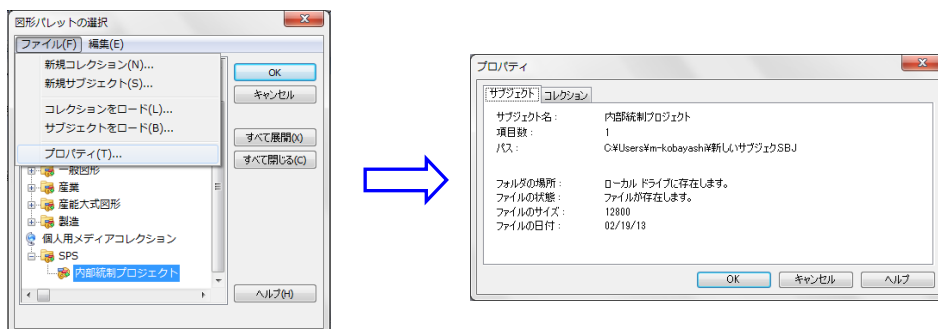
※SOX+をご利用の場合は、コレクションを配布する仕組みがあります。

詳細は「SoxPlusAdministratorKit ユーザーズガイド」をご参照ください。

◆ コレクション、サブジェクトの保存先を確認する

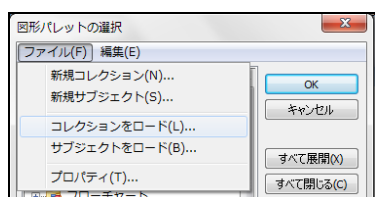
ECF ファイルと SBJ ファイルを下記の保存場所に直接配置すると、iGrafx FlowCharter を起動したときに図形パレットに表示されます。

- ① 「図形パレットの選択」ダイアログボックスで確認したいサブジェクトを選択します。
- ② 「図形パレットの選択」ダイアログボックスの「ファイル」 - 「プロパティ」をクリックします。



◆ コレクション、サブジェクトをロードする


iGrafx FlowCharter の機能で、図形パレットにコレクションをロードすることができます。



➤ パブリックメディアコレクションへロードする場合

配布するファイルはコレクション (ECF) とサブジェクト (SBJ) の2つのファイルを準備します。


- ① ロードする PC に2つのファイルをコピーします。
- ② 「図形パレットの選択」ダイアログボックスの「ファイル」 - 「コレクションをロード」を選択し、コピーしたコレクションを指定します。コレクションをロードすると一緒にサブジェクトのロードも行われます。

 iGrafx FlowCharter を閉じるまで有効です。一度閉じるとロードした図形は表示されなくなるため、iGrafx FlowCharter を開くたびにロードする必要があります。

➤ **個人用メディアコレクションへロードする場合**

ロードする側の PC にはあらかじめコレクションを作成しておく必要があります。

- ① ロードする PC にサブジェクトファイルをコピーします。
- ② 個人用メディアコレクション内の、作成したコレクションを選択します。
- ③ 「図形パレットの選択」ダイアログボックスの「ファイル」 - 「サブジェクトのロード」を選択し、コピーしたサブジェクトを指定します。

 **ロードした情報は維持されます。**

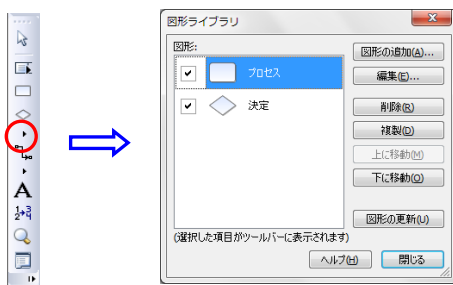
2. iGrafxテンプレートの作成

テキストのフォントサイズ、印刷の設定などを iGrafx テンプレートファイルに登録して、より書式の統一された業務フロー文書を作成することができます。図形ライブラリや線ライブラリに登録した情報を、新しいドキュメントに対して反映させる場合も iGrafx テンプレートを作成します。

2.1 図形ライブラリ

特定の図表においてよく利用される図形を登録したり、iGrafx テンプレート作成時にプロジェクト特有の図形を登録するのに適しています。図形ライブラリの操作は以下の手順で行います。

「ツールボックス」ツールバーの「その他の図形」 - 「図形ライブラリ」をクリックします。

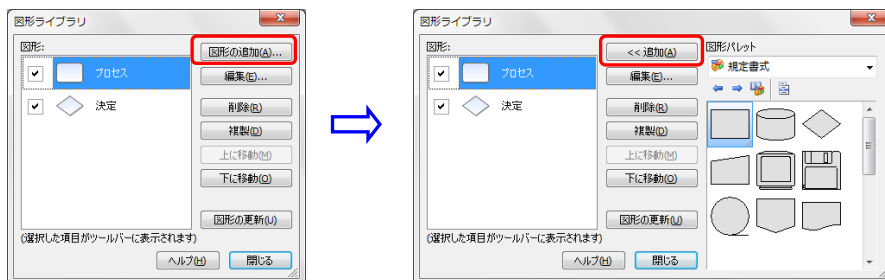


図形の左脇のチェックボックスにチェックがついている図形は、「ツールボックス」ツールバー上に表示されます。

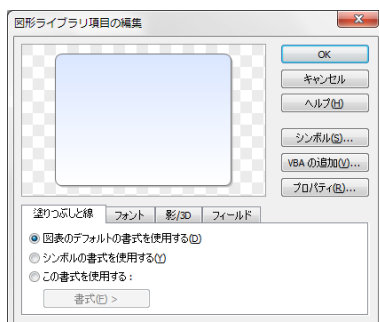
1) 図形の追加

新たな図形をコレクションから選択してライブラリに登録することができます。

- ① 「図形ライブラリ」ダイアログボックスより、「図形の追加」ボタンをクリックします。
- ② 図形パレットから登録したい図形を選択し、「<<追加」ボタンをクリックします。



2) 図形の編集

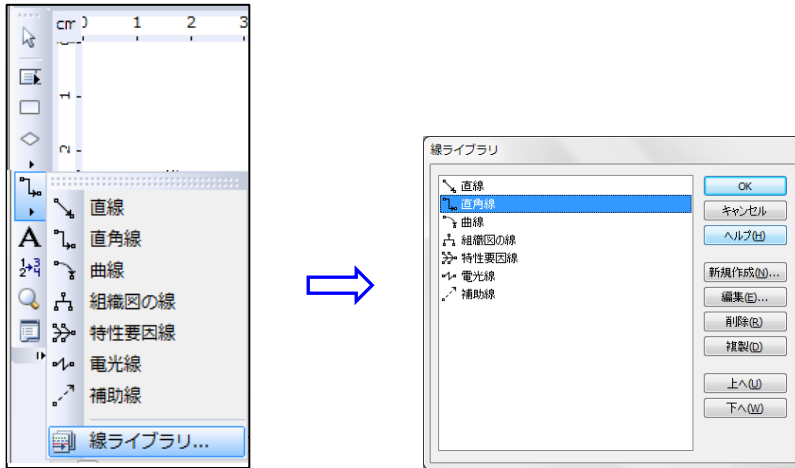


- ・ 図形の色や図形内に入力するテキストの書式を変更
：「塗りつぶしと線」「フォント」「影/3D」タブ
- ・ 図形番号などの表示位置を変更：「フィールド」タブ
- ・ 図形の大きさなどの変更：「シンボル」ボタン
- ・ 図形の名称などの変更：「プロパティ」ボタン

2.2 線ライブラリ

特定の図表においてよく利用される線を登録したり、テンプレート作成時にプロジェクト特有の接続線を登録するのに適しています。線ライブラリの操作は以下の手順で行います。

「線ライブラリ」は「ツールボックス」ツールバーの「接続線」ツールをクリックします。



1) 線の追加

- ① 「線ライブラリ」ダイアログボックスより「新規作成」ボタンをクリックします。
- ② 新しい線ライブラリ項目の「名前」を入力し、線経路の種類を選択します。
- ③ 接続線のルールを確認し、線のスタイルを変更したい場合は、「図形のデフォルトスタイルを使う」のチェックをはずすことにより、スタイル編集が可能になります。



必要に応じてグラフィックを線に添付することも可能です。

新規作成した項目は、「接続線」ツール上に表示されます。

2) 線の編集

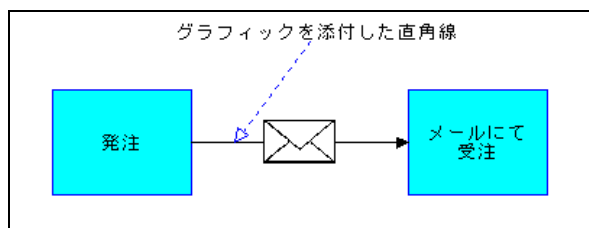
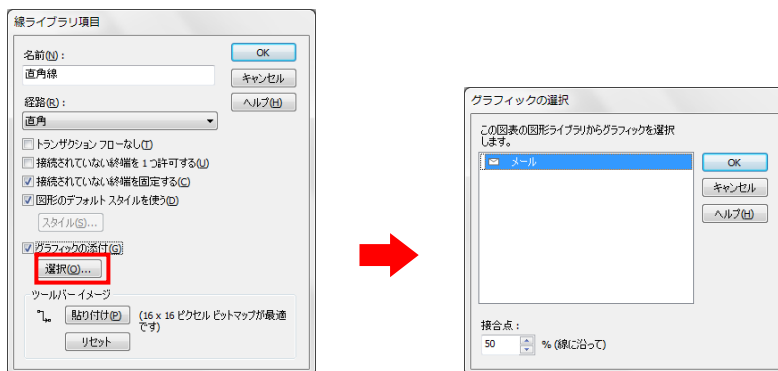
- ① 「線ライブラリ」ダイアログボックスより「編集」ボタンをクリックします。
- ② 新しい線ライブラリ項目の「名前」を入力し、線経路の種類を選択します。
- ③ 線のスタイルを変更したい場合は、「図形のデフォルトスタイルを使う」のチェックをはずすことにより、スタイル編集が可能になります。

3) 線ライブラリ項目にグラフィックを添付する

グラフィックを線ライブラリ項目に添付すると、その線スタイルを使用して図形を接続するたびにそのグラフィックが表示されます。

※ 前提条件 添付するグラフィックは、あらかじめ図形ライブラリに登録されている必要があります。

- ① 「線ライブラリ項目」ダイアログボックスより「グラフィックの添付」チェックボックスをクリックし、「選択」ボタンをクリックすると「グラフィックの選択」ダイアログボックスが表示されます。
- ② 線に接続したいグラフィックをリストより選択して「OK」ボタンをクリックします。



2.3 iGrafxテンプレートに定義する項目

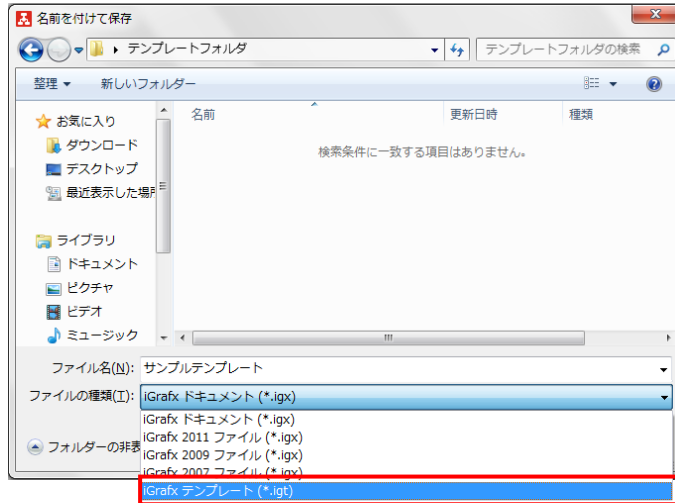
iGrafx テンプレートを作成する際には必要に応じて、以下の項目の初期値を定義します。

- 部門の方向、および書式の初期値 (P20、P 48)
- フェーズの書式の初期値 (P56、P 49)
- カスタムデータの設定 (P59)
- グリッドのスペースの変更 (P42)
- 図形ライブラリ、接続線ライブラリのカスタマイズ (P86)
- 各オブジェクトの書式の初期値 (P51)
- 印刷時のルール(サイズ、ヘッダー、フッター情報の統一、ブックモードなど) の定義 (P71)
- インジケータ (メモやファイルのリンクを示す印) の設定 (P51)
- ページ外コネクタの自動コネクタ利用の有無 (P50)

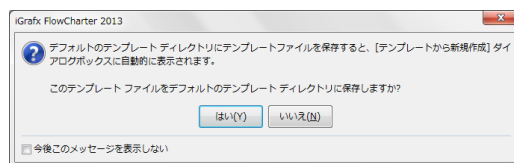
1) iGrafx テンプレートファイルを保存する

iGrafx テンプレートとしてのファイルの保存は、以下の手順で行います。

- ① 「ファイル」メニューー「名前を付けて保存」をクリックし、ファイルの種類から「iGrafx テンプレート (*.igt)」を選択し、「保存」ボタンをクリックします。



- ② iGrafx テンプレートとして保存すると、以下のメッセージが表示されます。



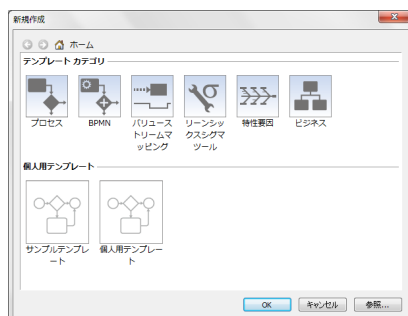
「はい」ボタンを選んだ場合は、保存中のファイルを iGrafx FlowCharter の個人用テンプレートを保存するフォルダの中へ保存されます。(ファイルの保存場所として指定した場所には保存されません。)

「いいえ」ボタンを選んだ場合は、ファイルの保存場所として指定した場所に保存されます。(個人用テンプレートを保存するフォルダの中へは保存されません。)

2) iGrafx テンプレートを利用する

個人用テンプレートは「ファイル」メニューー「新規作成」から開くことができます。

テンプレートから開いたファイルは、テンプレートファイル (拡張子が「*.igt」のファイル) ではなく、iGrafx テンプレートに定義した書式が反映されている新規ドキュメント (拡張子が「*.igx」ファイル) として開きます。



3) iGrafx テンプレートを共有する

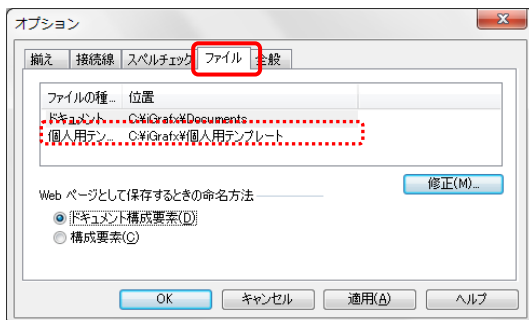
複数メンバーで業務フローチャートを作成する場合に、iGrafx テンプレートをメンバーで共有することができます。作成した iGrafx テンプレートファイルをメンバーに配布します。メンバーは配布された iGrafx テンプレートファイルを適切なフォルダに格納し、その iGrafx テンプレートを基に新規図表を作成します。

※ SOX+をご利用の場合は、コレクションと同様に SoxPlusAdministratorKit を利用して iGrafx テンプレートを配布する仕組みがあります。詳細は「SoxPlusAdministratorKit ユーザーズガイド」をご参照ください。

◆ iGrafx テンプレートの保存先を確認する

個人用テンプレートフォルダの位置は、以下の手順で確認できます。

- ① 「ツール」メニューー「オプション」ー「ファイル」タブをクリックします。
- ② フォルダ位置が表示されているので、確認します。



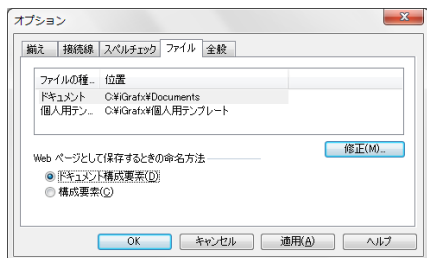
◆ iGrafx テンプレートを格納する

作成した iGrafx テンプレートファイルをメンバーへ配布します。メンバーは配布された iGrafx テンプレートファイルを、個人用テンプレートフォルダに格納します。

- ① 個人用テンプレートフォルダを開き、配布された iGrafx テンプレートファイルを格納します。(テンプレートフォルダ位置については、「◆iGrafx テンプレートの保存先を確認する」をご覧ください。)
- ② iGrafx FlowCharter を再起動します。

4) 個人用テンプレートのディレクトリを変更する

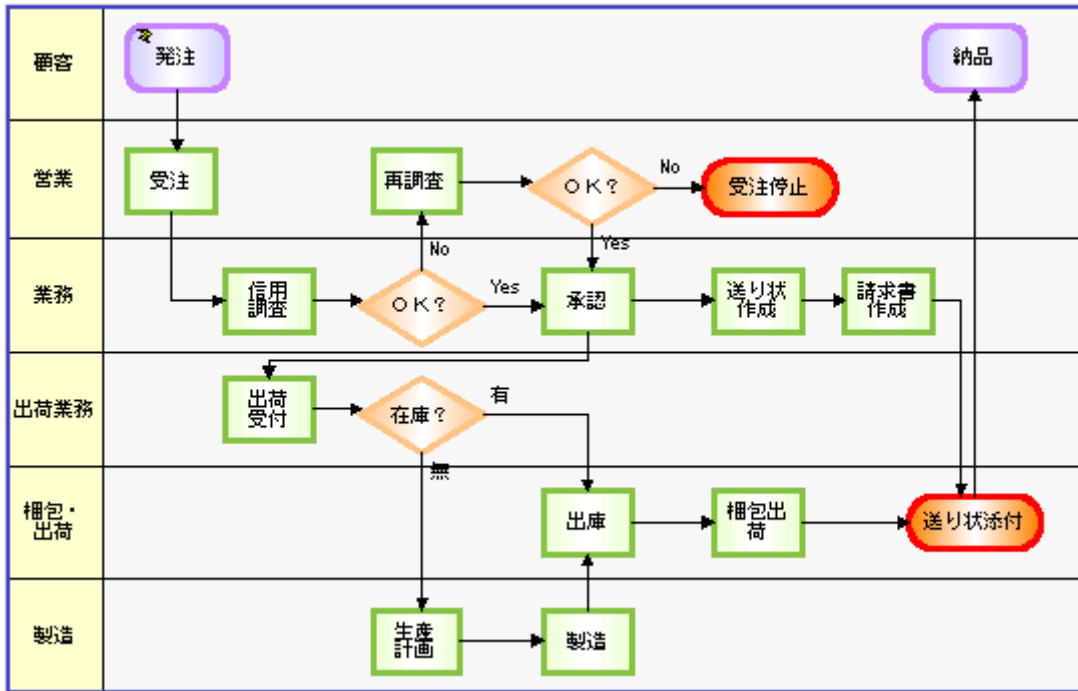
- ① 「ツール」メニューー「オプション」ー「ファイル」タブをクリックします。
- ② 「ファイルの種類」の「個人用テンプレート」をご確認ください。必要があれば「修正」ボタンにて任意のフォルダに変更することができます。



第5章 練習問題

1. プロセス図表を作成する

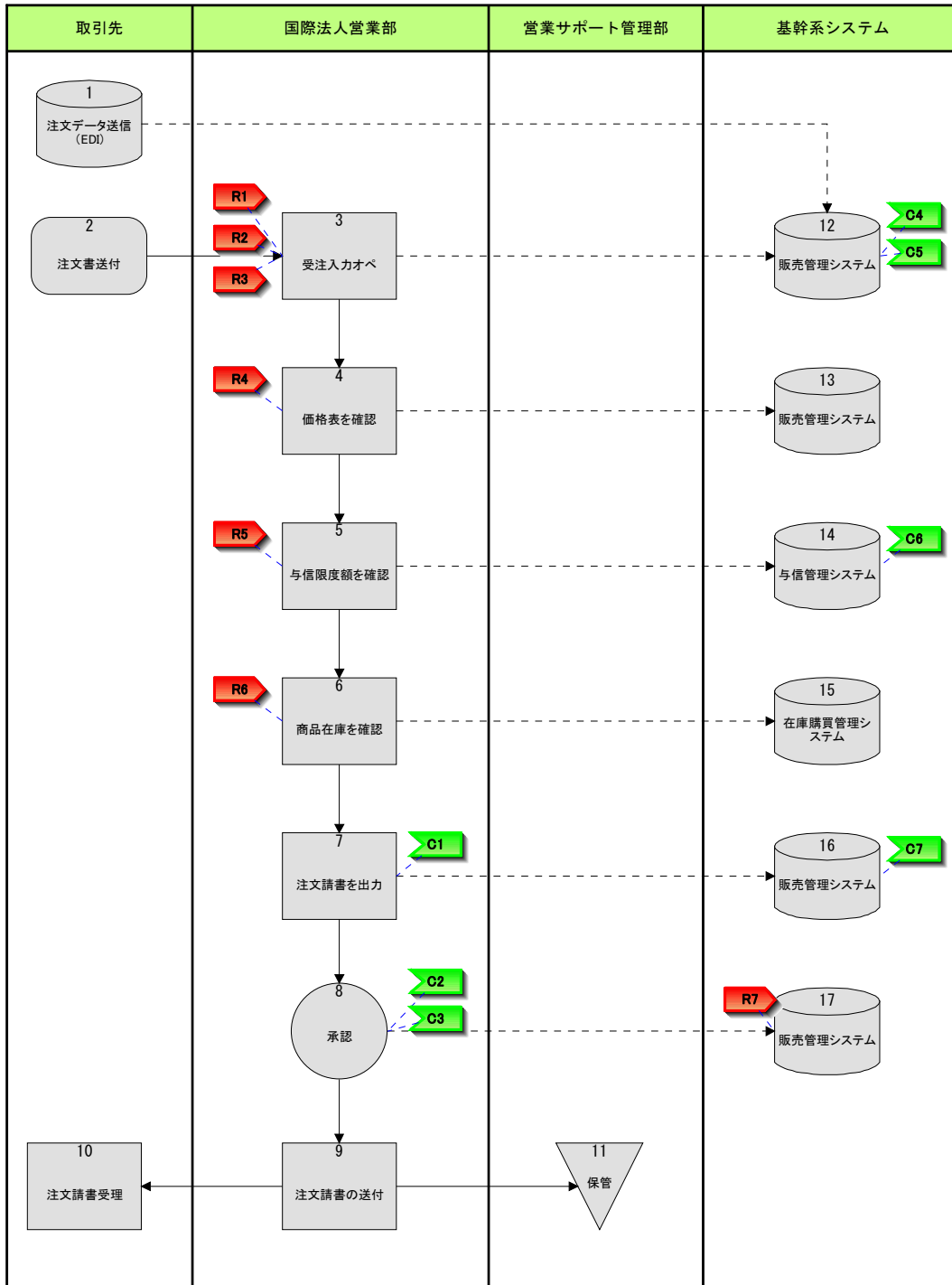
これまでに学習した内容をフルに活用して、以下のフローを作成してください。連続で図形を追加する、または接続線を引ながら図形を追加するなど、早く、確実にフローを書く技術を練習しましょう。



2. SOX+用フローを作成する

図形パレットの中のSOX+内部統制の中の規定書式の図形を利用して、以下のフローを書いてみましょう。

(SOX+トレーニングを受講されている場合の練習問題です)





iGrafx®

SPS

Enabling Process Excellence.™